

世界市場に關係あるものは、それ等の生産方法、販路、消費等の關係を明瞭に描きだすべきである。(更に發展過程、消費關係をも加へ得れば可)

三六六

第三に日本國內に於ける全産業、資本主義的生産その他大量的生産が行はれて販路が—生産消費關係が全国的にわたつて居るものは假令輸出入關係はなくとも、その姿を明瞭に示すべきである。殊に重要なのはその移動關係—原料、加工、精製、配給—と輸送組織等。この様な試みは教科書に於いては全然なされて居ない。例へば出版—殊に新聞産業の如きは全然觸れて居ない。セメント、ビール等も同様。

日本産業地理と云ふ立場から見ても、大體氣のついた點は右の様である。之を要するに日本産業地理は、日本の資本主義的生産關係の姿—それは現在ではカルテル化、トラスト化高度の獨占形態即ち帝國主義的形態—を明かにするのが目的でなければならぬ。産業は資本投下、資本形態の上から統一さるべきであると思ふ。翻つて文部省の地理教科書を見るに、この點に於いて極度に曖昧、不徹底であり、且統一的記述を缺いて居ると云はなければならぬ。

#### 第四 地方地理の理解

私は文部省の日本地理の理解を一應検討した。文部省の地方地理觀は、無論その日本地理觀から割り出したものであらうと思ふが、左に簡單ながら考察の勞を取つて見よう。

第一は地方區劃の問題であるが、教科書には第一「日本」に於いて、便宜十一地方に分けると云つて居るが、これは誤りだと思ふ。便宜上で勝手に分けられるものではない。地勢的理由とか、産業的理由とか嚴たる理由が存在せねばならぬ。従つて行政區域も既定的なものと云ふ見方でなく、理由をどこかで何等かの方法に依つて明かにする要があると思ふ。

一番目立つ缺陷は地方地理觀がないと云ふ事である。換言すれば、日本の一地方を便宜上區切つてその區域と地勢と産業と交通と都邑とを記述したに過ぎないのである。バリの寫眞を何枚繼ぎ合はせてもバリの直觀は出來上がらな

す。

日本を勝手に分割して、その地勢、産業交通、都邑を述べた所で、それは日本地理でもなければ地方地理でもない。それを繼ぎ合はせたからとて、日本の地理が出來上るものではない。文部省が、その地理ならざる地理を提供し、括然として怪しまざるは又どうした事であらう!

地方地理の記述の仕方に二つあると思ふ。その一は、地方の独自の地理性を以て中心的に記述する仕方と、他の一つは日本全土との關係—全體と部分との關係に於いて見た地理である。しかし無論文部省の場合は前者は成立しない。文部省の取り得る態度は後者のみである。後者の場合に於いても尙二つの方法がある。全国的立場から常に統一するのと、その逆に地方的地理を全国的に關係せしめるのがそれである。勿論それ等は又産業地理、經濟地理、政治地理、等々の人文地理或ひは地勢地形の地文的地理の夫々の立場から統一が成り立つのである。その何れであるにせよ、日本地理が背後の中心概念でなければならぬ。しかるに文部省はこの事を殆ど考慮に入れて居ない。否さうした方法觀を缺いて居る。これが地理觀皆無であると云ふ所以である。

文部省が持つて居る日本地理觀からすれば、どんな地方地理が出來上らねばならぬであらうか、私は老婆心からその事を考へて見よう。日本産業地理が文部省の目的とする地理教育であるとするならば、日本の個々の地方地理もその觀



點から統一されてしかるべきであらうと思ふ。之を逆に云へば、個々の地方地理は日本産業地理の具體化、詳細化でなければならぬと思ふ。(勿論この關係の逆、即ち個々の地方地理に出發して、それを綜合したものを日本地理に形成せしめてもよいと思ふ)この場合は無論、地勢—山川沿海湖沼等は産業的觀點に従屬せしめて差支へないが、例へば關東地方の地勢を説く場合にも、よく他地方との關聯、全日本との關聯を忘れてはならないと思ふ。河川の利用率などは關東地方は全國的見地からはいかと云つた事が絶えず取り扱はれなければならぬと思ふ。産業交通に至つては一層その必要がある。

特に問題にしたいのは、地理書の都邑の取り扱ひ方である。何故特別に都邑の項を設けるのであらうか？この事はそのよし悪しは別にしても兒童達に理由を明示すべきだと思ふ。都邑の見方も地理的に色々あるし又同じ立場から見ても種々な都市が存在して居る。例へば大阪と東京とでは大きさや外形は似て居るが性質は異なる。京都と横濱とは一層著しい性質的相違がある。又同じ關東地方内の都市でも鎌倉と平塚では全然發生的に相違して居る。そこで産業地理の見解から云へば近代都市が目標になるであらう。しからば、どこかで近代都市の性質に就いて一言なかるべからざる筈だがどこにもない。

こんな具合であつたら日本をいくつに分けたつて同じ事で、一向日本地理にはならない。日本ではどの地方がどう云ふ性質から國家的に重要であるとか、該地方の某都市は斯々の性質ある故かくくの點から地理的に記憶する價值があると云ふ様な事は藥にしたくても求められない。日本の重要さ如何が全然ハッキリしないと共に、地方の個性ローカルカラーなどは全く引き出されて捨て去られて居る。

山の名と川の名と産物と鐵道線路と都邑を暗記する事が文部省の地方地理教育觀であるらしい。挿繪や挿圖が多少新らしくなつただけで十數年前に私達が學んだ地理と大して相違して居ないのは全く心細い次第である。これも要するに文部省が生きた日本の姿をハッキリつかんで居ないからだらう、其の本質をつかんで居ないからだらう—カムフラージュではない、カムフラージュにしては下手過ぎる、統一がない—文部省の頭を徹底的に改造しなければ血となり肉となる地理教育は望めさうもない。地理位帝國主義教育に好適な教科は少ないのだが。

## 第五 世界地理の理解

序であるから世界地理を一寸、うかゞつて見よう。

地理教育の中に人文地理、地勢地理を不統一にいゝ加減に折衷して行くと日本地理から世界地理へ移る時大きな障害にぶつつかる。即ち洲別にして行つてそれから國別にしなければならぬからである。ところが洲と國とは必然的關係はないのである。洲は國の統一體ではないのだ、洲は地形上の區分であり、國は人文的、人間社會的(政治的)區分であるのだ。現代は帝國主義諸國家の世界分割が自然的地勢と餘り矛盾を起して居ないからいゝが、昔の元の全盛時代或ひはローマ帝國の大版圖の時代に「世界地理」を教育したとしたり、洲から國と云ふ分け方をし、それから地勢、産業、交通、都邑などを記して行く事は出来ない。本來國家と地勢とは異つた系統の地理的要素であるのに、文部省等が平氣でいゝ加減な折衷案を得々と行つて居るのは何と云つても笑止な話だ。がさうした文部省愚弄はさておいて、國家の地理を中心にするにせよ、地形、地勢を中心にするにせよ、世界地理は日本地理より必然的に、量的に増大しなければならぬ筈である。世界の國土が日本の百倍なら兎に角、何倍か内容が増大しなければならぬし、又大國家が五つあるなら少くとも日本地理の二、三倍の記述を要する筈である。然るに事實は八十四頁から百七十四頁、日本地理記述量の



半分に達して居ないのである。して見ると日本地理の記述方法とは異つた方法を用ひたか、しからずば何等かの理由に基いて簡略法を用ひたか、いづれかである。

ざつと眼を通して見ると、記述方法には變更はないやうだ、どうやら簡略法を用ひたらしい。先きに指摘した様に日本地理記述があれ程不十分であり無統一であつたのに、その方法から更に簡略したとしたら残る内容は大抵どんなものか想像出来る。即ちより一層無價値なものである事は必定だ。

『ヨーロッパの地勢はかくくで山脈はかう、平野はどう、川はかう、産業はしかく、交通はかくの如し、その中に獨立國何々がある、その國には、こんな産業が盛で、こんな都市がある。』こんな事を記憶して何にならうか、そんな事は地理學者にだつて必要ない知識だ。我々がそんな事を暗記して居たつて何の役にも立ちはない。さう云つたものを兒童達に憶えさせようとする事は正氣の沙汰ではない。

現在日本國民教育で取るべき世界地理教育方針は、日本帝國主義を中心とした國際經濟地理か、しからずば國際經濟地理でなければならぬ。初等教育では無論前者が必要であらうと思ふ。だからとて帝國主義と云ふ言葉を用ひよと云ふのではない。激烈な國際資本戰、經濟戰の只中であつて日本國はいかに闘ひつゝあるか、そしていかに闘ふべきかを暗示しなければならぬ、地勢等は二の次でよろしい。世界に於いてどの國がどう云ふ地位にあり、日本とそれとはどういふ關係にあり、將來の傾向はいかにあるべきか、等々が中心でなければならぬ。文部省は世界地理を自ら右の如く解し又人にも一兒童にも一しか解せしむるが今日の急務ではあるまいか。

世界地理の詳細な點に就いてほじくればボロはいくらでも出るが要するに根本的方針が話にならぬのだから末梢點を云々してもはじまらない。

## 第六 總 括

小學校で生きた日本の姿―日本國家の現實を知らしめる統一的學科は地理科以外には絶対にないのである。又それ故小學校の日本地理は純科學的な、地文地理的傾向をハッキリ清算して人文地理―産業地理、經濟地理等々―を中心にするべきである。産業地理或ひは經濟地理に立つ場合には必然的に國家主義の立場に統一される。又その立場を明瞭にしなれば、日本の姿を如實に語る事は出来ない。文部省はこの立場を毫も曖昧にする必要はないのである。

私は文部省の立場が産業地理的であるとしてその上での缺陷、誤謬の二、三を指摘して置いた。しかし乍ら更に全體的に反省するならば次の點は重大な缺點であると云へる。

(1) 記述(文)が蠟をかむ様に無味乾燥である事。

(2) 兒童に親しみ易い地理的考へ方や、言葉が少しも考慮されて居ない事。

つまり全然暗記學科的傾向に墮して居る事である。もつと、どんな田舎の兒童達にも國家的精神の刺激を與へるやうな力強い文と形式を以てする事は絶対に必要である。又更に一步進んで考へるに、兒童日本地理は廣く人文地理にわたるべきではないかと思ふ。即ち假令産業を基礎にしてもその上に政治、風俗等その他の一般文化現象をも取り入れるのが至當であらうと思ふ。文部省はこの點不十分であるのみならず産業地理としても政治地理の要素が殆ど顧みられて居ないのは甚だ遺憾とすべき事である。

次に表面現象を記述するのみならず、それ等の原因、結果を可能な限り明かにする方向を取るべきであると思ふ。即ち地理的法則を歸納せしめる様にすべきだ。それらから將來に對する暗示を與へる事も必ずしも不可能ではない。又教



科書は學ぶ者に考へさせる部分を持つべきだ。地理教科書は全くさうした部分を持つて居ない。又當局が地理教育を積極的にせんとするならば—その必要は大いにある—地理映畫の組織を持つべきだと思ふ。日本の文部省がさうした方向へ侵出する意圖すら示さないのは何と云つても頭の古さ、現代日本の認識不足によると見なければならぬ。以上苦言かくの如し。

### 第三節 高等小學地理書の考察

#### 第一 高等小學地理書卷一の考察

全部が世界地理である。滿洲國が獨立國として取り扱はれて居るので發行日附を見たら昭和八年三月とある。最近刊の教科書だ。文部省が地理教育に積極的に乗り出したのだとすると甚だ慶賀すべきだと思ふ。又一讀して見てその意氣どうかはれない事もない。たしかに地理觀を一步前進させては居るやうだ、即ち國家をより多く中心的に見て居るやうである。挿圖も都市や産業が主で地勢方面のものはない、と云つても矢張り産業地理的傾向の純化—より純粹方向への前進—である。

日本を中心にして世界の産業地理を取り扱ふ場合にも矢張り統一が必要である。現代の世界の産業は主として資本主義的基礎の上に立つて居るのであるから、それ自身國際性を持つて居る。だから産業地理を徹底して行けば世界のどの國から出發しても世界的地理に統一される様になる。「産業の國際性」が世界産業地理の統一概念でなければならぬ。何故なら一度アメリカに恐慌勃發すれば半歳ならずして全世界を其の渦中に巻き込み、四年、五年依然としてその

桎梏から脱れる事は出来ないと思ふのが世界産業—經濟の現状であるからだ。

文部省高一用地理書は世界産業を説くに漸く純になつて來て居るが、未だ右の如き統一概念を持つて居ない事は誠に惜しい極みである。即ち世界に於ける個々の地方、個々の國々の産業は比較的巧みに記述されて居るが、それ等の相互の關係及び世界的關係が明確にされて居ない點は甚だ遺憾である。外蒙古が、ロシアの勢力下に……西藏がイギリスの勢力下に……と記しながら、滿洲國が日本の勢力下に……と堂々と書けないのは矢張り認識不足の故だらうと思ふ。滿洲國が日本の勢力下にあつたからとて何も變な事はない、妙に良心的になるから却つて變な感じを持たれるのである。

で若し文部省が世界地理概念を「産業の國際性」を以て統一して行くならば、國際間に生起する問題に關して自づと國民は一定の見解を持つ事が出来る様になる。少くとも該問題の根本的なものを見當づける事が出来る。従つて輿論の統一などは急速に徹底的に出来る様になるのだ。更に前途の見透しすら國民各自が持つ事すら望めないではないのだから、この方法による地理教育の効果は甚大だと云はねばならぬ。今後文部省は世界地理教育を此の方面に向つて大膽に（しかし細心に）進出せしむべきであらう。その他、都市、風俗等の人文關係は矢張り映畫等で補ふやう力をそぐべきだと思ふ。

挿圖、挿繪は新らしい都市の姿等でいゝと思ふが、しかしそれも國際關係が明瞭になつて居ない以上、好奇的、エキゾチックな感情を刺激するに止まるであらう。残念な事には、グラフ、統計が棄てられて居る事である。折角尋常科で躍進的に採用したものを高等科で捨てるのはどうか、否益々生かすべき性質のものではないか？ 詳細な點に入つたら切りはないから大體統一概念が不明瞭である事を指摘するに止めて置かう。他は尋常科の考察を参照して載きたい。



## 第二 高等小學地理書卷二の考察

三七四

一足跳びに地理科學へ入つて居る。

第一、地球。第二、地球の表面。第三、陸地Ⅱ山脈、火山、温泉、河川、湖沼、平野、地殼の變動。第四、海洋Ⅱ海水、海底、海流、潮汐、波浪。第五、大氣Ⅱ氣温、風、雨、氣候。第六、生物の分布。第七、人類。第八、國家。第九、政治。第十、教育、神社、宗教。第十一、産業一。第十二、産業二。第十三、交通。第十四、都會。

正に、龐大なる地理學大系である。この大系を僅か八十六頁の菊版書冊に収めてしまつたのだから驚く。いや呆れ果てる。

高等科二年、中學生で云へば二年生、ABCがどうやら讀める程度の小僧共に鹿爪らしい學の大系、體系を示すなんてそもく無謀極まりである。いゝ年輩の大人だつて「抑々吾等が住む地球は、太陽の……云々」と權威を以て語り出されたのでは全く面喰ふし、やがてうんざりするだらう。だから小僧共は勿論だ。教へる御本尊の教員が、地理學なんて爪の垢もカヂッタ事がない筈である。科學への憧憬など、露感した事がないのだらう。さうした客觀的事情にある所に、こんなスバラしい地理學大系を展開しようとするのは又文部省はどうした考へなのであらう。

これは科學に對する甚だしい誤解から來て居るのだらう。而してそれは科學への冒瀆である。この書の發行月日を見ると大正九年である。大正九年と云へば大戰終了前後で我が國では自然科學教育或ひは自然科學的思考の教育熱が全盛を極めた時ではなかつたらうか、この地理書の地理學的傾向への躍進はその教育思潮の產物ではないだらうか？ さうであるにせよ、ないにせよ、こゝに與へられたものは何か？ それは固定せる地理學を（地文、人文）兒童に

わ、か、る、だ、ら、うと云ふ程度に書き換へ、それと國民教育とを機械的につゞけたものに過ぎない。即ち例へば、第三、陸地を見るに「山脈」に於いて山脈を概念的に説明し、世界の山脈と日本の山脈とを述べて居る。以下火山、平野、河川皆さうした記述方法を反復して居るに過ぎない。科學は往々その記述の簡單化を許さない場合がある。兒童にわかる爲に」と云ふ事が出来ない場合がある。例へば電氣學を學習する場合に一般物理學の基礎が必要で、そのない者に電氣學を如何に分りよく與へようとしても正しく學ばしめる事は不可能である。小學校兒童に地理學を學として與へようとする事は絶対に誤謬である。完成した體系を壓縮し、簡單化して與へようとする事は誤謬である。それは只に兒童の理解力の發展性を無視して居るのみならず「兒童性無視」科學自體の學習、發展階級を無視したものと云ふべきである。科學が科學的教育法を無視するとは又甚だしい矛盾ではないか。

小學校に地理學を取り入れる所以は、地理學を學ばせるのではない事は必せり、況や地理學を知らせるのでは無論ないだらう。それはどこ迄も地理に對する科學的見解を獲得せしむるにあるのであらう。否さうなければならぬ。果して然りとせば、地球はかくあり、海洋はかくあり、陸地はかくありと説明されたる地理書は一片の死知死識のみ。何ぞ以て學と稱するを得るか。

それ故に兒童に地理學—人文、地文—教育をせんと欲するならば、私は郷土の地理科學的分析に出發すべきであると思ふ。人文的、地文的に統一されたる郷土地理こそが、兒童地理の基礎であり、又それは所謂地理學教育の基礎である。郷土地理が兒童地理學であり、それが地理の科學的學習であり、一般地理學の基礎である。凡ての科學的學科の教育は歸納的發生的に教育さるべく、演繹的方法（完成した科學の縮圖を注ぎ込む）を避けなければならぬ。又教科書に於いて、或る地理的要素を抽出し、（その抽出されたもの、體系が、學をなすのであるが）その下に世界、日本を並列的に置



いて居るのは一體何事であらうか。

ヒマラヤ山脈と日本の飛騨山脈とを、山脈と云ふ地理要素の下に對立的に結びつける學問的、科學的理由は一體どこにあるか？ 富士山を日本人の一つの誇りとして外國の山に對立せしめる事は意義があつても、それは感情的ないしは道德的意義であつて何等科學的的教育の上には必要のない事である。形而上學者は、利根川に個性を認めるかも知れぬ。それは世界に於ける唯一の川で二つとはない。それ故「川」と云ふ概念で統一する事を許さぬと主張するかも知れぬ。しかし、自然科學ではそんな形而上學は有害無益だ。

文部省の取り扱ひ方は全く逆である。事實から出發して概念に到達すべきを概念から事實を説明して居るのである。他の學科に於いてはとも角も、これは自然科學的な學科に於いては誤つた方法である。これは學を知らせやうとする事、國民教育と云ふ目的を機械的に結合したからであつて、かゝる二兎を追ふ式の教育觀は有害無益の代ものである。速に清算されん事を望む。

地文地理に就いてよりも、人文地理に就いては一層此の缺陷が暴露されて居る。蓋し、人文的現象はより複雑な關係の許に現象する故、これを抽象的に歸一した概念を出發點に逆に説明せんとする事は一層困難な業であるからだ。

要するに郷土地理の科學的研究に出發し、そこから學的體系へ導いて行くのが小學校地理學教育の正しい方向でなければならぬ。その逆なる完成せる地理學を壓縮して與へんとするが如き方法は斷じて排すべきものであると信じて居る。以上簡單ながら一言する。

### 第三 高等小學地理書第三學年用の考察

本書は明らかに産業地理書と目する事が出来る。具體的に云へば「日本産業の現状」と云ふパンフレットと云ふ所である。第一の「總説」と第十一「世界に於ける日本の地位」とはよく本書の性質をうかがふものたり得る。

右の二課に依つて云はんとして居る事はハッキリつかぬ。即ち近代國家としての日本の性質―空間的性質―であるのだが、その表現の仕方が抽象的で、政治的アチプロであるから、地理概念とピッタリ結びついて居ない。又それ自身明瞭でない點もある。例へば近年競つて太平洋方面に「通商の利を求めんと」など、は、現代の言葉ではない。又經濟と稱すべき所を態々商業と云ふ言葉を用ひ、貿易と云ふべきを商業と云つたりして居る。甚だ面白くないわざとらしさだ。

さうした言葉のセンサクは別としても右の二課には地理的に不健全な思想が入つて居る。資本の充實、工業の改善、良質にして廉價なる商品、一方に商業上の勢力を擴張することが必要だとアチつて居ることが第一。次に「……超ゆれど英國米國に比ぶれば、尙著しく遜色あり……」と云ふ様な言葉。第三に、最後の一節「……今や歐米の主要國は、世界各地に……東洋方面に通商の利を收めんとし……東洋の天地は益々多事ならんとす。……五大強國の一たる實を擧げざるべからず」云々である。私は、これ等がアチだから不健全だと云ふのではない。政治的アチも大いに必要であるが、それには確固としたプロバガンダが伴ふべきだと思ふのだ。

第一の資本の充實、工業の改善、商業上の勢力の擴張等と云ふ事は教科書中のどこにも力強い説明がないのである。にも拘らず、いきなり強烈なアチ文句を羅列する事は誤りであり危険である。我が國に於いて資本の充實が如何にして、如何に行はれたか、工業の改善は如何にして齎せらるゝか、商業上の勢力の擴張は、いかにして遂行されるか、等々の事が分りよく説明されて、はじめて右のアチは效果的健全であり得るのである。



第二の比較は一層不健全である。吾が國の資本主義の性質、アメリカ資本主義の性質、イギリス資本主義の性質、それ等が明瞭にされて、はじめてそれとの競争、比較がなし得るのである。

第三の問題も具體的な説明がないならば、一片の空虚なアヂに過ぎない。

東洋に向つて歐米諸國が如何に、其の爪牙を磨いて來、來つゝあるかが明瞭にされて東洋の多事と吾々の覺悟がハッキリ意識づけられるのである。次に私は、此の學年では、私が前に述べた日本産業地理の方法が徹底的に生かされていゝと思ふのである。即ち資本投下額、形態から、國內の全産業現象を分析し—この方法をも示す—そこに日本産業地理を展開する事である。かくすれば必然に日本の國家的姿が明瞭に描き出され、滿洲、支那に於ける日本資本の投下等も明瞭となり、それは主要な地理的要素である事が、知らず／＼の間に兒童達に理解されるであらうと思ふ。

文部省は「我が國」とか「五大強國」とかを唯見榮的、アヂ的に使用する丈で、その實質たる、内容の記述に至つては臆病であり貧弱である。斯くては國家的地理教育は望めない。折角産業地理として乗り出したのであるから六十や七十頁の貧弱なものを作らず、堂々として、その主義に徹した教科書を作らん事を望む。尙、尋常科地理書の項を参照して本巻考察の不備を補つて頂きたい。

## 第七章 小學理科書の左翼的考察

### 第一節 尋常小學理科書の考察

#### 第一 經驗から得た不快な印象

たしか教授の順序は教科書の通りでなくてもよいと云つてあつたと思ふが教授の内容は教科書が中心になると思ふ。若し、教科書の内容を教授者が勝手に加除訂正出来るならば、教科書の内容の配列には體系がないと云ふ事になる。尋常四年に、或る題目で一課を當てがはれて居るならばそれには充分の理由がある筈である。教科書一冊に何等かの體系があるならばその一課をもみだりに出来ない。普通の教員には理科書を批判する丈の理科的教養はないからまあ教科書に追従してやつて行くのが無難と云ふ事になり、ズル／＼ベタ／＼に理科教育を理科書に従つて進めてゆく。

私が三年ばかりの教員生活の教授中、一番嫌な記憶を止めて居るのは、實は此の理科と云ふ奴である。と云ふと主觀的理由によるやうだが必ずしもさうでない。尤も中學時代物理化學は余り得意の學課ではなかつたが、それは理由あつて講義を缺席し勝ちであつたために成績が悪かつたまでの事で、物理も化學も熱情的に尊敬して居たのである。博物はもとより、好きだつたから成績もよかつたが、私の學校の自然科学科の教育は全體として誤つて居ると思つて居る。恐らく、すべての中等學校の教育が同じだらうと思ふ。そんな譯だから私が、教員になつてからも自然科学に對する尊敬—多分に疑を持つて居たが—は變らなかつたばかりでなく、進んでその秘奥に迄突入したい氣持は持つて居たのである。だから子供達にも自然科学的精神の陶冶を如何にして成功的に養はせるかは私の常に腐心して居た所である。學級文庫に『子供の科學』『面白理科』を備へたのはそんな心構への一部からだつたのだ。一方出来る丈け自然科学を正しく理解しようと努力してポアン・カリーの「科學の價值」、石原純「自然科学概論」、ヘッケル「生命の不可思議」、或ひは「數理概論」と云つた理論方面や、ダーウィン「種原論」、メンデルの「雜種植物の研究」や、ファブル「昆蟲記」、



ハックスレー「人類の位置」等々、貧しい財布をはたいて読んで見た。

それにも拘らず、何故理科の授業が一番不快な記憶を残して居るのであらうか？

それは次の様な理科教授の實際の一端をお話しすれば、すぐわかる。理科の教授時数は一週二時間である。四年から理科。扱第一は何だらう。さくら。二、三日前に一寸、理科書を調べて『さくら』を教授しなければならぬ事を知る。×曜日の第何時が愈々理科だと云ふ事がハッキリしてから子供達に向つて云ふ。「皆、あしたさくらの理科をやるからさ、くらの花が持つて来れる人は持つて来い。」たゞさくらをもつて来いなど云はうものなら大きな杖を無惨にも、もぎ取つて持つて来るとも限らないから注意深くさくらの花と云ふ。實は花ばかりでなく、花たく、花、小枝、葉が一緒についで居る方が望ましいのであるが、その邊は、子供達がよろしくやつて来るであらうと云ふつもり。

扱てそれから教案になる。教師用と児童用書を引張り出して教授の要旨を調べる。結局目的としては、「櫻の形態、特徴を知らしめ兼ねて観察力を知らしめる」となる。

扱て愈々當日の理科の時間。教師の方も實物の、さくらと教師用掛圖とを用意して萬遺漏なきを期す。

「皆はどんな木から其の花を取つて来たか？ 大きい木か小さい木か？」さくらの木は大きくなるか？」「花はいつ咲くか」「冬の間は木はどうか？」「葉はいつどんな具合に出るか？」「花を見よ、花びらはいくつか？」「その下はどうなつて居るか？」「何がついて居るか？」雄蕊、雌蕊の觀察、質問應答、研究、それからさくらと人生と云ふやうな事を考へさせて最後の止めをさすのである。あとはノートの整理、教室にはちぎられた花が散亂して居る。これで第一「さくら」がゼ・エンドだ。

教師曰く、「此の次は、つばきをやるから持つて来れる人は持つて来い。」そして二、三日後の理科の時間には前と同

じ様な理科が一時間行はれる。かうして、「あぶらな」から、今度は動物—昆蟲—昆虫モンシロテウと理科書の題が一つ一つ片附けられる。四年の終りには、どうやら五十一課題終つて息をつく。これが四年生の理科である。だから私をして嫌悪せしめたのだ。科學體系あるものがバラ／＼にされて居るからだ。一時間と次の一時間と、内的必然性を持つて居ないからである。優れた植物學者であるか或ひは研究者であるならば、さくらの教授一時間を以て、よく生徒の植物に對する科學的精神を訓練し得るかも知れないが、凡ての教員が植物學者である事は出来ない。況や植物學、動物學、昆蟲學、生理學、地質學、物理學、化學等々にわたつて一通りの體系的智識を得る事は如何に困難な事であらうか！ だがそれ等を持つて居ないからと云つて理科教授を抛棄する事が出来やうか！ 我々は萬難を排して児童用と教師用の理科書にたよらねばならぬ！そして、たよれば結果は前述の様を始末だ！

一體どうしたら、この理科教育の矛盾を克服出来るだらうか？ 教師の頭の改造、理科的修養の努力によるべきだらうか？ それとも、教科書を何んとかした方が早速だらうか？ 教師が如何に努力したからとて、自然科學のあらゆる分科にわたつて、其の知識體系をマスターする事は望めない話だ。教育上、そんな必要もないのだ。それなら教科書を改造するより外にはない。どんな風に改造するか？ 吾々はそれより前に理科の性質に就いて考へて見よう。

## 第二 理科の性質

一體小學校で用ひて居る理科と云ふ言葉はどこから来たのであらうか、私は遺憾にも、其の由來を未だ知らない。高等學校の學部に理科と文科と云ふ區別がある様だが、あゝいつた意味のものであらうか、意味そのものから考へると二つの解釋がつく、即ち、對稱に對する學科名である場合と、學習者の教育的働きから見た時の場合とである。小學校の



理科は前者ではないかと思ふ。つまり、兒童の心性を理的に陶冶すると云ふ意味からの名稱ではなく、理的な材料―教材―の一體系に對する名稱であると思ふべきだと思ふ。何故なら兒童の心性陶冶を中心に考へるならば算術の如きは明かに理科の科としてよいのである。兎に角理科には、理的な教材―理知的理解作用を教育する材料―とその體系とが、その前提的條件でなければならぬと考へる。しかし乍ら世には往々次の様に論ずる人がある。曰く「小學校の理科は、理的教材を集めた丈で、それに體系はない。」又更に深い論者は「思考力の練磨、觀察、實驗の力の養成から教材を選択したので教材そのものには體系はない」と。

前者の論は、無論成り立たない。どんな場合にも一學科、一教科書が只教材を集める事だけで成立はしない。否、只集めるなど云ふ事は出来ないのである。後者の論はどうか？ 成程、所謂形式陶冶から考へたならば彼の議論も一應正當のやうであるが、しかし、一步深く考へるならば、彼は木を見て未だ森を見ざるものである。成程、兒童心性力―思考力、實驗、觀察力―等を中心にしたら教材そのものには、體系を必要としないであらうが、しかしながら實際には教材そのものも一つの體系として出来上つてしまふのである。何故かと云ふに思考力、實驗、觀察を一年、二年、三年と繼續すれば必ず、それ自身に體系を必要とし、引いてはそれが教材そのものに體系を與へるに至るからである。

況や、小學校の理科は、最初から計畫的プラン（系統的）を以て立案された學科ではないか、しかし更に次の駁論が成立つ。「思考力、觀察力、實驗等の體系と教材そのもの、體系とは必ずしも一致しない。文部省は前者を中心にして居るから本質的には教材そのものに體系はない。」

乍去思考力や觀察力、實驗が小學校教育上必要なのはどう云ふ譯であるか？ 然もそれは限定された對稱であるのはどう云ふ譯か？ それはどうしても或る體系ある學の理解の基礎を養ふと云ふ目的を前提に置かなくては説明がつかない。

い。實際は體系のない教材によつて體系ある思考、觀察、實驗力を養ふ事は出来ない。實質（教材）と形式（心性）とは同一物の二面であるのだ。

理科の性質を以上クドクと述べたのは理科は「自然科学ではない」と云ふ詭辯論を排撃する爲である。「自然科学的」「自然科学の基礎」「兒童の生活に於ける自然科学的理解」等々と稱して「理科」は「自然科学」であると云ふ事を避け様として居るが「……的」も「の基礎」も「的理解」も徹底させれば自然科学そのものに統一されてしまふ。最も甚だしい愚論は「理科は理知的陶冶の爲の學科である」と云ふ事だ。これは理科の定義にはならない。理知的陶冶は讀方でも算術でも地理でも歴史でも出来るではないか。

畢竟するに理科は、その材料を自然科学的なものから選擇し、其の教材の體系は自然科学的である。理科は小學校に於ける自然科学科である。それならば、理科教育は小學校に於ける自然科学教育でなければならぬ。従つて其の理想は人類の所産なる自然科学を正しく理解（形式的にも實質的にも）させる事にあらねばならぬ。理科書は右の様な目的を果すべく作られて居る筈である。

### 第三 理科書の性質と其の缺陷

#### 一、理科書の性質

理科書の教材の範圍、性質を見るに、植物學、動物學、力學的物理學、化學、氣象學、鑛物學、天文學、地質學、生理學等自然科学の全範圍から選擇され、主として兒童生活を中心に比較的簡單、單純なものが配列されて居る様である。前述した私の理科教授の實際の體驗が極めて不満なものであつた原因は、實に此の教材選擇配列から來たのであらうと



思ふ。

理科が自然科学(的)でなければならぬ以上、一課一課はもとより、一課から次の一課又其の全體が、内面的必然性、一個の體系を形成せねばならぬ筈であり、その教授は體系的知識の建設に努力しなければならぬ筈である。然るに實際にはそれ等がなされなかつたと云ふのは、一課一課が自然科学(的)でないのみならず、全體に自然科学(的)體系を缺いて居るからだと思ふ。此の事は尋常科理科書のどの點について云へるだらうか？ それは即ち教科書の教材の性質が一つ／＼でも又全體からもバラ／＼な事である。こんな評をすると文部省は憤慨するかも知れないが、まあ少し我慢して先を読んで呉れ給へ。

理科教材選擇配列の標準はもとより兒童に理解出来るものでなければならぬ、そして必要な事ではなければならぬ。しかしこれの必要には二通り考へられる。兒童の必要と、大人—社會—の子供に對する必要である。

扱その次が教材の選擇、配列の仕方である。普通の學科であつたら難易の順に従つて行けば、季節とか、郷土、性別とかは從屬的に考へて差支へは起らないが、理科の場合はさう簡單に行かない。何故かなら統一された理科と云ふ體系がある譯ではない。それは種々な分科の名稱上の統一であつて實際には物理學、化學、生理學、生物學、動物學、昆蟲學等に分かれて居るし、分けて考へなければならぬ。そして昆蟲學に屬するモンシロテフの理解と植物學のサクラの理解とはどちらが容易であるかは容易に決定出来ない。二學科の場合はまだ左程に困難でないにしても四分科、五分科の各々の教材を比較するとなると、全く見當がつけられない、又つけられないのが當然である。そこで方法としては、理科を分科してしまふか、或る理由を附して體系を變へるかである。文部省は後者を採用して居るのではないであらうか。それでは、一體どう云ふ風に體系を立てたのだらうか。教材の選擇配列について統計して見よう。今大ザッパに

左の様に分科して調べる。(常識的分け方)

分科	學年				計	備考
	尋	四	尋	五		
植物(學)	二〇			一二	三五	植物動物生態が主、生理は僅か二課 鑽石 物理的 力學、電氣物理學 化學元素(無機化合物)有機は數課 四季現象のみ 人體生理
動物(學)	一二			一三	三二	
礦物(學)	三			二	五	
氣象(學)	一			一	一	
物理(學)	三			七	二四	
化學	六			八	二二	
天文(學)	一			三	四	
生理(學)				一	九	
地質(學)				五	九	
計	四六	五〇	四五	一四一		

今全課を植物、動物、物理、化學の四種の教材に大別して考へて見ると、動植物教材は三年間中四、五年に集中され、尋六に至ると、動物七、植物三の僅かさである。物理化學教材はこの逆で尋四に於いては僅かに物理四、化學六に過ぎない。此の現象はどう理解しなければならぬか？

最初に「動植物に關する知識よりも物理、化學に關する現象の方が學ぶに困難であるから」と云ふ答を與へて見やう。



すると、此の答の中には、體系的知識の概念—即ち自然科学の概念が、導入されて居る事に氣が附く。兒童の生活から考へれば庭に咲き盛る花よりも一個の菓子を食べ、経験の方が、直接的で具體的である。又軒に巢喰ふ燕よりも腕の腫物の本體を極める事がより必要であらう。

又、只意識の難易から考へたならば、此の大地を見ること、花を見る事、ある小川を観察する事、雀を観察する事、いづれがいづれとも決し難い。否大地は花よりも小川は雀よりも容易に見得るのではないか。にも拘らず消化現象、化濃現象や大地の性質、小川の作用を學ぶ事が花や燕や雀を學ぶより困難であると云ふのは、前者の諸現象の體系が後者の説明の體系よりも高次であると云ふ見解に基くのであらう。だが此の見解は果して正しいであらうか？ 必ずしもさうではないのである。尋常六年の理科書最後の部分に八課ばかり連続的に電氣に關する教材があるが、これは尋四のさくら、つばき、ついで等一連の植物教材よりも困難であり高次的であらうか？ 若し與へられたるまゝならば、もとより前者は後者よりも高度の教材であらう。しかし若し、植物生態から植物生理學の範圍に入るならば、即ち細胞組織や同化作用の知識に入るならば、其の學習は、少くとも電信機や電信やラヂオの學習より高度なものと云はなければなるまい。

個々(動、植、物、化)の學としての體系が—その範圍が明瞭に示されて居ない限り、—理科書にはそれが明示してない—吾々は、一が他より學習に困難だと斷定する事は出来ない。即ち尋常理科書に於いて、前半に於いて動植物教材が多く、後半に於いて僅かであり、一方物、化教材が、其の反對であるとしても、これを以て直に「教材學習難易によつたものである」と見做す事は出来ないのである。

第二の答は「兒童生活を中心にして考へる時、前者はより生活に接近したものであり、後者はより抽象的であるから」と云ふ。しかしこの答は既に述べた様に確固たる理由にはならない。ラヂオは蛙よりも抽象的だとは云へない。人體は花より抽象的だとは云へない。(兒童生活を中心にした場合)

第三の答は「生活の必要から」と云ふ。この答は取るに足らない。何故なら尋常四年生には動植物に關する知識が必要だと云ふ理由はどこにもないからである。

尋常小學理科書の教材配列の原理は、それ故に「植物生態、動物生態の學習は物理、化學現象の學習よりも平易である」と云ふ自然科学的斷定を前提として成立して居ると見なければならぬ。しからば、植物生態も動物生態も物理現象も化學現象も、それ等に關して取り入れられた凡ての教材は、植物生態學、動物生態學、物理學、化學の體系に統一されねばならぬであらう。

## 二、其の缺陷

それならば、實際統一されて居るか？ 否である。教科書の中から各種(動、植、物、化)の教材をそれ／＼縦線的に集めて、何度でも繰り返して讀んで見給へ。決してそこに植物生態學的、動物生態學的、物理學的、化學的體系の統一概念を發見する事は出来ぬであらう。

尋常四年の第一さくらから順次に植物教材を調べて尋常六年第六麥の最後の植物教材に至る迄に吾々は何を得るか。精々花の各部の名稱と有用植物の用途に止るのではないか。動物教材にせよ、其の他の教材にせよ同様である。

さくらとつばき、つばきとついで、吾々が知らうとするのはそれらの相互の關係、或ひはさくらに於ける花と葉、幹等との關係に關する知識ではないのか。約言すれば植物界に於ける自然の理法を知らうとするのではないか？ 悲しい



かな、教科書のいづこにも私達は自然の理法を知らしめやうとして居る態度を見出せないのである。

私達が理科教授に失望を感じる最大の原因の一つは實にこゝにあると見なければならぬ。併し乍ら未だ反駁の議論は、存在の餘地があるだらう。即ち論者は私に向つて次の如く云ふだらう。「君は最初から理科と自然科学とを混合して居る。理科は自然科学的ではあるが、學そのものではない。理科を最初から植、動物、物、化と云ふ様に分科的に見るからその統一が必要なので、理科を一つの統一學科と見れば、問題は起らない。又理科をさう見るのが正しい。何故なら兒童の認識（生活に於ける）は植、動物、物、化と云ふ様に分科的でなく、理科的現象として統一的に見られて居るのではないか。しからば、縦線的統一と云ふ様な事は必要ではないか。」と。よろしい、然らば私は、縦線的統一觀を抛棄して、理科的現象としての統一、横線的統一が完ふされて居るか否かを見よう。

題目一覽及教材配列順一覽を参照されたい。そして次に體驗記述中の第一課さくらの全文を一讀して戴きたい。どこに分科的でない、理科的現象の統一として教材が與へられて居るか。さくらは植物ではないか？ 何故第二につばきをおいたか？ 第三にあぶらなを、その次の第四には、もんしろて、ふを置いたか？ その各々の課は孤立的説明を與へられては居ないか。兒童が生活に於いて、理科的認識とよく一致せる様に教材が取り扱はれて居るか。もみぢの次に何故物の重さを學習させるのであるか。以上の諸點を考へるならば理科書に於いては論者の横線的統一と云へども決して見出す事は出来ぬ。敢てその統一を云ひ得るとすれば、只個々の教材が季節的に考慮されて居るに過ぎぬ。

若しも横線的統一が實現されて居るならば、題目、本文記述方法が全然異つて居らねばならぬ。例へば、題目の如きは「校庭の花園」とか、「春の田圃」とか云つた生活統一的であつて、そこに於いて見られる理科的諸現象が統一的に記述されるであらう。校庭の一角、花園の一隅には百花瞭爛たるあり、それを培ふ土壤ある、花から花へと飛び交ふ昆蟲、

土中に蠢動する地蟲あり。それ等の個々及相互の關係を理科的に記述してのみよく横線的統一ある理科書と稱すべし。然らざれば何ぞ以て理科的統一ありと云はん。理科教育に於ける、吾々の不満の最大なる原因の第二は、かゝる横線的統一、生活的統一すら果されて居ない點に存するであらう。

吾々が、理科書を読んで、驚く事は、記述形式の簡約さである。一切の冗語を省いた表現振りである。科學はその精密なるもの程、表現方法は嚴密なる概念を用ひ、従つて一切の冗語空語を省略する。數學者は數字と符合とのみによつて記述されたるものを、吾々が文藝作品を讀むと同じ様な感興を以て讀む。

文部省の記述形式もその意味ではないかと思ふ。しかし、これはその形を眞似て心知らざる者の業であらう。何故なら前述の如く自然科学として何等の統一なきものを、只、言葉の表現のみを自然科学にしたからである。第三の不満はこゝに生ずる。又假令自然科学に屬するものであつても、博物と物理とは其の記述形式が普通には餘程異なつて居る。况や兒童を教育對稱として居るのだから、其の點の考慮が充分になされねばならぬ筈である。ピンからキリ迄同じ筆法で説明しつくした文部省は無謀よりも非教育的であると云つて非難すべきだ。

自然科学が説明的科學だからとて、終始説明で終つて居るのは理科教科書たる生命を完ふしたものと云へない。觀察、實驗、思考は適宜な疑問の構成によつて愈々益々深まり、文字通り自然科学的、理科的教育を有効に進めて行く事が可能となるのである。文部省がこの點を無視して居る事が吾々に與へる第四の不満な點であらう。

#### 第四 理科教育の基礎

以上を要するに、理科に對する文部省の見解が不徹底であり、誤謬に充ちたものであつたが故に理科教育、理科書教



育が、支離滅裂に陥つたのである。

理科は自然科學そのものではないにしても、自然科學的であり、兒童達にはそれは自然科學である。よしそれは實用的であり、卑近な現象のみを對稱としたるにせよ、兒童に取つては自然科學としてよろしい。だから理科は小學校の自然科學科であると思ふ。又大人の自然科學から見ても小學校の理科がその基礎であることは毫も疑を挟むことは出來ないのではないかと思ふ。文部省自身がこの事を肯定して居るのであらう。然るにも拘らず實際的には前述の様な矛盾缺陷を有つて居るのは、結局に於いて、文部省の自然科學觀が定立して居ないからである。

思ふに小學校に理科教育が、採用され尊重されたのは一般社會に自然科學的風潮が支配的となつたのと軌を同じくしてゐるのであらう。日本に於いては大戦中及直後最も其の熱が旺んであつたのではないか。それと前後して尋常四年から理科を教育するやうになつたのだらう。その頃の自然科學熱の本體は應用化學、理、工、化學の事であつたらう。實用、應用一天張の科學熱であつたらう。それがそのまま教科書に反映したのではないか。「個々のものゝ知識」それが科學的知識とされたのであらう。少くとも小學校の教科書にはその様な自然科學觀が採用されたい。即ち日常生活に於ける諸々のことと、ものを個々に知識的に説明し得る様に教育する學科、それが小學校理科教育の目的觀ではなかつたか—理論的にはとも角、實際的には疑ひもなくそうなのである。

その時代から今日迄既に十數年を経過した。社會一般の自然科學觀は其後急速に發展し、少くとも實用、應用萬能主義から堅實な自然科學觀へ轉じて居るのではないかと思ふ。實用、應用主義か理論主義かと云ふ議論は愚かしい議論である。二者は相互に相排撃するものではなく、二者相俟つて、自然科學の發展を形成するのである。自然科學の理論的發展は一方に其の理論の新たな應用の天地を開拓し、實用の世界を擴大する。それ等は直接間接に物質的富を増加せ

しめ精神的生活を豊にする。今日では實用、應用萬能の自然科學を唱ふる愚者がなければかりでなく、一般自然科學的知識の限界すら肯定されるに至つて居るのではないか。

さもあらばあれ自然科學教育は理論主義でもなく、應用主義でもなく、それ等を統一した、自然科學的教育でなければならぬであらう。もとよりこれは、又小學校理科教育の基本的立場でなければならぬ。

かく考へて現行小學校理科書を見る時、果していかなる感を持つか？そこには我が日本に於いても既に清算された自然科學觀の殘骸が、明かにあるのみではない、驚くべし、實用主義、自然科學觀時代の「個々のものゝ知識」主義を以て、唯一の根據としてゐるではないか！かくの如き古き革袋にいかな新酒を注ぐも、そは徒勞である。新らしき酒は新しい革袋に盛らねばならぬ、宜なるかな、吾等小學校理科教育者の失望よ！我等教員が新らしき自然科學觀を持つてば持つ程小學校理科教育は耐えざるに至るであらう。悲しむべき哉、かくの如き古き酒、毒ある酒を飲ましめらるゝ全國小學校の兒童等よ！彼等も彼等の生活を理科的に見れば見る程、理科書に嫌惡を感じるであらう。

憂ふべき哉、我が國自然科學の前途の發展よ！しかし乍ら祖國を受する士よ！努力を抛棄する勿れ、我等の前途は多事多端、國家發展の基は自然科學の發展にあり、然らば何ぞ徒に悲しまん。古き殼は破るべし。

私達は進んで理科教育を改革しなければならぬ。私はその改革に關して敢て二、三の進言を試みる所以である。

## 第五 改革案大綱

### 一、教科書の改革

上來主として教科書に就いて論じて來たから改革の第一歩を教科書に置くとしよう、と云つても私は自然科學者でも



なければ教科書著述家でもない。一介の教員である。だから一個の教員としての改革案に過ぎない事は豫め斷つておく。第一に教科書の著述者は明確な自然科學觀を確立しなければならぬ。教育方針はその上に立てられる。自然科學觀は色々に立てられるであらう。分科の見解よりも統一的なるものが望ましい事は論を待たない。第二に、兒童に對する自然科學教育觀を確立する要がある。その立脚地は、素より兒童中心主義でなければならぬ——と云つても、兒童絕對主義ではない。——右の二點が確立されるならば、理科教育は現在の數倍に範圍を擴張しなければならぬであらう。

自然科學個々の分科學習の難易——その體系の高、低、粗、複、——と理科教育の發展段階とは必ずしも一致しない。又自然科學發生の順序——例へば天文學が、その發展の第一歩を築いて居る。それから物理、化學等の順で近代の諸科學は多く十九世紀以後に發展して居る——も理科教育の順序と一致しない。自然科學を統一的に見、従つて兒童に對する理科教育を統一的觀點からするならば、必然にそれは兒童生活に結びつく、そこでは兒童生活が中心に理科が組織され發展させられねばならないのである。兒童の理科的生活は尋常一年生から指導してよいと考へる。

尋常一年、二年、三年で普通の植物、動物の生態を一通り學習せしめる事が可能である。二、三年は教科書を採用せしむべきだ。勿論その教科書は兒童生活的でなければならぬ。従前の様なバラ／＼に切り離されたものであつてはならぬ。彩色版等百分に利用さるべきであらう。例へば次の如く取り扱ふのである。(低學年理科書を想定する。)

題目は総合的なもの、例「ガクカウの花壇」 圖版を中心、彩色版で花壇の一隅を描いたもの。

植物、ダリア、ヒヤシンス、チューリップ、カーネーション。その附近の樹木、松、杉。

動物、昆虫、テフ、蜂、蟻、その他、鳥類等。

説明文を避けて、質問文を置く。例へば「コレハドコのケシキカ?」「どんな花が咲いて居るか?」「その名を知つて

るか?」「蟲は何をしてるか?」等々。かくの如くして二年、三年間に動植物の屬、科、種などの體系や其の相互の關係が漠然と出来るであらう。

四年、五年、六年では理論的、實用的方面が重んぜられねばならぬ。例へば、動植物に關しては、生物進化の理論的、概念を構成せしめる様にする。一方麥を取扱ふにも、生産的に見る。即ち土地の施肥、播種、發芽、生育、結果、收穫、品種改造、耕作改善等を含めて取り扱ふのである。

物理、化學現象の取り扱ひも生活的にしなければならぬ。例へば電氣物理を取扱ふ場合に、雷電現象からとき起すとか、電氣機關車から出發するとかである。又前年度と同じく質問的、疑問法的に記述されねばならぬ。

かくして尋常六年を卒業する時には、自然科學のアウトラインを知り、同時に、著者の自然科學觀が把握されねばならぬであらう。教科書は右の如く編纂されねばならない。

## 二、其の他の方面

とは云へども、理科教育の改革は、只に教科書の改革のみでは足りない。人の和を得なければ駄目だ。即ち教師の自然科學的教養である。自然科學に就いて一般的な理論を持すと共に、郷土の事象、自然科學的研究、實驗、觀察に依つて絶えず向上するやうに努力せねばならぬ。更に現代の理科教育の最大の缺點は理科的設備、就中諸種の實驗設備の不完全さにある。自然科學は抽象を弄んで居るのではない。當局者、否國家は須らくこの點に留意すべし。次に社會的連絡を完全にする事である。例へば有用植物、動物に就いては農事試験所とか、家畜試験所とかとの連絡、又工場地帯では工場の參觀視察を容易にするとか云ふ點である。



以上の改革案が實施されるならば、日本國家前途の繁榮に重大なる効果を及ぼすであらう事は疑ひない。尙理科に於いてもキネマ（グラフ）が利用されねばならぬ事は無論である。

## 第二節 高等小學理科書の考察

高等科の理科は實際經驗がないから詳しい事は論じられない。理科書を一讀した後で氣が付いた點を簡條的に指摘するに止めよう。

- (1) 各課の統一がない。即ち依然として縦線的統一がない。同様横線的統一は無視されて居る。
- (2) 高三用に於いて、生物進化及エネルギーが取り入れてあるが、それは従前各課の統一としてよりもそれ自身獨立的孤立的に取り扱はれて居るのは大きな遺憾である。折角この課を置いたのであるから、生物進化をもつとシツクリと、そしてエネルギー論はもつと具體的實驗的に説くべきであつたらう。
- (3) 理論の説明が多過ぎると思ふ。いや多過ぎはしないだらうが、これ等以外に應用、實用方面の解説が必要ではないかと思ふ。例へば、化學の硝酸を取り扱ふ場合、硝酸の製造工場—大規模生産の方法—の説明をも加へる（圖解等を入れて）。或ひは物理の場合は、その理を應用した機械を示すとか、ダイナモの場合には發電所を解説する様にするとか、等々である。
- (4) これは(1)の事と同じ様な點だが化學の分子、分子式或ひは元素、原子、電子等の事が組織的に取り扱はれて居ない事である。
- (5) 現代自然科學の姿を、どこにも統一的に取り扱つて居ない事である。これは、中等學校の教科書に就いても云へると思ふが、高等小學へ行くやうなものは大抵それで、組織的教育を終るのだから自然科學の姿を示す事は是非必要であると思ふ。

科學者の努力、それがなしとけた近代世界の偉大な發展を知る時、誰か人間の偉大さに頭を下げない者があらうか。天空に擴がる無限の宇宙から、一電子の量に至る迄、或ひは靈妙不可思議な人間の生命から、單純なるアミーバの生命現象に至る迄自然科學を開拓し又開拓しつゝある世界は何と云ふ偉大さだ。理科教育、理科書がこれ等の點を逸すと云ふのは何と云ふ遺憾事であらう。

しかし乍ら問題の本質は先に尋常科の場合に考察した點にかゝる。高等科理科書は高一用昭和七年、高二用昭和八年に出たにも拘らず、依然として古き革袋である。これが改革は急務である。その方案は私としては尋常科の場合と根本的には異なるらない。が更に右に記した五點に留意されて、文明國として恥かしからぬ理科書が作成されん事を心から祈る。

## 第八章 國定教科書の左翼的批判總括

修身、國語、歴史、地理、理科、算術と現在國定教科書として制定されて居るものは大體考察した。この外は書方唱歌等の特殊的なもののみで、敢て論ずる程度のものであるまいと思ふ。尤も唱歌は評判のものであるが、それは古くさい點でなので、實際は殆ど使用されて居ない。圖畫も國定教科書があるが、臨畫が無價値な事は周知の事實なので、



唱歌と同様殆ど使用されて居ない。一再ならず記述中に断つてある様に教科書は該教科の全部ではない。該科教育手段の一部に過ぎないのである。人の教育が學科の教育のみに依つて果されるものではない事は明かだ。況んや一教科書に於いておや。けれども又善き教科書はよき教育の重要な礎となる事も亦吾々は記憶しなければならぬ。

日本の様な狭い国土で、人口が多く、民族が同じ(舊日本)の國にあつては、將來と雖も中央集權制が有利であり、従つて教育行政もしかされるであらう。さすれば國定教科書の制度は維持され、發展せしめられる事は當然であらうと思ふ。又此の事は逆に國家の教育の統一、ひいては國家の政治的統一に甚大な利益を齎らすであらう事も當然であらう。

されば國家の教育責任者は國定教科書の改善改良に常に留意して、よく教科書をして時代の進運、社會の進歩の指導性を發揮せしむる様、鋭意努力すべきであらう。しかるに現行小學校教科書は、私の如き一小學校教員から見ても上來縷々述べ來つた如き多くの缺陷を持つて居る。然も私は立場をかなり自由主義的にして見たのである。之を専門家や、經驗深い教員の多數から見れば決して其の缺陷矛盾は少くはないであらう。

世界が日進月歩の状態にある今日、教育内容を固定した教科書が缺陷矛盾を生ずるのは又止むを得ないであらうが、それ等を可及的に減少し、未然に防ぐ備へを爲す事も亦必要不可欠の事ではないだらうか。

從來、日本の國定教科書制定者は常に時代の後より跛行し、改善も改良も、彌縫に過ぎなかつたと云ふ醜態を曝露して居るのは何故であらうか。思ふに、これ國家の發展に對する無定見、近視眼と國民教育に對する不熱心、不誠意、政治的活動の不足、教育實際家の意見を尊重しなかつた事によるのであらう。「強固なる國家の發展は、國民教育の充實に俟つ」と云ふ事を偽政治家の政談演説たる事を止めしめよ。眞に國を守る爲政者は、身を以て此の言を實行するであらう。

らう。かゝる政治家を國民は持たねばならぬ。

今や日本は世界に於ける三大帝國主義國の一つとして國際場裡に鎗を削つて鬭争しなければならぬ。一步踏み外せば忽ち没落資本主義國となるであらう。外に國際的鬭争と内に共產主義運動の勃興とを控へ、國家は正に重大なる危機にある。此の秋に當つて國民教育就中初等教育を過まらんか、國家の顛滅するや必せり。

國民初等教育をして堅實ならしめんと欲せば先づ國定教科書を強固に築くべし。國定教科書を強固に築かんと欲せば彌縫策をすて、眞の國民の教科書を作るべし。眞の國民の教科書を作らんと欲せば、學者、先生の學説をしりぞけ、下からの組織によるべし。即ち私は云はう。國定教科書の制度、改善改良に参加せしむる實際教育家の組織を持つべしと。國定教科書は、その時、はじめて正しい見透しと國民指導力とを有するであらう。歐米の制度は何ぞ倣ねるに足らん。赤化教育何ぞ恐るゝに足らん。眞に獨創的にして強固なる教育が生々躍々として行はるゝであらう。

機を制するは勝利の秘訣である。プロレタリア教育とブルジョアジーの支配教育とが、相對峙して居るとするならば、機先を制した方が、勝利するに決つて居る。赤化教員や、赤化教育で周章狼狽爲す所を知らず、精々鳴物入りで思想善導講習會聽講を強要する當局、私は大して恐るゝに足らずと思つて居る。兎に角、一九二八年の恐慌以來従前の支配階級の教育は決定的な打撃を被つた。そして私達のプロレタリア教育の宣言が爲されたのだ。これからは、氣味の悪い對陣や、前哨戦が行はれるだらう。私達の強味として世界性や將來性はあるが、前途は決して樂觀を許さぬ。部分的にも全線的にも機先が重要だと思つて居る。

さて、稍々問題が外れてしまつたが、教科書考察が量的に龍頭蛇尾に終つた嫌ひがある。しかし、質的には不公平に取り扱つては居ない積りである。最後に此の事を一言して筆を擱く。



## 第三篇 プロレタリア教育の教材

### 第一章 概 説

プロレタリア教育の立場から國定教科書の教材を嚴密に検討するならば彼等左傾教員が其の儘利用できる教材は殆どないことになる。故に彼等は兒童に對して國定教科書を批判し、其の矛盾を暴露し其の反動的意義を悟らせるだけでなく、更に一步進んでプロレタリア独自の教材を創作準備して之を兒童に提供し、プロレタリア教育を行ふのである。

併し乍ら前にも言つた様にプロレタリア教育は教科書を教へ習ふことにあるのではなくて闘争することにある。即ち如何に闘ふかといふことを知らせるのがプロレタリア教育學なのであるから、其の教材は國定教科書の如く整備したものではない。實に雜然としたものである。只どの教材を見ても階級意識を昂揚し、絶えず闘争の實踐を強調してゐる點が目につくのである。要するにそれは彼等にとつては共產主義の宣傳、煽動の道具なのである。

先づプロレタリア教育教材の歴史に就いて述べれば、此の如き教材の創作は昭和五年八月新興教育研究所及び日本教育労働者組合準備會等のプロレタリア教育運動の中心團體が組織される前から、既にプロレタリア文藝作家に依つて試みられてゐた。我國に於いて最初にプロレタリア教育教材の發表されたのは我國唯一の無産階級政治新聞たる「無産者新聞」大正十五年六月十二日附第三十二號のものに童話集「編」であつた。之は同年新潟縣下の小作争議に關連して設立された木崎無産小學校に刺激され雄譯「小さいベーター」(昭和二年一月まで續けられた。



### 第三篇 プロレタリア教育の教材

#### 第一章 概 説

プロレタリア教育の立場から國定教科書の教材を嚴密に検討するならば彼等左傾教員が其の儘利用できる教材は殆どないことになる。故に彼等は兒童に對して國定教科書を批判し、其の矛盾を暴露し其の反動的意義を悟らせるだけでなく、更に一步進んでプロレタリア独自の教材を創作準備して之を兒童に提供し、プロレタリア教育を行ふのである。

併し乍ら前にも言つた様にプロレタリア教育は教科書を教へ習ふことにあるのではなくて闘争することにある。即ち如何に闘ふかといふことを知らせるのがプロレタリア教育學なのであるから、其の教材は國定教科書の如く整備したものではない。實に雜然としたものである。只どの教材を見ても階級意識を昂揚し、絶えず闘争の實踐を強調してゐる點が目につくのである。要するにそれは彼等にとつては共產主義の宣傳、煽動の道具なのである。

先づプロレタリア教育教材の歴史に就いて述べれば、此の如き教材の創作は昭和五年八月新興教育研究所及び日本教育労働者組合準備會等のプロレタリア教育運動の中心團體が組織される前から、既にプロレタリア文藝作家に依つて試みられてゐた。我國に於いて最初にプロレタリア教育教材の發表されたのは我國唯一の無産階級政治新聞たる「無産者新聞」大正十五年六月十二日附第三十二號の「（中略）」であつた。之は同年新潟縣下の小作争議に關連して設立された木崎無産小學校に刺激され、昭和二年一月まで続けられた。



此の種の教材は其の後断続的に「文藝」(昭和二年六月至同十一月)、「前衛」の「コドモのページ欄」(自昭和三年一月至同年三月)、「プロレタリア」(自昭和三年一月至同四月)、「戦旗」(自昭和三年五月至昭和四年四月)等に發表された。併し是等は大人の讀む左翼文藝雜誌の一の欄或は一部分として存在するに止つたのである。

然るに昭和四年一月始めてプロレタリア教育の教材として獨立した機關誌「童話運動」が「反資本主義的社會認識を有する兒童文學作家」の團體、新興童話作家聯盟によつて創刊された。次いで同年五月「少年戦旗」が「戦旗」附録として創刊されたが同年十月「戦旗」より獨立し、翌昭和五年六月大衆化の爲雜誌から新聞型に變り、定價も二十錢から五錢に値下した。當時戦旗社に對する當局の取締が嚴重になつたので、同年十月から翌六年四月迄休刊したが、同六年五月から再刊、同年十二月廢刊迄四回發行された。

之より先昭和五年九月十八日新興教育研究所がプロレタリア教育の確立を目的として創立されたが、當初は機關誌「新興教育」に或は「ピオニール欄」を設け、或は時々プロレタリア童話、童話を掲載するに止まり、まだ獨立のプロレタリア教育の爲の兒童テキストを發行する迄には至らなかつた。却つて全國農民組合青年部本部から昭和六年八月十日附「全農ピオニール夏季教程」上級用下級用(定價七錢)二冊が出版されたのである。然るに昭和六年十一月新興教育研究所は日本プロレタリア文化聯盟(コップ)に加盟し、其の意見に従つて大衆化の活動方針を取る事になつた。斯くて同研究所は漸くプロレタリア教育の教材として昭和七年二月十日附謄寫版刷「ピオニール・トクホン」第一輯(定價子供五錢大人十錢)を出したのである。次いで同年三月二十日附同第二輯が出たが、同年五月五日附の第三輯からは「ピオニールの友」と改稱され、同年七月二十二日附第四輯、同年八月三日附特輯「ピオニール夏休み帳」を出した。同年八月二十五日同研究所が解體して新興教育同盟準備會となつてからも翌昭和八年三月迄に第五輯「革命記念號」、特輯「市電

スト應援號」、第六輯及び第七輯を出してゐる。又同研究所から大衆の啓蒙の爲の新聞紙として昭和七年六月十日附「教育新聞」が創刊され、次いで同年七月十日附同第二號昭和八年三月十四日附同第三號が出た。而して此の中には兒童の爲の教材も掲載されたのである。併し乍ら昭和八年十一月七日同研究所が日本プロレタリア科學同盟に發展的に解消してからは、是等のプロレタリア教育のテキストは一切影を消すに至つた。因に「少年戦旗」「全農ピオニール夏季教程」「ピオニール・トクホン」「教育新聞」等は内容何れも過激の爲各號發賣禁止を命ぜられる状態であつた。

最近昭和八年七月新興教育同盟準備會の關係者たりし東京帝國大學學生が中心となり、東京帝國大學セツルメント内に兒童問題研究会を創立し、機關誌「兒童問題研究」を創刊するに至つたが、同誌八月號から其の附録として「子供の新聞」(定價一錢)を發行し、昭和九年二月迄機關誌は七回「子供の新聞」は六回出てゐる。之は未だ發禁を命ぜられたことはないが其の内容は穩當を缺くものがあり、今後プロレタリア教育の教材として「新興教育」「ピオニールの友」に代るのではないかと思はれる節があるから充分注意すべきものであると思ふ。

右に述べた雜誌、新聞は主として中央の極左團體から發行されたものであるが、其の他に地方的なものとしては日本一般使用人組合教育労働部及び新興教育同盟準備會等の地方支部或は支部準備會發行の機關紙、ニュース(例へば新興教育宮崎支局機關紙「赤いチョーク」)等にも亦屢々プロレタリア教育の教材が掲載されてゐる。又兒童自治會、子供會、ピオニール等の機關紙(例へば新興教育同盟準備會福佐支部準備會發行「ひびき」)も亦プロレタリア教育の教材であることは云ふまでもない。

之等新聞・雜誌の外に單行本としては初期のものに童話集「ミューレン作・荒畑寒村譯」なぜなの(大正十五年十二月無産社發行・定價五十錢)同「ミューレン作・林房雄譯」小さいベーター(昭和二年七月曉星閣發行・定價三十錢)同「ミューレン作・林房



雄譚「眞理の城」(昭和三年三月南宋書院發行・定價五十錢)等がある。比較的最近のものとしてはプロレタリア童話集榎本楠郎著「赤い旗」(昭和五年五月十五日紅玉堂發行・定價六十五錢)同著「プロレタリア児童文學の諸問題」(昭和五年四月二十二日世界社發行・定價一圓)プロレタリア童話集榎本楠郎・川崎大治編「小さい同志」(昭和六年七月二十五日自由社發行・定價七十錢)プロレタリア小年小説ハンテレイエフ作・榎本楠郎譯「時計」(定價七十錢)田部久著「プロレタリア綴方指導論」(昭和六年五月三十日自由社發行・定價八十錢)プロレタリア戯曲叢書第三輯「子供の脚本集」(昭和八年六月十二日日本プロレタリア演劇同盟出版部發行・定價十錢)がある。(以上何れも發禁處分を受けた。)

右に述べた如くプロレタリア教育の教材は數に於いては可成多數發表されてゐる。今是等の教材を形式的方面から觀察すれば童話、童話、少年少女小説、寓話(一口噺・笑話)、翻譯寓話、戯曲脚本、歴史物語、時事問題解説、中間讀物、改作物其他等實に多種多様に亙つてゐる。又取材方面から觀察すれば(1)争議又は集團闘争、(2)権力に對する抗争、(3)戦争反對の闘争、(4)労働者農民の悲惨な生活状態を描いたもの、(5)資本家地主に對する敵愾心を煽るもの、(6)宗教反對の闘争等共產主義の宣傳煽動のために都合のよい凡ゆる材料を取扱つてゐる。

次に是等の教材を彼等が如何に利用するか就いて述べて見よう。

左傾教員は事情の許す限り常に絶えず兒童に對して是等プロレタリア教育の教材を適宜に巧妙に利用運用して、兒童をして其の成長と共に自然に共產主義思想を抱懐せしめ、共產主義社會を實現するための行動に出ざるを得ないまでに根本的にプロレタリアートの一員として教育するのである。又プロレタリア教育の教材は左傾教員のみによつて利用されるだけではない。街頭であらうが、農村であらうが、工場であらうが凡そ兒童のある所では左翼労働組合や左翼農民組合或は其の青年部又は婦人部の者或はピオニールの指導者は適宜適當な場所に兒童を集め、そこで是等の教材を提供

し、それを閱讀せしめたり、實演せしめたりするのである。

彼等は是等の教材を提供する一方兒童に向つても左翼的作品を創作せしめるやう指導し、場合によつては合作又は他の作品を兒童の好むやうに改作せしめる。而して創作、合作、改作に依つて得た兒童の作品を再度三度兒童に與へる。斯くして彼等は兒童の最も愛好する教材を得、又さうすることに依つて知らず識らずのうちに兒童の階級意識を昂め、其の結果兒童をしてピオニール、子供會、學級自治會等を組織せしめるのである。

序に左傾教員ではないが左翼労働組合、農民組合のメンバー等の教材利用方法を参考のため述べよう。平時の場合とストライキ、小作争議等の起つた非常時の場合とで異つた方法が採られる様である。

先づ平時に於いては彼等は娛樂と團體訓練を主眼とし、そして兒童をして階級意識を不知不識の間に向せしめ、闘士を養成せんとする。其の爲に兒童の合唱隊を作り童話、唱歌などの合唱、又は適當な歌詞を選んで動作の振付けを試み、それを遊戯乃至舞踊・演劇にまで發展せしめる。また簡単な童話、童話を演劇化し、童話劇として學藝會・クラス會等に於いて兒童に實演せしめ、又大人も實演して見せる。更に山や海にピクニックを試み、邊りの動植物乃至貧農の生活の状態などの實物、實景に依つて實地に自然科学的、社會科學的プロレタリア教材を引用し又はそれを即興的に考へ出して説明し、宣傳煽動するのである。

扱て小作争議ストライキ等の非常時になると彼等は教材を大體前同様娛樂と團體訓練とに活用することは勿論であるが斯る場合は單にそれだけではない。少年も闘士である」と言ふ觀念を植ゑ附けるのである。實踐的革命的訓練をするのは此の時で兒童も又それらの争議に動員されるのである。そして其の場合最も活用されるのは童話と演劇である。

同志間の士氣、闘志を鼓舞するための戰闘的な兒童劇の上演又は皮肉な、滑稽な諷刺劇や童話・寓話を簡單に芝居化



しそれを隨時野外又は屋内で上演する。斯くして彼等はプロレタリア教育の教材を眞に敵に當る武器として活用し、消極的に味方の慰安と團結とに利用するのである。

以上彼等のプロレタリア教材の利用方法を大體述べた。次に彼等の教材には體系がないのであるから是等を小學校の各教科目に従つて分類することは或は適當でないかもしれないが、本篇では便宜上此の分類によつて第二章以下に説明することにする。

## 第二章 修身科教材

### 第一概 觀

プロレタリア教育の教授方針は修身科に其の重點を置くことは既に述べた通りであるが、其の爲に此の科に關する教材は他の科に比較して相當豊富に準備せられてゐるのである。次に夫等教材の中の主なるものを掲げて参考に供しよう。先づ修身書の教材の内容を改作したものとしては「べんきやうせよ」「勤勞」等がある。前者は修身書卷二、第五「勉強せよ」を改作したもので地主と小作人の搾取關係を述べ、階級意識を注入せんとするものであり、後者は修身書卷五、第十三課「勤勞」を改作したもので農民組合に入つて闘士として活動することを煽動したものである。

修身科教材としては時事問題に關したものが非常に多い。そして是等は修身科に於いてのみならず教室に於ける凡ゆる場合に教材として利用され得るものである。「建國祭とピオニール」「議會の話」「滿洲戦争の話」「メーデーと節句の話」「夏が来た！避暑に行く人は誰か？」「肉弾三勇士の話」等は即ちそれで、何れも時事問題を巧みに捉へ、建國祭反

對、議會主義反對、帝國主義戦争反對の宣傳をなしてゐる。中でも「建國祭とピオニール」「議會の話」に於いては最後に自治會の活動方針、ピオニールの任務等を掲げて兒童を夫等の運動に迄導かんとしてゐることは注目すべきである。

最近東京の新聞紙上に印棉不買、小學校校長視學の潰職、子供の盜賊團等の記事が現れるや彼等は直に之を捉へ、「わたの喧嘩」「校長先生がわるいことをしたんだつてさ！」「子供の盜賊團あらはる」等を出してゐる。東京のみならず地方でも小作争議等があれば「地主、土地會社はぬすとだ!!」の如きものを出すのである。

反宗教闘争の教材としては「神様の話」がある。之は神様は金持が百姓をだますために作つたものだから神様退治をやらなければならぬと説くものである。

彼等は又笑話、一口噺等の簡單な寓話によつて共產主義思想を宣傳することが多いが此所では祖先崇拜の觀念を否定せるものの例を掲げて置く。

其の他に「ピオニールの誓」の如きプロレタリア兒童の規律を掲げて彼等の側の道德を兒童に説くことが行はれる。

### 第二教 材

#### 一、べんきやうせよ（おれたちの修身）

ここに二人のをとこがゐます。二人はもとおなじがくかうにゐました。一人はぢぬしで小作人からしほりとつてゐたのであそんでゐてもぜいたくをし、きれいなきものをきてゐられるのです。すてつきなどをついてあるくなまいきなかつこうをごらんさい。（繪入り）

一人は小作人の子で地主に土地をとりあけられ、その上びよきになつてはたらけなくなつたので、こんなかわいさ



うなすがたになつたのです。

おれら小作人はぢぬしのいふことばかりきいてゐたら、しまひにはうえじにするばかりです。みんながプロレタリアのべんきやうをして地主のてさきどもにだまされないようにしだんけつしてたたかはねばなりません。

マカヌ タネハ ハエヌヅ

〔少年戦旗〕 昭和五年八月號

## 二、勤 勞 (改作)

筒井村の農家に作兵衛君といふ人がありました。祖先からの借金が澤山あつたので、その日／＼のくらしもなかなか難儀でした。作兵衛君は幼い時から何とかして家の借金を返したいと思つて一生けんめいに働きました。

十五歳の時に母は病氣でなくなりました。作兵衛君は朝晩食事の世話をし晝は父と一しよに田畑を耕しました。又夜おそくまで草鞋を作りそれを軒下につり下けて置いて往來の人に賣りました。その草鞋の丈夫なのはき工合のよいのが評判になつていつもすぐ賣り切れましたが、その金といつてもごくごくわづかなものでいくら賣れても生活のたしにはなりませんでした。

長い間借りてゐた小作地からとれる米は地主にとられ、汗水たらして働いても地主に米を納めなければ立入禁止になり、段々食ふにも困るやうになりました。その時の親子の苦しみはたとへやうもありませんでした。作兵衛君は泣く泣く村役人の所へ行つて立入禁止を解いて貰はうとしました。

村役人たちは、立入禁止を解くどころかなぜ税金をおこたるのかといつて大變おこりました。しかし作兵衛君は「立入禁止になつたのは私どもの骨折りがまだ足らないためだと思ひます。私は出来る丈働いて税金をおさめ、村の爲になる

やうにしたいと思ひます。」と言ひましたので村役人たちは作兵衛君の心掛を賞めました。

其の後、作兵衛君は夜も晝もぶつ通して働きましたが、生活はよくなるどころかますます悪くなりました。今では作兵衛君は自分の考の足りなかつたことがわかつたので農民組合にはいり、勇敢な闘士になつて悪地主や村役人と元氣に戦つてゐます。

〔少年戦旗〕 昭和五年七月號

## 三、建國祭とピオニール

伊藤 三郎

二月十一日の紀元節はもうぢきだ。

いぬ先生は、紀元節は三大祝日といつて、日本の國のたんじょう日ですから、この日をわすれる人は、日本國民ではありませんと言つてゐる。

しかし貧ほう人はこの紀元節を心から祝つてゐるだらうか。

紀元節が初まつてから今日まで、二千五百九十二年になる。しかし、その親の、その親の代々からびんほうしてゐる百姓や勞働者のくらしは、毎年毎年苦しくなるばかりだ。

その昔から、東北地方のききんや東京の震災のやうなものは何々おこつたが、それで一番苦しむのはびんほう人であつた。又悪い病氣などがはやつて死ぬのもびんほう人であつた。そして十年前からの不景氣で、一番こまつてゐるのもびんほう人だ。その上、この頃の不景氣といつたらお話にならない。失業者は世界中に三千萬人もゐるし、日本だけでも三百萬人ゐる。東京、横濱の人口よりも多いわけだ。それに飯を食はない子供、學用品のない子供の數もどんどんふえてゐる。



かういふ有様で、労働者、農民は飯が食へないで、紀元節も、祝日も、旗日もくそもあつたもんぢやない。そんなものは、資本家、地主がかつてにやればよいといつて、ちつともかまはなくなつてきた。それどころか、工場で、農村では、「賃銀をもつとあけろ！」「首切りをやめろ！」「小作料をまけろ！」「土地を百姓へかへせ！」といつて、ストライキや小作争議でたたかつてゐる。又金持の祭なんかはやめにし、労働者、農民の祭、メーデーや、三エルデーをやらう！といつて、大ぜいの労働者、農民を集めて、資本家地主の祭にまけないでデモやストライキをやつてゐる。そこで、資本家、地主はこのありさまを見て、「近頃は人の心がだんだんわるくなつてきたの、國賊が非常にふえてきたの」といつて、「今のうちに何とかしなければ日本の國はほろびてしまふ。國難がきた！國難がきた！」と云つて、あはてだしてきた。

そういふわけで、今から七年前、丁度二月十一日の紀元節に、資本家地主は黒龍會だの建國會といふゴロツキや暴力團をかりあつめて、ストライキはやめろ！労働者や小作人は資本家地主のいふことを、おとなしく聞け！きかぬ奴は賣國奴だ、國ぞくだといつて、在郷軍人、青年訓練所や少年團まで、鐵砲や劍をもたせて（労働者、農民をおどかすつもりで）東京市中をデモつてゐる。これがみんなも知つてゐる建國祭のはじまりで、それから毎年々々二月十一日に建國祭が行はれるやうになつてゐる。そして、今年は七年目だ。

今日本の資本家地主共は、自分たちの金もうけのため、労働者農民を引つぱりだして滿洲戦争をやつてゐる。労働者農民はこの不景氣に、働き盛りの若い者を、うばはれるのでそのこまり方は一通りではない。それで、資本家地主や、政府の横暴や、おやぢや息子を殺す戦争をのろつてゐるものは少くない。そしてそのろひの聲は、世界中の労働者農民の中にひろまりつゝある。

かういふ時にあつて、こんどの建國祭を迎へることになつてゐるが、資本家地主は、いつもの建國祭よりか、うんとと力をこめて、労働者農民をおどかし、ストライキや小作争議を起させないやうにデモをしなければならぬといつて、今その準備で夢中だ。

ところが、労働組合、農民組合のりこうな人達は、この資本家、地主共のやり口にだまつてゐないで、労働者、農民も奴等にまけずに、ストライキや小作争議を起す準備をすゝめてゐる。ではピオニールはどうすればよいか。

イ、どの學校でも、その日には式があるが、ピオニールは大ぜいの子供と一しよに學校を休んで、式には一人も出ないやうにする。そのためには前々から子供達に建國祭のほんとうのわけをはなしてきかせること。それから、その日はなるだけ自分達で遠足やお話をひらいて面白く愉快にくらすこと。

ロ、又この日には、校長が先頭にたつて、旗行列をするところもあるが、ピオニールは大ぜいの子供を集めて、校長達の旗行列にまけないで、デモをやることだ。

ハ、かういふ仕事をしながら、ピオニールは學校で、「學用品や、ひるめしを學校でくれろ！」「職員室ばかりにストーブや火鉢をおかないで教室にもおいてくれ！」「石炭や炭をもつとわけてくれ！」といふみんなの不平、不満や要求をまとめて、大ぜいで校長のところへおしかけて、その要求を通すようにする。それで校長がきかない時はストライキをやること。

ニ、ピオニールはこの建國祭の仕事をその日だけでおしまひにしないで、すつとつづけていくために、いろ／＼なサークル（お話會、日曜會、討論會）をつくるようにしなければならぬ。



## 四、議會の話

佐々木誠治

## 一、はしがき

僕たちが學校の行き歸りやなにかに僕たちは大人の脊より大きな立看板が、此の頃いくつも立つてゐるのが目につく。僕の今住んでゐる近所（東京の小石川）には鳩山一郎と眞黒な大きな字で書いてあつて、わきに小さく「ハトヤマイチロウ」と振假名した立看板がいくつも立つてゐる。

きつとみんなの居る町や村にも色々な名前の人の看板があるだらう。がその名前はきつと資本家や地主の名前で労働者や小作人の名前はないだらう。又時々僕等の學校の名前が書いてあるからよく見ると、それは演説會があるといふ知らせだ。僕は子供だから聞きに行けないが、お父ちゃんの話によると、それは「選舉してもらひたいので、人の悪口を言ひ合つたり、俺達の樂になるように政治をしてやるといふやうなことを言つてだまからかす猿芝居の演説會だ」と言つてゐた。

今年の第六十議會は一月二十一日に開かれたが、解散になつて二月の二十日に總選舉があるので、今騒いでゐるのだ。

## 二、議會と普通せんきよ

その帝國議會といふのははみんな知つてゐるやうに、貴族院と衆議院の二つから出來てゐて、貴族院は皇族や華族や勅選議員からできてゐる。今騒いでゐるのは衆議院の候補者だ。そしてその候補者になるには、つまり立看板を立てる

には、先づ二千圓の金（供託金）を持つていつて積まなければならぬ。二千圓といへば僕達の家で毎月三十圓で暮すと見れば六十六月間、つまり五年と半年も暮せる金だ。毎日食ふにも困る労働者や農民にはこんなにくさんの金は、さかになつても出せない。それなのに犬先生は「今は普通選舉で誰でもよい人が候補者になれます」といふが、そんなことはうそつばちであることはすぐわかる。

そんなことより、たとひ労働者や小作人が二千圓の金を集めても、つていつても政府はそれがホントウに労働者や農民のためにたゝかふ人なら候補者にはさせない。みんなも知つてゐるかもしれない。山本宣治といふ人を。この人は議會でほんとに労働者や農民のためにたゝかつたので、昭和四年三月五日金持の手先に殺されてしまつた。が中に貧乏人の味方だといつて出る人があるのを見るだらう。兄ちゃんの話には「これは近頃労働者や農民の暮しの悪くなるのはなぜか？ どうすればよいのか！といふことが、どん／＼労働者や農民にわかつてきて、労働者や農民が團結して資本家や地主とたゝかひ出したので、労働者や農民の味方の振をして、ホントウはそれをくひとめるダラ幹で、資本家や地主の手先だ。だから労働者、農民にとつては資本家地主とははらない敵だ」と言つてゐた。

では一體そんな議員の集る議會つてどんなことをするところだらうか？ 僕はこんな事を聞いてゐる。

この一年間に國民からどれだけ税金をとるか（これを歳入豫算といふ）そしてその金をどんなことに使ふか（歳出豫算といふ）をきめるのだ。——今年の豫算は凡そ十三億圓といふたくさんな金だ。それは國民で一番多い労働者、農民、その他働く人からとるのだ。——又國の色々な法律をきめるのだ、と。その上に僕はブル犬先生からこんな事も聞いた。

「衆議院には縣民の代表を出して國民全體のためになるやうなことをきめるのだ。」と、だがそれはウソッパチだ。



## 三、議會とほくたち

といふのは、それは、そんなにたくさんのお金を使つて國民の幸福のためにつかふといふのに、僕達労働者の家なんて、いつも貧乏し通しで、僕もどこへも遊びに行けないし、ほしいものなんにも買つて貰へない。それどころか近頃は兄ちゃんが失業してゐるので、内の暮しはなほこまり、筆や紙や帳面も思ふやうに買つてもらへないし、お辨當も持つて行けないことがある。今僕の學校では百九十人程お辨當を持つて來られない者がゐる。それで學校では時々つまいもを少しくれるが腹一つばい食ふわけにはいかない。又僕の組には授業中居眠りして、先生に叱られる者があるが、ほんとに袋はりの夜なべを遅くまでしてゐるからだ。僕達がこんなに困つてゐるのに、そのためにちつとも金を出して、飯を食べさせてはくれない。學用品を買つてはくれない。高等科に行きたくても行けるやうにしてはくれない。

兄ちゃんが言つたが、今日本に失業者は三百萬人以上もゐるさうだ。それはふへる一方でちつとも仕事にありつけないさうだ。だから議會で國民のためつて、誰の爲に金を使はうときめてゐるのかよくわかる。去年の秋は全國、米が不作だつたさうだが中でも北海道や東北地方が一番ひどくて、お百姓はしまひには毎日わらびの根をたゝいて、その白い汁をおかゆにして吸ひ、やつと命をつないでゐるさうだ。學校の子供は晝辨當が食へないから半日だつた。で體操の時間など、あまり腹がへつてゐるので倒れたさうだ。が政府は、政府の米倉に米がいつばいあつても、ちつともそれを助けはやらない。ではどんな事に使ふのか？

## イ、軍 備

陸軍や海軍の軍費はとても多いのださうだ。今度の滿洲戦争の時にも、すぐ金を出したさうだし、又二千五百萬圓

使ふのだと新聞にあつた。その金があつたら飯の食へないものがすいぶん助かるんだとお父ちゃんと言つてゐた。ブル犬先生は國家の利益を守る戦争だと言ふけれど、貧乏人の爲にはちつともならない。その上僕達子供まで慰問金だといつて犬先生に金をとられた。

## ロ、けいさつ費

僕の兄ちゃんは去年の暮、工場の資本家が労働者の首を三十人も切らうとするので、兄ちゃん達は先頭に立つて「首切り反對」のストライキをやつた。そして勇敢にたゝかつたが、けいさつや暴力團が大ぜい押しかけて來て、命がけでたゝかつてゐる爭議團をおさへつけようとしたので、なぐり合ひのけんかになり、爭議團の勇敢な闘士はブタ箱へ投げ込まれた。僕の兄ちゃんは二十九日ブタ箱に居た。その時労働者の味方面をしてゐたダラ幹は裏切つてしまつたさうだ。「だから負けたのだ」とあとで兄ちゃんはくやしがつてゐた。

日本國中、いや世界中のあちらでも、こちらでも、労働者が資本家とたゝかつて、デモやストライキがおき、小作人は不作と借金で地主に「小作料まける！」と小作爭議がおこるが、いつもきつと資本家地主の犬の官犬がそれをダンアツする。こんなふうな労働者や農民を弾壓するけいさつにはウンと金をつかつふのだ。

## 四、議會とは？

では議會は誰のためのものだ？ 國民のものか？ いやちがふ。國民の中のホンの一部分の資本家や地主のものだ。そしてそれは國民が選挙したといふわけで、それを國民がきめたといふことにしてしまふが、ホントは労働者や農民、その他働く貧乏人の目をだまして資本家、地主の金持がきめてしまふのだ。議員のうちにはいろんな人がゐるだらうが、それは大金持の政策をきめるに過ぎない。だから僕達は議會なんかで、僕達貧乏人が幸福になるやうに、きめてくれる



と爪の垢ほど思つたら大まちがひだ。

資本家、地主の議會なんてダメだから、そんなものは打ちたほし、貧乏人は貧乏人どうしてダンケツし相談し合つて行かなければならない。

五、ボクたちはどうするか？

×ボクたちの自治會をつくれ!!

僕の學校には、僕の組ではないが、ちやうどこの議會のまねをした學級自治會がある。金持の級長や副級長やおべつかつかひが總理大臣や、大臣になつて、貧乏人の子は代議士になる。ブル犬先生が總理大臣や大臣に、色々教へて、しやべらせる。

此の間も「芳澤大使へきれいの手紙を出すこと」「滿洲軍へ慰問金を送ること」を、總理大臣が先生の言ひつけてきめて、級全體できめたことにしてしまつた。こんな自治會は學校や犬先生の都合のよいことをきめてしまふ學校のもので、決して僕達の自治會ではない。級長は先生の小使だ。だから僕達はそんな級長をやめにしちやつて、僕達の級の事は、僕達同志がジツクリさうだんしてきめる僕達の自治會をつくらなくてはならない。ボクたちの要求はウンとあるぞ。

〔ピオニール・トクホン〕第一輯 昭和七年二月發行

### 五、滿洲戰爭の話 三月十日とは？

平川 一太郎

泣くにも泣けぬ蒼ざめた出征兵士に「萬歳々々」の空元氣をつけて大勢で見送るデモを日に何回となく見るであらう。飛行機や鐵カブトをかぶつた寫眞入の新聞や號外が飛ぶ。ラヂオは又「何百人殺したとか殺されたとか」がなり立

てる。學校やお湯屋に行つても戰爭の話ばかりだ。今から二十七年前（一九〇四—一九〇五年）の日露戰爭の當時も全くこの通りだつた。僕達のお父さんたちは「自分の利益のため」とばかりブルジョア共にだまされ、おだてられてロシアの兄弟たちに命のトリッコを夢中でやらされたのだ。

其の時ロシアの革命的な労働者農民は何をしたか？ レーニンを先頭に「戰爭をやめろ！ 俺達の敵はブルジョアだ！ 奴等の政府を倒して俺達の政府を樹てる！」と勇敢に金持地主と闘つた。そして遂に三年と経たない一九一七年（十四年前）には今のソヴェート・ロシアを闘ひ取つた。それと反對に僕達は「日本勝つた！、ロシア負けた」と有頂天になつた——三月十日はこの日だ——ばかりに今もブルジョア共にコキ使はれて僕達は鉛筆一本だつて満足に買つて貰へないんだぞ。だが今度こそはロシアの兄弟達のようにキツト闘はねばならぬ。學校の先生や役人や新聞、ラヂオ等にだまされたら二十七年前の失敗をまた繰返へすばかりか、僕達ピオニールの恥だぞ！

一、滿洲を日本の植民地にするまで

資本主義の國が発達すると、其の勢力を外國に向けて弱い國を植民地にする。何故か

一、植民地の人々に高い値段で商品を賣りつけて儲ける

二、そこからとれる産物を商品の原料に安價で買ひこむ

三、工場等を建て、其の國の労働者を安い賃金で働かしてシボる

こうして、ボイ儲けが出来るからだ。

今から九十年ばかり前イギリスは支那にまで手を延ばして來た。そして阿片戰爭でウンとおどしつけて、とうとう香港をせしめると、續いてフランスとかドイツとかの方々のブルジョア共も割込んで來た。



ロシア(今のソヴェート・ロシア)とこの時の帝政ロシアとをゴッパチヤにしてはならない、これは大事な事だ)も滿洲から次第に南下した。そこでは日本のブルジョアと衝突したのが日露戦争の起りだ。この結果は日本がロシアに代つて滿洲から大威張りでドロボーすることが出来るやうになつた。

滿洲は日本の約二倍近くの面積で鐵、石炭、小麥、大豆、材木、其外重要な産物が豊富だ。僕達からしほり上げた金で南滿洲鐵道、撫順の炭坑、鞍山の鐵山、其他金になりさうな處には會社、工場、農場を建て、鐵道を敷いて、勞働者農民を、コキ使つてしほつた。文句を言つたり従はない者は、フンじばつたり銃殺する爲めに毎年四百萬圓の關東廳補助費と一千萬圓の軍隊を置く費用を出して嚴重に見張りさせてゐる。こうしていよいよ滿洲を日本の植民地同様にしてしまつた。

## 二、滿洲の勞働者農民はドンナにシボられてゐるか

滿鐵文でも今日迄に十億圓(千軒の家が毎月三十圓づゝの暮しをするとして神武天皇より今日迄約二千八百年遊んで暮せる)以上の純利益が上つてゐると云はれてゐるが、——實際はそれ以上——その莫大な金は、撫順炭坑の地の底でツルバシを振ひ、鞍山の熔鑪で鐵を熔し、油だらけになつて汽車を走らせてゐる四萬の勞働者(支那人二萬五千人、日本人一萬五千)の懐に入つたか? どうしてこんなに働く人々は豚見たいな生活をさせられてゐるのだ。普通ならば日給五圓以上の仕事を「支那人を雇へば三十錢位で働く、理想的な機械だ」と人間を機械にして使つて、一人一月の賃金文でも百四十圓以上からの餘分の金をしほつてゐるのだ。これは一例に過ぎないが。

滿洲には三千萬の支那人二十萬の日本人の勞働者農民がゐるが、この勞働者から大豆粕をシボル様にしてしほつた金は全部三井、三菱のブルジョア共の金庫に轉び込むのだ。では内地の勞働者農民は幾分でもウルホヒがあるとも思つたら大間違ひだ。

農村の小作人が高くて買へないでコボしてゐる豆粕は滿洲で安く出來たのを内地の農民に高く賣りつけてゐるではないか。「滿洲は日本國家の生命線だ」と云つてゐるが、これは日本ブルジョアの生命線と云ふ事で僕達プロレタリアの生命線では決つてないのだ。

## 三、支那のプロレタリアは如何にタタかつてゐるか

支那人口四億の中約三億のプロレタリア(約八割は農民)は滿洲の三千萬のプロレタリアと同様に、世界中のブルジョアにしほられる上に舊くからの地主や近年盛んになつた支那の資本家、それから數萬の軍隊を持つて地主や資本家から金を貰つては肩持ちをする「軍閥」と言ふ蒋介石や張學良見たいな者にもしほられて、まるで二つも三つものシメ木で締められてゐる様なものだ。

今から八年前(一九二四年)頃より孫文のひきゐる國民黨(三民主義を旗印にした社會民主主義に似たもの)の勢力が非常に強くなつて「外國のブルジョアをおつばらへ」の國民運動が盛んであつた頃は、支那のプロレタリアの黨(××黨)とも手を握合つて一緒に闘つた。孫文が死ぬると蒋介石がその後を引ついだが、ブルジョアから何千萬圓か貰つて寢返つてプロレタリアをタタきつぶした(一九二七年)

だがこの彈壓をけつて「外國のブルジョアをタタき出せ!」「軍閥を倒せ!」と、支那の中部である湖南、湖北、江西省等を中心にソヴェートを建設しつゝその勢力は風にあふられて燃え上がる火の様に全支那に伸びて行きつゝあるのだ。最近の上海の暴動も「共產黨員の指導」だと新聞にも………書いてゐる



る様に支那のプロレタリアはテッポウダマをくゞつて勇敢に闘つてゐるのだ。

#### 四、満洲戦争はどんなタクラミで始つたか

支那プロレタリアの力は満洲にも日々に強くなつて行つた。一方蒋介石等の軍閥も外國を追ひ出せば自分一人でシボる事が出来るので、さも支那労働者、農民の味方の様な顔をしてこの仕事丈には一緒になつてやつたのが排日の起りだ。

日本のブルジョア共は愈々驚いた。これでは植民地「満洲」をいつまでも自分のものにしてしほる事が出来なくなるので「中村大尉事件」にこと寄せて大砲をブチかけたのが今度の満洲事變や上海事件の起りだ。

もと／＼ブルジョア共の「金儲け」から起つた戦争だがこの裏には次の様な恐ろしいタクラミがあるのだ。

1. 支那のプロレタリアが、ソヴェート・ロシアの様な「労働者農民の國を建設」しようとする大仕事（革命）をブチこわすため

2. 日本のブルジョアの言ふ通りになる宣統帝と言ふブルの王様を連れて来て、安心して支那の労働者農民からしほれる様な國「新満洲國」をつくり、あわよくば朝鮮みたいに日本のものにしようとしてゐる事

3. ソヴェート・ロシアをブツぶさうとしてゐる事

この計畫は日本語ではない、世界中の資本主義國はみんな同じ考へでやつてゐるのだ。その先陣を日本が引受けたわけの事に過ぎない。戦争をなくする爲めの國際聯盟の會議に集つて来たブルジョアの手先共が「日本のすることがゴモットモダ」と言つて日本の軍隊が鐵砲をうつのを見てゐるではないか。

#### 五、満洲戦争は俺達を鐵砲ダマにしてブルジョア一人で儲ける戦争だ。

「東洋平和のため」とか「共存共榮」とかテイサイのよい事を言つて御國のため（實はブルジョアの爲めに命を捨てる）人間を澤山に作つて映畫や芝居にまで三勇士等を仕組んで一生けんめいだ。

日露戦争では五十億圓と九億人の命がフツとんだ。その金は僕達から税金で取り上げた金だ。今度の臨時議會も満洲戦争の費用何千萬圓かを僕等から捲上げる事を決議するためだ。いつでも戦争で死んだり傷をする兵隊はみんな貧乏人で一家の大黒柱だ。僅か二、三日の間に息子が出征して暮しに困つてお母さんが自殺した實話が荏原町と日暮里で二つもある。戦争が生んだ悲劇は其處にも此處にもたくさんある。若し君のお父さんや兄さんが出征したらどうなるか、戦死でもしたらどうだ？

日露戦争で命的に戦つた労働者、農民の暮は樂になつたか、「一太郎やあーい」で有名な岡田一太郎は一昨年食ふに困つて北海道へ出かせぎを思立つたではないか。足や手を取られたみすほらしい姿で品物を賣り歩いてゐる癡兵を見た事があるだらう。戦争であんなに働いてこんな目にあふとは約束が違ふ」と明治神宮の前でハンガー・ストライキをやつた一昨年の事を覚えてゐるだらう。戦争して儲かる奴は地主と金持だけだ。僕達プロレタリアには爪の垢程も樂になる處か御國の爲めに盡す事は僕達を尙一層苦しめるブルジョア共の力を大きく強くしてやるだけだ。

#### 六、三月十日とは？

満洲戦争の最中に三月十日の陸軍記念日を迎へやうとしてゐる。學校では校長や軍人が日露戦争のウソ話や旗行列等をやらせる。今年も宮城の前で學生・青訓・在郷軍人等のデモやラヂオは舞臺を満洲に迄擴げて「陸軍記念日の夕」等やる計畫をしてゐる。一年々大が／＼りになつて来たがこれは何故だ？ それは今のソヴェート・ロシアと舊帝政ロシアとを同じものゝ様に思はせて、露西亞を憎ませ、ソヴェート・ロシア攻撃の戦争をやらうとしてゐるのだ。僕達プロ



レタリアはこの日を「戦争反対」で闘はねばならぬ。  
七、ではドウたゝかふか？

僕達は戦争とはどんなものであるかを知つた。支那の兄弟達と腕を組んで同じ敵である日本のブルジョアと勇敢に闘つて奴等をやつつけようではないか。ではどんな具合に闘つたらよいか二、三の例を挙げると、

一、戦争の本當の事を皆に教へてやれ。

1、友達に學校歸りでも遊び時間でも何時でもかまはない。ほんとうのことを「成程」と思ふまで親切に話してやれ。

2、成程と思ふやうな友達を次から次へふやせ。

3、二人か三人出来たら、次の様な事を相談し合へ。

イ、皆に本當の事を知らせるにはどうしたらよいか。

ロ、どんなにして同志をふやしたらよいか等々。

4、家の人々近所の青年達にも話してやれ。

二、戦争に反対する事。

1、學校などで先生や友達がマチガッタ戦争の話をしたらドシ／＼ヤッつけて「君の言ふ事が本當だ」と皆に思はせる様にやれ。

2、慰問文等はこちらの考へで書け。

3、飛行機を作る金等は出すな、慰問金などは「金持、地主が出せ」とたゝかへ。

4、三月十日には次の様な事を考へてやれ。

イ、出来るだけ多くの人を集めて「戦争」のお話會・座談會・討論會等をやれ。

ロ、旗行列や募参り等には参加せず一人でも多く自分達のやる「戦争反対のデモ」にひつぱりこんで旗行列等はチこわして仕舞へ。

こゝで大切な事は學校等でこんなにして貰へばいゝなあと思ふ様な事……例へば「學用品をタダよこせ！」月謝は金持地主で出せ！」といふ様な問題と結びつけて闘ふことだ。「ピオニール・トクホン」第二輯 昭和七年三月二十二日發行

#### 六、メーデーと節句の話

五月五日は端午の節句と言つて昔から武者繪の幟や鐘鬼の繪を書いた幟や、又鯉の吹き流しを立てたり、家の中には鎧や武者人形を飾る習慣があります。(中略)五月節句が近づくと何處の玩具店の店先にも何十圓もするやうな鯉幟や武者人形が美しく並べられますが、こんなものを買ふことの出来るのは俺達のおとつあんを搾つてゐる工場の資本家や地主の子供だ、金持の子供だけがそんな人形を買つて五月の節句を祝ふのだ。

五月節句は決して俺達労働者や農民の子供の祭の日ではない！

俺達労働者や農民の子供の五月祭は矢つ張りお父つあんや兄キと同じやうに五月一日のメーデーだ。

俺達も早くお父つあんや兄キに負けない強い労働者や農民にならう。そして世界中の労働者と手を握り合つて地球を取り巻いてしまふのだ。

世界中の労働者や農民や、それからその子供たちが五月一日こそ、本當の俺達の祭日だ。五月の節句は嘘つばちの金持の子供の日だ。メーデーにはお父つあんや兄貴と一緒にメーデー行列に行かう。そして力一杯、大きな聲でメーデー



歌を歌はう。

四二二  
〔少年戦旗〕 昭和六年五月號

七、夏が来た―避暑に行く人は誰か？―

秋田 雨 雀

夏が来た―あついく―夏が来た。工場の中にも農村にも夏がやつて来た。だまつてゐても汗がだら／＼流れるほどだ。こんな暑い日に機械のわきで働いたり、田畑で働くのはほんとうにいやだ。だけれども労働者や百姓は働かなければならぬ。

然し諸君、毎年夏になると、汽車に乗つて静かな温泉場や、景色のいゝ山の中で、一月も二月も暮してゐる人があつて、暑い時に暑い思ひをしなくて楽な處で暮すのを「避暑」といひます。寒い時に寒くないところへ行つて樂に暮すのを「避寒」といひます。結構な事ですね。皆さうしたいとは思ひませんか？ 然し諸君のお父さんやお母さんや、また諸君に避暑や避寒が出来ますか？ 出来ないでせう。都會や田舎のある家の子供達はお父さんやお母さんに伴はれて山や海へ避暑に行つて居る事は、毎日新聞や雑誌に出てゐるでせう。それなのに諸君のお父さんや、お母さんや諸君自身には行けないのです。

何うしてとせうか？ どうしてある人は避暑に行けて、ある人は行けないでせう。つまりある人にはお金があつて、ある人々にはお金がないからです。そんならお金のある人々は、人より多く働いてゐる人で、お金のない人々は人よりも怠ける人でせうか？ いいえ、ちやうどその反対です、お金の澤山ある人ほど怠けてゐる人で、お金のない人ほど働いてゐる人です。だから避暑といふものは、怠けて居て、働いてゐる人達のまうけたお金をまきあけてゐる人達のやる事です。

かういふ人々を「社會の寄生蟲」といつてゐます、都會の金持や、田舎の地主はみんなこの寄生蟲なのです。この寄生蟲をなくしない中は働いてゐる人達は避暑にも避寒にも行けません。學校へ入りたくても、いゝ學校へはいれません。醫者に病氣をみてもらひたくもみてもらうことが出来ません。

そんなら、どうしたらこの寄生蟲をなくして皆の幸福な社會が出来ますか？ つまり、それはね、労働者と百姓が力を得て來ることなのです。労働者と百姓が力を得て來ると寄生蟲がゐられなくなるのです、御覽なさい、ソヴェート・ロシアでは労働者と百姓が力を得て、この寄生蟲を逐ひやつてしまひました。だからソヴェート・ロシアでは、毎年今頃になると、労働者や百姓の子供達は日に何百人となく汽車に乗つて涼しい海岸や森林に行きます。黒海の岸や、裏海の岸や、カウカサスの温泉場や、シベリヤの避暑地は元氣な労働者の子供達で一杯です。子供達は水泳をしたり、日光浴をしたり、唱歌を歌つたり、ダンスをしたりして愉快にして夏をすごしてゐます。かういふ避暑地をソヴェート・ロシアでは「サナトリウム」(靜養所)と呼んでゐます。またレーニンградといふ昔の都の近所の「王様の村」といふ避暑地は今では「子供の村」と呼ばれて子供達の楽しい遊び場所になつてゐます。

ドイツでも労働者と百姓の力がだん／＼強くなつたから、労働者や百姓の子供達が、汽車に乗つて海岸や山へ行つて労働者や百姓だけの愉快な避暑をやります。世界中の労働者と百姓がほんとに強くなつた時に初めて誰でも、避暑が出来るのです。いゝですね！

〔少年戦旗〕 昭和四年七月號

八、肉弾三勇士の話

田宮 日出夫

廟行鎮の戦

四二三



昭和七年二月二十二日、日本の労働者農民の兵士を率ゐる下村少將の日本軍は支那の十九路軍と上海からあまり遠くない廟行鎮といふところではけししい殺し合をやりました。

十九路軍は日本のブルジョアのドロボウ戦争に反対して立つた勇敢な支那の軍で頑丈な鐵條網と、自由自在に通じ抜ける塹壕を鐵條網の側近くこしらへ、その塹壕にはたくさんの機關銃を備へてプロレタリアの爲に廟行鎮を守つてゐました。(中略)

ヒシ／＼と骨まで泌みる寒さと空腹と疲れでヒドク瘦せ衰へた多くの日本の兵士達はもう戦争する元氣なんかありません。足の指先は凍傷でくされ耳もクチャ／＼に破れてゐるのです。そして口をきく元氣さへありません。みんなは遠い日本の父母や兄弟や妻や子供の事を想ひ出しては、ソット涙を拭きました。

#### 決 死 隊

(前略) ブルジョアのドロボウ戦争の爲には兵士たちは少しも人間扱ひにされません。まるで鐵砲のタマでも扱ふ様に兵士達の命はかへり見られないのです。

こんな具合で工兵たちは決死隊にされました。戦ふ元氣さへなくなつて、疲れ切つてゐるのに決死隊になつて死ねなんて云はれた工兵達はサメザメと泣きました。

#### 無 惨 な 戦 死

十九路軍の機關銃は次第に勢をましてバラ／＼と猛射されます。決死隊は見る／＼二人たほれ、五人たほれ、十人たほれ、だん／＼人数がへりました。(中略)

この時前島少尉は生き残つてへト／＼になつてゐる工兵達にどなりました。

「進め！ 進め！ 死ぬんだ。死ぬんだ。」

併し九名の工兵達は寒さと空腹と疲れで綿のやうになつてゐます。前島少尉は後で軍刀をふりまわして

「破壊筒を鐵條網に投げ込め！」

と自分は何もしない癖に工兵たちばかりをどなりつけました。(中略)

北川、作江、江下の三工兵は前島少尉に下されてしづぶ破壊筒をかついで走りました。(中略) 三工兵は砲弾の下をくゞつて鐵條網の傍まで行つて、破壊筒を鐵條網に投げる事が出来たけれどもあまりの疲れと寒さと空腹で身體の自由を失ひそのまま破壊筒の爆破と共にコナミジンになつてかあいさうに戦死してしまひました。(後略)

#### 肉 弾 三 勇 士 と は ？

北川、作江、江下の三工兵についてはミクニの爲バクダンを身體一バイ巻きつけて鐵條網の中へ飛び込んだ勇敢な三勇士だなんてデカ／＼と書きたてました。(中略) なぜでせうか。

それは戦争がブルジョアの爲のもので決してプロレタリア農民の爲のものでないことを國民が知り初めたからです。東京や東北地方、新潟あたりでは一家の働き手の若者を召集されて、首をくゞつて死んだもの、氣狂ひになつたもの鐵道自殺をしたものが大分ありました。又戦死したと聞いてその日から病床についた妻や、その日から食ふに困つて食にならなければならぬ者もありました。それでプロレタリア、農民達はブルジョア戦争反対の闘争をあらこちらで初めました。その爲にブルジョア共はあわてだし「肉弾三勇士」を急こしらへして宣傳してゐるのです。僕たちピオニールはブルジョアのドロボウ戦争に力を合せて反対しなければなりません。



## 九、わたの喧嘩

ある工場街に今津、永田と云ふ二人の子供が住んでゐた。ある日新聞を読んでゐたが、どうも「印綿不買」と云ふことが分らない。そこで先生の所へきゝにいつた。

二人「先生『印綿不買』と云ふのは何のことですか」

先生『「印綿不買」か、君達は感心だ。外の子供が往來で紙芝居を見たり飴をたべたりしてゐる時に世の中の出来事はつきり知らうとするのは立派な心掛だ。印綿不買と云ふのは實は日本とイギリスの喧嘩なのだ。』

今津「どうして喧嘩をしてゐるのですか。』

先生「それは綿のためだ。君達は綿から綿糸、綿織物ができて、それから着物が出来るのを知つてゐるだらう。綿糸綿織物を造る工場をなんと云ふか知つてゐるかね。』

永田「紡績工場です、先生僕の姉さんは日清紡績工場で働いてゐるのです。』

先生「さうか、さて、今から十年位前はイギリスの紡績工場でできる品物が世界ではばをきかしてゐたのです。所が近頃日本の紡績工場のできる品物の方がよく賣れるやうになり、殊に支那や印度では、イギリスの品物は賣れなくなつてしまつた。どうして日本の品物の方が賣れるのだらう。』

今津「先生それは日本の品物の方が安いからでせう。』

先生「その通です。それではどうして日本の品物は安いのだらう。』

永田「分りません。』

先生「それは日本の紡績工場の職工のお給金がどの國よりも安いからだ。日本の様に外國から綿を買ふ國は職工のお給金をうんと安くしなければ品物を安くできないのです。所が印度で日本の品物が賣れて、英國の品物が賣れなくなつたので印度の親分である英國の紡績會社は怒つて、印度の政府に云ひつけて日本の品物に七割の關稅をかけた。』

永田「關稅と云ふのは何ですか。』

先生「輸入品から取る税金なのです。例へば日本の一圓の品物は印度では一圓七十錢になるのです。イギリスの品物が一圓五十錢だつたとすると今度はかへつて日本の品物の方が高くなつた。そこで日本の品物が賣れなくなつてしまつた。日本の紡績會社は怒つて印度の綿を買はないことにした。これを『印綿不買』と云ふ。』

今津「では、これは日本の紡績會社と英國の紡績會社との喧嘩ですね。』

先生「そうだ、えらい。一般人民には少しも關係はないのです。』

永田「之は一體戦争になるでせうか。』

先生「なるかも知れない。』(完)

(東京帝大セツルメルト發行「兒童問題研究」附録「子供新聞」第五號 昭和八年十二月發行)

## 十、校長先生がわるいことをしたんだつてさ!

とし夫「きみ知つてゐるか、校長先生がわるいことをしたんだつてね。』

タケ夫「うん知つてゐるさ、二十人もケイサツへつれてゆかれたんだヨ。』



とし夫「いつも自分でわるいことをしちやいけないつていひながらするなんて、うそつきだ!!」

### 十一、コドモの盜賊團あらはる!

とし夫「この前の新聞に本所の子供が盜賊團をこしらへたんだつてさ。」  
 ミンナ「フンそれでどうしたい。」

とし夫「ガッコウにゆかないで店のしな物をぬすんでうりはらつてはその金で活動寫眞ばかりみてゐるたんだヨ。」  
 ミンナ「今のガッコウはおもしろくない。」

「みんなでもつと世の中のことをかんがへるやうにしよう。」

「サンセイ、サンセイ」

(以上十、十一「兒童問題研究」附録「子供新聞」第六號 昭和九年二月一日發行)

### 十二、地主土地會社はぬすとだ!!

おらんどのおとつゝあんや、おかあさんや、あんちやんや、ねえちやんが、毎日／＼はたらいで作つた稻や藪を地主や土地會社の奴めが、この間とりに來た。またじゆんさの奴等が、おやじや、あんやをトラックにのせてけいさつにつばつたぞ!

地主めは小作人が米をつくつてやるから生きてゆかれるのだ! 小作人がなかつたらうえ死だ! それだのに思はずの地主めは貧乏でこまつてゐるおらんどは學校にベントウを持つてゆけなくなる!

小作人の小供は皆手をつないでわる地主めをやつゝけろ!

地主の小供とはあそぶな!

(鳥根縣縣村ピオニール「小供新聞」)

### 十三、神様の話

どこの學校でも神社におまゐりをさせられる。お宮におまゐりしないと先生に叱られる、先生がこしらへた自治會では「お宮の前をとほつたらおじぎをしませう」なんてきめるのだ。村のお宮のお祭りには學校で行つてお詣りをする。(中略) 神様つて何だらう。お宮つて何故あるんだらう。俺は不思議でならなかつたので青年部の人にきいたらいろ／＼話してくれた。俺はそのことを話してみる。

徳川家康をまつゝてある東照宮といふお宮があるが、家康は神様ださうだ。百姓とナタネの種はしほればしほるほどとれるといつて百姓をしほりぬいた鬼のやうな奴だ。今で言へば天皇や三井のやうな大資本家大地主とおなじやうに貧乏人の敵だ。働く人をすばらしくしほつた奴は天皇でも將軍でもみんな神様にまつられるのだ。

東照宮ばかりでなく神社にまつられる神様はいつもこいつも働く人達をイヂメてイヂメぬいた奴だ。そんなものにくらおじぎをしたのんだつて屁にもならないわけだ。

お宮は大きい森や山の中なんかうすぐらいところを立てゝわざ／＼おそろしいやうにしておじぎをさせるのだ。神様が有難いのは支配階級ばかりだ。何も知らない百姓たちをだますのには一番よいからだ。貧乏な人達を神様の力で生活がよくなるようにダマしてオガマしておけば失業させても賃金を下けても、小作米を高くとつても神様のバチだから仕方がないと思つてだまつて働いて餓死してゆくから金持にはとてもよいのだ。



この話をきいて金持の奴、敵ながらアッパレうまいことをやつてると思った。  
お寺もキッとお宮とおなじことだらう。  
おれたちピオニールはみんなして神様退治をやらなければならないと思ふ。  
お宮へいつてもおじぎなんてしまい。友だちに神様の正體を知らせてやろう。お宮へオサイセンをあけたりお祈りにゆく村の人々をつかまへてよく話してやらう。貧乏なおれたちにはしつかり團結して金持や地主とたゝかふよりくらしをよくすることは出来ないんだ。

〔ピオニール夏休み帖〕昭和七年八月發行

#### 十四、笑話

先生「祖先をうやまはなければなりません。昔からあることは守らなければなりません。」

プロ吉「人間の祖先は猿みたいな動物だつて、動物の時間に覺えました。」

先生「そ、そうです。」

プロ吉「祖先をうやまふつて猿みたいな奴のお尻をおがむことですか。」

先生「ギョッ。」

〔少年戦旗〕昭和五年二月號

#### 十五、ピオニールの誓ひ

#### A、ピオニールの誓ひ

ソヴェート同盟のピオニールはその入團式において左の如き誓約をする。

社會主義ソヴェート同盟共和國の若きピオニールとして私は同志諸君の前で、嚴肅に左のことを誓ふ。

一、私は、全世界の労働者、農民の解放のための闘争において、労働者階級の利益を斷乎として守るものである。

二、私は、イリイチの教へと、ヤング・ピオニールの「掟」と「習ひ」とを、誠實に撓みなく實行するものである。

#### B、イリイチの教へ

「イリイチの教へ」といふのは、即ち、レーニン（ウラヂミール・イリイチ・ウリヤノフ）の教へのことであつて、「ヤング・ピオニールの指針」を、次の如く要約して、ピオニール達に示したものである。

コムニストの全課題は、後れたる人々を説得する道を知り、彼等の中で働くことであつて、自分達を彼等から隔てる垣を設けることではない。

働くことを學ぶこと、これは、ソヴェート政府が民衆の前に置くべき課題を、全幅的に表はせるものである。

激越なる言葉を少く、日常の質實なる仕事を多く。

我がソヴェート同盟の運命は、終局的には、農民大衆が労働階級と協力し、労働階級との同盟を忠實に守つて行くか否かに、かかるものである。

コムニズムの社會を建設する眞の課題は、正に今日の青年が負ふところのものである。

生産的の仕事並びに現實の闘争を伴はずしてはコムニズムのパンフレットや著作から得られたるコムニズムに就いての書物知識は、絶対に何等の價値もなきものである。

人類の頭腦によつて今日までに、集積せられたところのものを吸収せずして、コムニストと成り得るものであると結



論するやうなことがあれば、諸君は大いなる誤謬を犯すものであらう。

労働者——農民と腕を組んでの現実的活動に於いてのみ、眞のコムニストと成ることが可能なのである。

### C、ヤング・ピオニールの掟

「ヤング・ピオニールの掟」といふのは次の五項である。

- 一、ピオニールは労働階級の利益並びに、イリイチの教へに對して、忠實を守る。
- 二、ピオニールは、コムソモール並びに黨の若き弟妹であり、助力者である。
- 三、ピオニールは、他のピオニール達の一同志であり、又、全世界の労働者、農民の子供達の一同志である。
- 四、ピオニールは、周囲の子供達を組織し、彼等の生活に参加する。ピオニールは、凡ゆる子供達の模範である。
- 五、ピオニールは知識を追求する。知識と技能とは労働者の利益のための闘争に於ける重要な力である。

### D、ピオニールの習ひ

「ピオニールの習ひ」といふのは「掟」を補足するやうな性質のもので、これにも、次の五項がある。

- 一、ピオニールは、自分自身の健康並びに他の人々の健康を護る。彼は寛容であり、快活である。彼は朝早く起きて、體育をやる。
- 二、ピオニールは、自分自身の時間を節約する。彼は仕事を急速、敏活に遂行する。
- 三、ピオニールは、勤勉であり、忍耐強く、又、凡ゆる事情、如何なる事情の下にありても集團的に働く方法を知つており、且つ、凡ゆる境遇から抜け出す道を發見する。
- 四、ピオニールは、民衆の財産を節約し、自分の書籍、衣服並びに、職場の備品を大事にする。
- 五、ピオニールは、悪口を言つたり、煙草を吹かしたり、酒を飲んだりしない。

〔新興教育〕昭和六年七月號

## 第三章 國語科教材

### 第一節 読み方教材

#### 第一 概観

読み方教材は種類が多く大抵の教材は之に屬するとも言はれるであらうが此所では特に児童の文學的讀物だけに就いて説明する。

左翼陣營に於いては児童の爲の文學をプロレタリア児童文學と稱し共産主義思想を宣傳煽動する爲の一の有力な武器として重要視してゐる。

我が國最初のプロレタリア教育の教材たる「無産者新聞」の「コドモのせかい欄」に掲載されたものも亦此のプロレタリア児童文學の作品であつた。其の後もプロレタリア文藝作家に依つて此の種の教材が一番多く書かれ、プロレタリア児童の爲のテキストには何れも此の児童文學的作品が掲載されてゐる。即ちプロレタリア教育の教材の大部分は此の文學的教材であると言つても過言でない程である。

然らば児童文學の本質とは何か、暫く彼等の言ふ所を聞いて見よう。

「階級を持つ人間の子は畢竟『階級を持つ人間の子』なのだ！階級人に導く以外に何者へ、どこへ導かれ得る



と云ふのだ？ 嚴然利害相反する階級對立の社會である。此の階級對立を如何にして解決するか？ 吾々は自らを解放する前に飽く迄闘争の手段を擇ばなければならない！ そして吾々の子供をもそれに動員し参加せしめねばならぬ！ 斯くして兒童文學も大人の階級文學同様（無論兩者の表現形式内容等々の相違は認められるが）結局藝術特有の機能による階級的役割——「階級的生活感情の組織化」の任務——を使命付けられ果さざるを得なくなるのである。即ち支配階級的奴隸的觀方、考へ方、感じ方を斷然排撃し、吾々無産階級の眞に『正しき世界觀』へ導く——その事は『正しき行動』へ導く事以外で無いのだから。これこそプロレタリア兒童文學——『兒童を對象とするプロレタリア文學の一分化』——の最初にして最後の任務であり、また目的であり、更に又これ故に存在意義を主張し得られる所以でもあらねばならぬ。」

以上でプロレタリア兒童文學の如何なるものであるかの本質的考察は大體に於いて遂げられたと思ふ。而して齊しく兒童文學と一括的に呼ぶ中にも數種のものがあるが其の中で兒童文學を本質的に代表するものは何かと云ふとそれは童謡・童話・寓話・少年少女小説・脚本等である。以下順次夫等に就いて説明しよう。

最も初期の兒童文學は童謡である。彼等は之をプロレタリア童謡と稱してゐる。此の特徴は象徴的諷刺的でありながら韻律的感覺的端的で、然も發聲と動作を無意識的に伴ふから巧みに兒童の心を捉へる所にある。又之は文學と言ふよりも寧ろ音樂的であることをより必要とする。故に彼等は此の童謡に音符を付けてプロレタリア唱歌として屢々利用する。（之に就いては唱歌科教材の所を参照されたい。）

今プロレタリア童謡を其の内容から分類すれば「五いちいさん」「猿と蟹」「デンデン蟲」「ぼたる狩」の如く普通の

童謡唱歌を改作したもの、「村の學校」「ネンガシキ」「通信簿」の如く學校教育を諷刺するもの、「廢兵」「兵隊」「ゲンカ」の如く戦争反對の思想を盛つたもの、「喧嘩」「元氣な俺達」「鯉のほり」「蚊ブンブン」の如く階級闘争、階級意識、地主反對の思想を表現したもの、「ピラ刷」の如く労働争議の状況を表はしたもの、「長屋」「夕焼」の如くプロレタリアの悲惨な生活を歌つたもの、或は「文福茶釜」の如く反宗教闘争の意味を含んだもの等實に種類が多い。

次に童謡に就いて云へば彼等が我々に古くから傳はつてゐる「猿蟹合戦」「桃太郎」「足柄山」等のお伽噺や「獅子王と蟻」の如きイソップ物語を巧みに改作してゐる點が目につく。兒童は御伽噺やイソップ物語を好み然も是等の御伽噺の内容解説はどうにでもなるのであらうから其の利用は百パーセントの効果がある。階級的教員は是等の物語を見逃さないものである。

是等の改作物の外に彼等の側で創作した童謡は澤山あるが其の中でまとまつたものとしては「無産者新聞」の「コードモのせかい欄」に出た「首輪をはめられた鶴」及び「プロレタリア藝術」に出た「にぎりめし」がある。又歴史童謡として「スバルタクス」「ナポレオンの末路」等があるが前者ではスバルタクスを人民のための闘士として賞讃し、後者ではナポレオンが人民のためになることをしなかつたので流されたのだと説いてゐる。傳説童謡風に書かれた反戰的寓話として「太次郎ヶ池」（『前衛』所載）がある。

プロレタリア少年少女小説として我が國最初のもの恐らく「地獄」（『プロレタリア藝術』所載）ではなからうかと思はれる。之は兒童に社會主義者と呼ばれる人間が如何に親しみやすき善人であるかを示した作品である。其の後少年少女小説は續出したが其の中で少年小説として「ドンドンやき」「ハクシオン婆さん」少女小説として「源さんとなみ子」「ストライキを起した少女」を例示する。



扱て最後に脚本の代表的なものに就いて説明しよう。彼等は此所でも亦我々の教材を改作して利用してゐる。即ち「水兵の母」は其の例であつて之は尋常小學國語讀本卷九、第二十四を書き直し、反戰的思想を巧みに織込んだものである。其の他にプロレタリア文藝作家の書き下したものが種々ある。併し本書では紙面の都合上「パンは誰のもの？ 小さい赤い雌鶏」「サンタクロスの贈物」の二篇を掲げるに止める。前者は働かざるものは食ふべからずの思想を表したもので、後者はプロレタリアの同志愛、團結を説くものである。

第二教 材

(一) 童 謠

一、五いちいさん

仕事なされよきりきりしやんと  
かけたたすきのきれるまで  
五いちいさん歌ふけど  
白はコト／＼カラ廻り  
待つても待つても人が來ぬ  
仕事を頼む人が來ぬ  
五いちいさん歌止めて

なぜだと聞けば子供らは  
五いちいさん知らないか  
村はいくさのまつさい中  
地主といくさの眞最中  
米をやれとて地主奴が  
んにややらぬとおいたちも  
いくさの／＼眞最中

(宮崎縣「赤いチョーク」)

二、猿 と 蟹

榎木 楠 郎

猿から貰つた柿の種  
だまされたとは知らぬ蟹  
ねぢ鉢巻で肥料やる  
二葉に芽が出て花が咲く  
果がなりやどこから出て來たか  
ひよつくり山猿赤い顔  
美事、美事とほめそやし  
つる／＼登つて山猿め  
ムシヤ／＼頬張る赤い柿  
氣のよい蟹はだまされて

三、デンデン 蟲

一、デンデン 蟲々  
つの出せやり出せはさみ出せ  
にくいブルジョアつかみ出せ

二、デンデン 蟲々  
えらいなみんな揃つて加勢して  
にくいブルジョアつかみ出せ

(「少年戦旗」昭和四年九月號)



四、ほたる狩り

ほうほうほたるとんで来い  
おいらの仲間が寄つてこい  
今夜はみんなでほたる狩り  
ほうほうほたるとんで来い  
小作の子供はみんな来い

五、村の學校

村の學校の教室を  
ちよつとのぞいて見てごらん  
先生と生徒の大喧嘩  
耳をひつばるひつばたく  
本をひつ取る立たしとく  
それでもきかなきやまた叩く  
となりの教室のぞいたら

あしたは懲ばり地主がり  
ほうほうほたるとんで来い  
知らない子供もつれて来い  
竿もて箒もてやつて来い！  
〔ピオニール夏休み帳〕昭和七年八月發行

榎本楠郎

六、ネンガシキ

「トシノハジメノタメシトテ」  
カウチヤウセンセノオハナシダ  
セイトハダレモキキヤシナイ  
シリチツツクテチツネル  
ソレデモオハナシマダツク

うしろに三人立たされて  
時間のすむまで泣いてゐた  
そのまたとなりの教室は  
校長先生の修身で  
『義勇奉行』と教へてた  
〔少年戦旗〕昭和四年十月號

岡一太

七、通信簿

忠君愛國甲の上  
親に孝行甲の上  
まじめに働かけ甲の上  
主人に仕へる甲の上  
先生の言ふことすぐ書けば

織田 顔

八、癡兵

ちんばのちんばの癡兵が  
ぎしぎし、ぎつちこやつてきた  
ちんばのちんばの癡兵よ

松山文雄

うそでもなんでも甲の上  
おいらをだます通信簿  
こんなものには用がない  
〔小さい同志〕  
國のためだとおもつたのか  
うんにやおいらもだまされた  
もう戦争はまつびらだ



ちんばのちんばの癡兵よ  
みんなが、みんなだまされた  
ちんばのちんばの癡兵は

九、兵隊さん

おいらの兄さん兵隊さん  
しつかりおしよ氣をおつけ  
—— 右向け、右ッ 前エ 進めッ！  
金持アうしろで手を叩く  
(あぶないくゝ ×× の的)  
おいらの兄さん兵隊さん  
しつかりおしよ氣をおつけ  
—— 左向け、左ッ 前エ 進めッ！

十、グンカン

デックリグンカンナニクッタ

さめくゝ、ぎつちこ、ないてつた。

〔少年戦旗〕第一卷第五號

榎本楠郎

金持アうしろで手を叩く  
(あぶないくゝ ×× の的)  
おいらの兄さん兵隊さん  
しつかりおしよ氣をおつけ  
—— 廻れエ、右ッ 前エ 進めッ！  
金持アうしろで手を叩く  
(あぶないくゝ ×× の的)

〔小さい同志〕

伊東欣一

ハトバデセキタンツメコンダ

デックリグンカンオモソウダ  
ミナトデダンガンツメコンダ  
ヨクバリグンカンデックリメ  
ナーミニユラレテドコヘユク

十一、鯉のほり

今年も立てたぞ鯉のほり  
地主のガキの鯉のほり  
青空たかくぼつかりと  
風にふかれて浮いてる  
今年もふえたぞ鯉のほり  
地主のガキの鯉のほり  
おいらは飯もくへぬのに

十二、蚊ブンブン

蚊ブンブン  
血を吸つたから殺された

オイラノキヨードイキチツケロ

ヨクバリグンカンデテユクゾ

〔小さい同志〕

川崎大治

いつもほろ着て裸足だに  
今年も大きな鯉のほり  
地主のガキの鯉のほり  
おいらの米をみなとつて  
よくもたてたなこん畜生！

〔小さい同志〕

牧耕助

まだ外に  
俺らの血を吸ふ奴がある



そ奴もびつしやりまらうぞ

十三、喧嘩

××と喧嘩だそれ急げ

それ行けやれ行け

どつと行け

米虫金虫ネダリ虫

地主の俵だイバリ虫

あの道この道

とめちまへ

負けるなやめるなやつちまへ

〔全農ビオニール夏季教程〕上級用 昭和六年八月發行

四四二

武田 亞公

やせても枯れても百姓の子

出てゆく蹴飛ばせ

踏みつぶせ

××と喧嘩だ押しかけろ

それ行けやれ行け

どつと行け

〔小さい同志〕

十四、元氣な俺達

岩本多目雄

俺は何故苦しいんだ

彼奴等の壓迫が苦しいのか

彼奴等の壓迫位なら

何故がつちりと受け止めて

その餘りの力で

ドーンとはねかへさないのだ

俺達の力でドーンと

彼奴等を地球の外へとばしてしまへ

兄弟、見ねえ、あすこの

あの地球の真中を

×い旗がヒラヒラしてらあ

どの旗よりも高いぜ

行かう、俺達は

あの旗の下へ腕を組むんだ

此間のデモの時のやうに

元氣で行かう

俺達はいつでも元氣なんだ

どんな時でも元氣なんだ

俺達は元氣だ

いつでも、いつでも

〔少年戦旗〕 昭和五年四月號

十五、ピラ刷

岡 一 太

新聞燃してあつたまる

外はみぞれかしみる夜だ

プロレタリアよ俺たちは

もう一息のプリントだ

火花と散つて赤い火を

どんどともやすプリントだ

ローラとる手よ歌ひ出せ

やがて寒夜もしらむ頃

十六、長屋

岡 一 太

長屋は何時も暗いよ

お日さまなんかさしませぬ

朝から夜まで暗いよ

工場の煤がくるばかり

四四三



工場がよひのねえちゃんは

今日も今日とて血をはいた

「にくい畜生××××め

今にこの血でそめてやる！」

〔少年戦旗〕昭和五年五月號

十七、夕 焼

米村 健

夕焼小やけ

ひでりの溝で蛙がないた

『おれの喉焦ける、おれの足焦ける』

夕焼小やけ

たんほの畦でおやじがこぼす

『百姓はつらい、年貢米はつらい』

夕焼小やけ

小やけの中で子供が唄ふ

『録取れ、録研け、あした天氣になアれ』

〔少年戦旗〕昭和四年十月號

十八、文福茶釜

シュン／＼ 茶釜が鳴り出した

狸の首だぞ尾も生えた

こいつめ和尚とそつくりだ

箒だはたきだほらどこだ

はづしてかついで振りまわせ

狸も佛もなきたほせ

バタリドッサリバタバタ

くり／＼小坊主が駈けまわる

文福茶釜化け茶釜

おいそら逃けるぞ大狸

そいつも佛もなぎ倒せ

ついでに和尚もブッ倒せ

〔小さい同志〕

(二) 童 話

一、その後の桃太郎

坂 梨 光 雄

鬼ヶ島へなど、とても一人では行けぬと思つたので、桃太郎は犬や猿や雉や、そのほか大勢の者を雇つて出掛けたのでした。

如何に鬼が強いといつても、こんなに大勢で不意に島に乗り込まれたのではたまりません。金、銀、さんご、綾錦、何もかも取られてしまひ、中にはあわれな死に方をした者もありました。

桃太郎はきび團子半分づつで其日雇つた犬、猿、雉などに寶物を山の様に積んだ車を引かせ、えんやらや、えんやらや、とばかり歸つてまゐりました。

「まるでわしは王様だ。」桃太郎は先頭に立つてあるきながらかうつぶやきました。馬も牛も猫も大きな銀杏の木もこの美しい行列にみとれました。いちの悪い鳥などは「何かあー、何かあー」といつて欲しくない風をしましたが、やはり杉の木の上で大判小判を見ると、あの大きいくちばしを欲しさうに突き出さない譯にゆきませんでした。實際この行列の中に雉が居なかつたなら、鳥は飛んで行つて黄金の光りでキラキラする大判を一枚取つた事でせう。この行列の中には熊蜂も這入つてゐました。熊蜂はこの寶物を一つでも盗んだ奴は刺し殺してやるぞといつたりきみ方をして歩きま



した。

「おいらはの先祖は昔金色に光つてゐたといふ歴史があるが、あれを一枚口にしたらおいらだつてさうなれるになあ」烏は残念さうに云ひました。

エンヤラヤ、エンヤラヤと僅かづつ進んでゐた寶の車も、その日の夕方になると、おぢいさんやおばあさんの居る桃太郎の家に歸り着く事が出来ました。おぢいさんおばあさんは言はずもがな、村の人々もみんな迎へてくれました。そして誰もかれも桃太郎にあいさつをしました。雇はれた犬、猿、熊蜂、雉などが寶の車を桃太郎の家に運んで寶を床の間にかざりつけたとき桃太郎は雇つた一同に向つてあいさつをしました。

「やあ、それでは皆さん、御苦勞でございました。今度は又龍宮城に乙姫様を取りに行くからその時とはたらいて下さい。そのときも間違ひなくきび團子を半分づつあけるから。」

一同は自分達みんなで戦つて得た寶物であるから少しづつ分けてもらへるだらうと待つてゐたのですが、フトこんなあいさつをされたのでめんくらひました。「それではおいとまします。」といひはいつたものの猿さんなどの赤いお尻が疊に食いついて離れないやうな氣持でした。然しなんといつても一同はその日きび團子半分づつで雇はれたのでしたから仕方がありません。「それでは、それでは。」といつてそんなり歸つてゆきました。

みんな歸つた後でおぢいさんが、桃太郎に尋ねました。

「桃太郎や、何故お前はみんなを歸してしまはないであれを家來にして、お前がその王様にならなかつたんだい？」すると桃太郎は

「私も一時はさう思つたのですが、さうするには毎日きび團子がたくさん入用ですからね。」と答へました。

おばあさんは、この利口な桃太郎の言葉に感心しました。

x

x

數ヶ月の後桃太郎から犬、猿、雉、熊蜂などに使がまりました。

「明日から龍宮に乙姫様を取りに行くから來て呉れ、今度はきび團子を半分ぢやない、一つづつあけよう」といふのでした。

で皆は犬さんの家に集つて相談しました。といふのはこの前のときに寶物の割り前を呉れなかつたのが不平の種になつて居たからでした。

「俺はもう三日飼はれて三年の恩は知りたくない」と犬が云ひました。

「これから、ほんとうの心で猿犬相和しようね」と猿がこんな洒落をまじめな調子でいひました。

「俺は武器をもつてゐる」と熊蜂がどなりました。雉は烏帽子の羽根を逆立てゝゐました。

そして一同は次のやうな宣言書を作つて、桃太郎におくりました。桃太郎が龍宮城へ乗りこんだといふ話を聞く事が出来ないのも、一同がかうして桃太郎に反對したからです。宣言の事はよくは分りませんが、おほよそ次のやうな事が書いてあつたさうです。

宣 言

- 一、俺達は他國との争ひをやめる。
- 二、俺達の働きで得たものはみんな俺達のものだ。桃太郎のやうに俺達の働きで得たものをすつかりせしめてゐながら、きび團子で雇つたからなどいふ理屈をいふ奴に絶對反對する。



三、好きでもないお姫様を無理に取る事など、これ又絶対反対だ。俺達はさうした戦ひの爲に従軍しない。  
 桃太郎はこの返事を受け取ると、びつくりしてこの村を逃げ出したさうです。〔少年戦旗〕昭和四年七月號

## 二、鬼征伐の桃太郎

本庄 陸 男

鬼征伐した桃太郎の、本當の話を知つてゐますか。今日は、本當の話をします。

大きくなるにつれて桃太郎は、働いても働いてもこんなに貧乏してゐる自分たち百姓といふものについて、始終考へてゐました。苦心さんたんして作つた可愛いお米は、小作米小作米と云つて、地主がどん／＼持つて行つてしまふ。實際今年などは、食ふものさへ殆どなくなつてしまひました。桃太郎の村の百姓（今で云ふ農民です）は、小作米を取りに来る地主の奴に『鬼だ。鬼だ。』と陰口をきいてゐます。鬼に違ひないと桃太郎も思ひます。すると鬼なんか早く消えてなくなればよい。なくしてしまへばよいのだ！ 或日、おぢいさんとお婆さんに、桃太郎は相談しました。『この世の中をよくするためには、どうしても、あの鬼を退治しなくちや駄目だよ。俺はこれから退治に行つて来るよ。』

二人の年寄りも、これを聞いて大喜び。それもその筈でせう、長い間何十年も生血を搾られて来た憎い鬼地主でしたから。そこで、『全くだ。全くだ。』と云ひ乍ら『腹が減つては戦さが出来ぬ。』と云ふわけで、早速黍團子をつくり初めました。お婆さんは考へ深く黍團子をまるめ乍ら云つてきかせます。『なう桃太郎や、米をつくり乍ら、黍ばかり食はなならんやうな、こんな世の中が又とあらうかいな。百姓の作つた米を取り上げてたらふく食ふとるやうな奴は、この世の地獄の鬼ぢや。たたき×しても飽き足らんわい。』

『安心しな、お婆さん。そんなに何時までも苦しめてはおかんからね。さあ、出かけよう。』

この世の中の、正直で働き者の自分達百姓をこゝも虐めてゐる鬼地主を退治する——といふ桃太郎の出發は、田圃で働いてゐる者達にどん／＼擴がつて行つた。さあさうなると、『なるほど、佛様や神様にお願ひしたのでは尻にもならぬ。自分で行つて、悪い鬼地主を叩きのめすべきだ。』と、まるで盲目の眼が開いた様に勇み立つた。『よし、俺も行くぞ。』俺も行つてたゞきのめして呉れる。』と捻り鉢巻きに鍬がついで、田圃の中から次々と集まつて來ました。人間でないやうなひどい生活をしてゐた貧乏な猿吉や、犬次郎や、雉助などが先頭でした。そして彼等は口を揃へて、『憎い鬼奴！ 今日こそ敵打だ。』見ろあんな大きい家になるやがる。』鬼が島でふんぞり返つてゐるやがる。』あれも皆、俺達の××を搾つて造つたのだ。』もう容赦はせぬ。』

桃太郎は腰の黍團子を取り出して、みんなに分けて食ひ乍ら『同志！ この眼の前の鬼が島をぶつつぶすことが出来なかつたのは、俺達百姓が團結しなかつたからだ。俺達は團結すれば何んなことでも出来る。ね、さうだらう。』

『全くだ。』實際その通りだ。』、黍團子を食ひ戰鬪を準備と、のへたのです。

鬼地主は、一段高くなつた地面の上に、大きな屋敷をつくり、高い塀を廻らしてゐました。何か人に見せられない程の悪いことをしてゐる證據に、百姓達を寄せつけけないのです。だから村の百姓は、何時の間にか『鬼が島』と云ふ様になりました。

『今に見ろ！ 俺達はあの日常りと風とほしのよい大きな屋敷を、共同倉庫にするぞ。』ウん。いゝ考へだ。もと／＼俺達のものなんだからな。』さあ、やつちまへ！ やつちまへ！ 一時だつて生かしときやあ害悪だ。』ロシアでは地主も金持ちも居ないで、みんな安心して働いてるぢやないか。』

すると桃太郎が、『そうだ。百姓と労働者とで、地主と金持ちを残らず退治したからだ。』そらゆけつ！！』



かう解つてしまへば、一時だつてぢつとしてゐることは出来ない。えらい元気で皆は團り合ひました。矢でも鐵砲でも来い——と、まさにその意氣天をつくほどです。聲を揃へて、はつらつと歌ひ出しました。

米麥つくる百姓は

氣がやさしくて力持

鬼の地主を討たんとて

腕組み合はせ、いまぞ行く

.....

鬼地主の權左は驚いた。今迄蟲の様だと考へてゐた百姓が、歩武堂々攻めて來たのです。蒼くなつて、何しろこゝだけは逃れようと、急にべこ／＼頭を低け「どうか、許して呉れ」と、あやまり出しました。これを見た百姓が、ちよつとたぢろぐと、ニヤット地主が笑ひました。さあ、それを見て百姓は叫び出したのです。「だまされるな。だまされるな。」そして、「お前の土地はみんな百姓によこせ！」「俺達は鬼をどうでも退治するんだ。」「今日は生命を貰ふんだ。」「さつさと、消えて失せろ。」

「斬れ」と雉助が叫ぶ、猿吉が眉間を殴る。犬次郎が腹をふみ潰す。

それから、金銀財寶はみんな取り上げて百姓の共同保管にしました。それから、この村の人は安樂に暮すことが出来るやうになりました。この村の人は、だから世界中の百姓に向つて云つてやります。

「世界から地主と金持ちを、たゞき出してしまへ！」

ところで、あなた方は、桃太郎の話をとんでもない風に聞かされてゐる。これはまだ地主や資本家が居るからです。

地主や資本家は本當のことを話されるのが、とても恐ろしい。それもその筈です。あなた方は百姓や労働者の子供なんですからね。そこで學校の先生に嘘を教へると、鬼奴が云ひつけるのです。遊んで威張つてる奴を早く無くしてしまひませう。みんなで腕を組んで.....

〔少年戦旗〕昭和六年五月號

### 三、足柄山

阿地 努

その日も晝過ぎになると金太郎がやつて來ました。そして樵夫のお父さんの呉れた大きな斧で山の木を手當り次第に切倒して歩きました。かねて申し合せて居つた山の獸達は、この時サッと木蔭から現はれ彼を取り巻いて終つたのです。

「俺を何うするつもりだ？」

金太郎はギョットして尋ねました。

「お前は俺達の足柄山から大事なく木を毎日切り倒しに來るから今日は皆んなで殺つ付けて終ふことにしたのだ。」一致團結すると鬼だつて強いものです。彼はビョン／＼と前に進み口をモグ／＼させてかう云ひました。

「俺を殺つ附ける！俺は麓の村では一番強い子供だぞ。お前達は相撲の規則一つ知らんくせに大きい事を云はぬがい。其の上一人の子供に總係りで來るなんて何といふひきょうさだ。相撲だつたら片端から投げ飛ばしてやる、男らしく法通りに一人一人來るといふ。」

この大きい權幕に鬼はびつくりして逃げ出しました。狐は目玉をクル／＼さして、こつそり熊の後ろにかくれました。



「よし俺が出る。鹿はかう云つて金太郎の前に進みました。」

「相撲の規則を知つとるか。二つの足で立つんだぞ。前足ついたら負けだぞ。相撲には角で突くなんて、そんな手は無いのだぞ。判つたらさあ来い。」

鹿はおろかにも前足を揚げて立ち上りました。立つと目が頭の上になつて、金太郎の居所さへ見えなくなりました。その上、後ろに突き出した角の重みがあるものですから、譯なくころりと負けました。狼が兩足で立ち上りました。

「今度は狼の瘠せん坊かい。相撲には食らひ付くなんてことは出来ないのを知つてゐるだらうね。そしたら来るかい。」

狼は 後足二本で立たされた上、噛み付く事まで禁ぜられたのでトコトコと實に哀れな歩き方をしました。これも譯なく片方の足をけ外づされて負けました。腹を立てた猪はフウ／＼云つて金太郎の前に出ました。

「猪公。知つとるか、牙で突なんて法が相撲に無いのを。」

猪も又、敵の法を守つて、後足二つで立ち上るといふおろかな真似をしました。すると金太郎は猪のおへ、その處に頭を突つこみ、兩手で後足を抱んで立ち上がり「えい」とばかり其手を離したからたまりません。彼は金太郎の背を滑つて後ろへズシンと落つこち、牙が土地にうんとこさめりこみ暫くの間は、尾張名古屋は金のしやちほこをやりました。熊が注意深さうに近よりました。

「今度は熊の兄さんかい。知つてゐるだらうね？ 相撲には爪で引つかいたり頭に噛み付いたりするのは禁物だつて。そしてキチンと後足で立たねばならん事も。」

「判つてらあ。」

熊はゲン／＼と金太郎を押しました。金太郎は機會を考へながら何時迄も押されてまわりました。熊が自分の身體に適應しない無駄な力み方の爲にやうやく汗びつしよりになつた頃でありました。せめても一度と思つて熊はうんとばかり金太郎を押しました。其時ヒヨロリと金太郎が身體を横に外らしたので、彼は遂にバツ／＼其處に倒れました。

金太郎は斧を肩に横柄に力んで山路を下つて行きました。

靜かにその後姿を見送つて腕を組んでゐた熊は暫がて深い決意ある聲で一同を見廻しながら云ひました。

「俺達は確に間違つた。俺達は今日の經驗から負けになつた原因を知らねばならん。そして明日こそ金太郎を殺つつけねばならん。俺達の敗北の理由は男らしくしろだの、ひきようであるのだと云ふ奴らの道徳を守つたり、一人對一人で来いと云ふだましの手に乗つたり、奴等の相撲の法を尊重したりなど、一々敵の法に服従した結果だ。戦ふ前に先づ服従したからだ。山を荒す金太郎を殺つ付ける丈けが俺達の目的だ。俺達各自の爲にのみ團結される必要がある。今日の俺達は滑稽な負け方をしたが明日は必ず勝てる。狼は噛み付くといふ、鹿は角で猪は牙で突くといふ、俺は爪で引きさいてやる。」

〔少年戦旗〕昭和五年一月號

#### 四、イソツレタリア獅子王と蜂と蟻

松山文雄

獅子王は毎日大いばりで、がむしやらの豹や、こすい狐の家來をつれては國中の弱い獸をとつて喰つて歩きました。災難だつたのは獸ばかりではありません。草花をふみにぢられて蜜を集める事の出来ない蜂や、その亂暴な足にふみつぶされる蟻はかぞへる事がありませんでした。

ある日、ほとほと困つた蜂と蟻があつまつて「今日も俺達の仲間は二千匹もふみ殺されてしまつた。これでは安心し



て生きてゆく事が出来ない」と蟻の方で云へば、蜂は蜂で、「俺達だつてこのまゝで死んでしまふよりほかはない」と、ぶんぶん不平を云ひました。そこで両方のおもだつたものが選ばれて獅子王の所へおねがひにゆきました。

「獅子王様の御通りのために難儀をしてゐる蜂と蟻の代表で御座います。どうか働らく蜂どものために花をあらさず、働らく蟻どもをおふみにならないやうにお願いいたします。」

すると獅子王はゲランゲランと森もゆるぐばかり大笑ひして、「俺は汝等虫ケラにかまつてをられぬわ、代表だなどと生意氣な口をきいてひねり殺されないうちにとつと引きさがつたがよいぞ！」と頭からどなりつけて追ひ返してしまいました。蜂と蟻の方では大騒ぎでした。

「獅子王の横暴にまかせておけば、俺達は働く事が出来ず滅びてしまふ。死ぬか生きるかだ、こゝなつてはみんなが團結して戦ふよりほかはない。」「そうだ、そうだ、一寸の虫にも五分の魂だぞ。」

その時、平常あまり働かない蜂が、かしこさうな顔をしてみんなをなだめました。「獅子王に手向ひしたつてみな殺しにされるだけです。それよりお通りにならない所を選んで働らく方が利巧といふものです。」

けれどもいきりたつた蜂や蟻はききません。「働らきもしないで理窟ばかり云つてる奴は引込んでろ！」「裏切り者をやつつけろ！」

そして數萬の蜂と蟻は、ぶんぶんぞろぞろと獅子王に押しよせて、かみついたり、さしたりしてとうとう降参させてしまいました。

〔少年戦旗〕昭和五年四月號

#### 五、ありんがとらをこうさんさせた話

とらが力のつよいのをじまんにしてよわいものをいぢめるので、ありんは何萬びきもあつまつて、とらの目やはなや口や、けつの穴をかんだのでとらはこうさんしてありんこのけらいになりました。

地主はすくない。小作人は多ぜいだ。だから小作人がみんないつしよになると、地主をたいぢる位へのかつばです。

〔島根縣、縣村ピオニール「子供新聞」〕

#### 六、首輪をはめられた鵜（梗概）

鹿地 亘

「……慾張り爺は鵜の首に細い輪をはめて、よほよほと川へ鮎獲りに出かけるのです。鵜こそ随分迷惑な話です。いつも充分食物を當てがはれないので、すつかりおながへつて居て、首輪があるとは知りながらも水の中に躍つて居る魚を見ると思はず咽喉が鳴り出して、氣狂の様にとび付いて了ひます。然し獲れたお魚は皆首輪につかえて了つて、あとですつかり吐かされるのです……」

この労働者の鵜に對して、「何時も手に珠數を爪ぐつてゐる隣のお婆さん」が「可哀さうに」と同情する。然しお婆さんは或る日鵜が籠から救出してくれろと哀願した時、「私が逃がせば矢張りおちいさんだつて困りなされる。悲しいことだが此も佛様の思召だ、なむまいだ、なむまいだ。」と云つて行き過ぎる。そこで鵜は遂に決心し、或る日不意に資本家の顔を長い翼で殴りつけて、仲間の居る山の湖に飛び立つて行く——と云ふ梗概である。

〔無産者新聞〕コドモのせかい欄

#### 七、にぎりめし（梗概）

猪野省三



地主に一切の物を奪はれた貧農の子の「眞一」が、空腹に堪え兼ねて路頭にさ迷ひ出る。そして馬糞を饅頭と間違へてがっかりしてゐると、突然握り飯がふわりふわりと蝶々のやうに飛び出して来る。追つ駈けるうち地主の森の中へ吸込まれたので、少年は更に追跡する。そして門番や巡査に追はれて逃けるうち、見知らぬ森にさ迷ひ込む。そこで夜を迎へ、「ホーホー鳥」から「黒ごまのふりかゝつた握り飯」を貰ふ。「ホーホー鳥」は云ふ。「わしは、それはそれは長い間この森から人間達の世の中を見下してきた。」と。そして地主や金持を徹底的にやつとけろと教唆し、尙ほ「その握り飯は君が家へ歸りつくまでは、いくらたべてもへらない」事、その中には「すばらしい武器がはいつてゐる」事などを説明する。翌朝少年は鳥と別れて巷に出る。そして至る所で凡ゆる人生悲劇と階級闘争を如實に觀、自らその渦中に投じて戦ふ。斯くして「にぎりめし」は被壓迫層の人々の腹を養ひながら、少年をその村へ送り届ける。そして村の峠へ來た時、握り飯は別れを告げて朝空に飛び去る。そして少年の掌には「眞赤な星の中に銀色の鎚と鎌の合ひじるしのあるメタル」が一つ残つてゐて、朗かに戰の朝を想ひ出す——といふのである。

〔プロレタリア藝術〕

#### 八、太次郎ヶ池（梗概）

石田 茂

太次郎といふ村の若者が戦争に行く。砲弾が飛んで來て彼の片腕をもぎ取る。腕は鐵砲を握つたまま幾百里も空を飛んで村の窪地まで來て落ちる。そこで自分の家まで歸れなかつた腕が泣き、涙で大池が出来る。一羽の水鳥が池に降りて來て彼の腕の肉を食ひながら「お前は日本の軍人のお手本だ。死んでも、まだこんなにシッカリ鐵砲を握つて居る。」と激賞する。「いや」と腕が云ふ。「ドカンと來た時ビククリして握りしめたらそれつきり指がこわばつただけの話です。」すると水鳥は「さう正直にならない方がいいのだ、死んでも鐵砲を握つてゐるとする方が愛國心の宣傳になるからネ。」そして肉を食ひ盡して飛去る。腕は火の如く怒つて大池が乾上る。莖が骨をくぐり抜けて花を咲く。そして水鳥と同じやうな事を云ふ。腕は口惜しがつて泣く、そして再び大池が出来る。「村の人はこの池を太次郎ヶ池と言つてゐます。そうして今でも戦争が起る度に池が干上つて太次郎の腕の骨が白く光るさうです」

〔前衛〕昭和二年四月號「コドモのページ欄」

#### 九、英雄スバルタクス

石田 茂

昔々、今から二千年前ローマといふ國での話です。貴族は、奴隸を鞭でヒッパタいて、豚の焼肉とパンと酒とを造らせました。それから、もつとひどくヒッパタいて、大きな芝居小屋を造らせました。そしてそこに澤山の獅子と虎とを飼ひました。貴族たちは毎日／＼その芝居小屋へ行つて、豚の焼肉とパンと酒とを飲み食ひしながら、獅子や虎の居る檻の中へ奴隸を追ひ込んで食ひ殺されるのを見て面白がつてゐました。貴族といふのは、今の世の中で云へば、ブルジョア（金持）にあたり、奴隸はプロレタリア（貧乏人）にあたるのです。

その奴隸の中に、スバルタクスと云ふ人が居ました。この人は實に強かつたので虎に食はれるどころぢやありません。加藤清正は強かつたと言ふけれど、虎を殺したのはたつた一匹ですが、スバルタクスは幾匹も虎と獅子とを殺しました。だがそれだけなら大して強かつたとは言へません。今からこの人がもつと強くて偉かつた事をお話しませう。

或日の事、その日もスバルタクスは、獅子を劍の一と突きで殺しました。けれどもその時までに仲間は何人も食ひ殺されて居たし、一人は腕を食ひ切られて居ました。やがて獸と同じ様に檻に入れられ、錠を下されました。鐵柵の間から青い月の光が流れ込みました。



スバルタクスは自分の上衣で、腕一本噛み切られた仲間を繻帯してやりました。するとそれが忽ち眞赤になりました。次の男が上衣をぬいで繻帯してやりました。それも眞赤になつて血がポト／＼滴たりました。そんな風にして最後の七十人目の上衣が眞赤になつた時、血が枯れました。スバルタクスは、マルタスの様な髯だらけの顔から大粒の涙を落しながら言ひました。「死んぢやつたーオイ皆んな、この仲間を殺した奴は誰だ！」

一人が虎だと答へました。他の一人が言ひました。「さうぢやない。そいつは貴族だ！」始めの男も成程と知つて賛成しました。

そこでスバルタクスは言ひました。「俺達も明日、貴族どもに殺されるかもしれない。考へて見な。貴族どもの見世物になつて死ぬ方がいゝか！ それとも自由の青空の下でキャツラを皆殺しにして死ぬ方がいゝか！」

皆さんスバルタクスの仲間たちは何と答へたかもうおわかりでせう。翌朝、檻の鐵柵はくの字に曲つて引き抜かれてゐました。そして眞赤な血の上衣を着た七十人はベスピアス山からローマの街を睨み下してゐました。

この事が忽ちローマぢゆうに知れ渡りました。そして貴族のためにバンを焼いてゐた奴隷も、著物を織つてゐた奴隷も、家を建てゝゐた奴隷も、皆スバルタクスたちの軍に加つて來ました。貴族達は驚いて議會を開き、二人の將軍に命じて國にありつたけの軍隊でベスピアス山を圍ませました。けれども、その軍隊の中からスバルタクスに味方する者が出て來ました。翌年には非常な大軍になつてベスピアス山から攻め下りて、ローマの國ぢうを廻つて歩いて貴族どもを討ちました。

スバルタクスは、敵の投げた槍が腿に突き立つたので死にました。けれども若し今の世に生きて居たらキツト言ふにちがひない。「ブルジョア(金持)にしほられて死ぬより、死んでもキャツラを地球の外に摘み出してやる！」と。そして小

さなスバルタクスたちである皆さんも、キツトそれに賛成してくれるでせう。そしてそれをやつてのけてくれるでせう。  
〔少年戦旗〕昭和四年八月號

#### 十、ナポレオンの末路 (梗概)

榎本 楠 郎

ナポレオンは、もう自分の運命もこれまでだと覺悟しました。そして涙をのんで次の様な手紙を書き、これを議會へ送り届けさせました。

『自分はフランスを救ふために戦争を起したのだ。だから國民や議員たちは心を一つにして、力を盡して自分を援けてくれる事と信じて居た。だから自分は必らず戦争に勝つて見せる考へだつた。だが今では様子が變つてしまつて、自分はどうしようもない。で、自分は皇帝の位を自分の子に譲り、自分はこの身を帝國の罰するまゝに任す決心だ。諸君よ、どうか心を合はして國民をいたはり、フランス國の繁榮を圖つてくれ給へ。——一千八百十五年六月二十日。エリゼー宮で。ナポレオン』

だが、もう議會ではナポレオンの子を皇帝にする事も認めませんでした。皇帝や王なんか必要でないと云ふ意見が多く、遂にフーセー、カルノー、グレニアー、キーネット、ユーラクルの五人が中心になつて政府をつくり、そして一切の命令や法律は『フランス人民の名で』出す事にしてしまつたのでした。

「皇帝」はお拂箱になつたのです。フランス人たちは、ナポレオンがほんとうに自分たちの幸福をはかつてくれようとせず、労働者や百姓を引っぱり出しては戦争をして殺すので、たうたう愛想がつきてしまつたのです。



そして今度は自分たちでフランスの國を治めようと考へたのでした。かうなつては、さすがのナポレオンもどうする事も出来ません。つひに七月の二十六日にイギリス軍に捕へられ、ナポレオンはセントヘレナといふ遠い離れ島に島流しにされる事になりました。これがナポレオンの最後で、それから六年目に、ナポレオンは年五十二で病のために死んでしまひました。

フランスに攻め取られたコルシカといふ小さい島に生れ、貧乏のために苦勞したナポレオン。ブリエンヌの兵學校時代には貧乏な學生だといふのでみんなから除け者にされ、或る時はコルシカ島を攻め取つたジョ・アシュール侯爵の畫像の前で拳をかためて「今に見て居れッ！」と叫んだナポレオン！

だがナポレオンは自分一人が偉くなる事ばかり考へて、みんなと一しよに世の中をよくしようとしなかつたために、おしまひにはみんなに見放されてしまひ、可愛さうな死に方をしてしまつたのでした。「不可能」といふ言葉を字引からなくして見せると云つて居たナポレオンも一人の力では結局「なんにも出来なかつた」のです。

〔少年戦旗〕 昭和五年五月號

### (三) 少年少女小説

#### 一、地 獄(梗概)

鹿地 亘

孤兒の正一といふ少年乞食が「熊のやうな親方」乞食の命令で、雪の降りしきる町へ貰ひ物に出て行く。すると「豪氣な二頭だての馬車」がやつて来る。少年は堪らなく乗つて見たくなり、いきなり車の後にすがり附く。そして美しい

洋館の前まで行つてしまふ。紳士がその中へ消入つた後、少年はふと一つの窓からクリスマス樹の裝飾を見、ふらくと窓際に近づく。そして發見されて一目散に逃げる。やがて疲れ果てて教會堂の前へ来る。そして「辨髪を下けた小さい女の子」の泣いてゐるのに會ふ。少女は昨晩から父が歸つて来ない事、父は向ふの赤土山でトロッコを押してゐた事、そして父の歸らないのは「地獄」へ行つた爲だと使用者が答へた事、で自分は地獄へ行きたいと思つてゐる事等を告げる。二人は友達になる。そこへ見知らぬ労働者が通りかかつて焼芋をくれたので、二人はそれを食べて眠る。翌日、二人は赤土山へ少女の父を探しに行くが、そこで多くの朝鮮土工の×使を見、義憤を起して×使者に雪彈を投げつけ「社會主義者だ！」「お前の逃げ方は革命的だつ！」と云ふので捕へられ、留置場に投げ込まれる。そして計らずも前夜焼芋を恵んでくれた労働者の社會主義者に會ふ。その場面を作者は次の如く書いてゐる。

「何だおじさんか。」

「おじもやのおじさんだわ。」

おじさんは笑ひながら二人を兩わきにだき寄せました。

「おじさんのやうな人が社會主義者かい？」

「さうだよ。わしのやうな人が社會主義者さ。」

正一は何が何だかわからなくなりました。

「僕あ、おじさん。××人と一しよに居たから社會主義者だつて言はれたんだよ。おじさん社會主義者つて××人の味方かい。」

おじさんは笑ひながら答へました。



「さうよ。社会主義者つて正直な、よい人たちの味方で、弱い者いぢめする奴の敵なんだよ。」

「ちやあ、おぢさん。社会主義者つて、昔のゴーケツだね。」

そして子供たちから「地獄」へ行つた少女の父を探してゐる事を聞き、労働者の社会主義者がほんたうの「地獄」と「天国」とを説き聞かせ、「お前たちが天国へ行けるまで」——大人の社会主義者となつて闘争の出来るやうになるまで、世話をしてやらうと云ふ所で結ばれてゐる。

〔プロレタリア藝術〕 昭和三年一月號

### 二、ドンドンやき（梗概）

猪野省 三

健二といふ少年が、「お父さんが地主とけんくわをして、お巡りにひきづられて行くのを見送つて」から、一時元氣を失つてしまふが、或る日校庭で拾つた白墨で校舎の壁に樂書をする。それは地主の家と自分達の小さい家とである。そして小さな家々から大きな拳骨が出て地主の家を撥ね飛ばす所を描かうとしたが旨く描けず、拳骨で地主の家をボタンと叩き出す。ちくしやうめ、地主のちくしやうめ、どうして俺のお父さんをひきづつて行きやがつたんだ。ちくしやうめ。」所がその物音に「狸腹の校長」が飛出して来て、彼を校長室に幽閉する。そして虐待する。夕方彼は放免されたが書物の包さへ持てず、首に結びつけて歸つてゐると、争議中毎晩彼の父を訪ねて来ては何か密談してゐた柏木先生が突然彼の肩を叩く。そして「地主も校長も巡查もいつしよになつて貧乏人をいじめるんだ。」と慰め、勵まして別れる。この日から少年は漸次闘争的になる。程なく柏木先生は學校を追はれる。子供達はそれを見送つて行く。そして先生が買つてくれた飴をしゃぶりながら、日暮近くまで河原の枯草を焚きつつ先生の話を聞く。それは搾取者に對する團結の闘争を教へたものだつた。子供達は意識的に計画的に反抗し始める。そして「お正月の十四日に、門松やいろく

のお正月のかざりものを家々からもらひ集めて、たんほで燃して、その火で餅をやいて食べる遊び」——ドンドン焼を校長が禁止した時、子供達は反抗的にそれを敢行する。そして焔の中には、少年健二の書いた「黒狸を焼きころせ！」の長い旗が、火に燃えながら空を飛んで行くのだつた。お蔭で健二は翌日校長にぶん殴られた。彼はふくれ上つた頬を抱えて柏木先生に手紙を書く。すると返事が来る。「日本中の世界中の元氣になつた小供と、手をつなぎあつて進むことです。そうすれば、きつと黒狸でも鬼でもやつつけることが出来るんだ。」そこで「やるぞ」と健二は拳骨を固める。——といふ梗概である。

〔プロレタリア藝術〕

### 三、ハクシオン婆さん（梗概）

猪野省 三

よく噓をする工場の長屋に住む老婆が、働き者の息子の鹹首にあひ「わしが生きてれば、これから心配をかけるばかりぢや」と云つて、室の隅で體をよぢりながら泣いてゐるが、翌朝になつて見ると首を吊つて死んでゐた。これが動機となつて争議が始まる。日頃老婆に可愛がられてゐた正一少年も奮闘する。遂に警官に叩きのめされて雪の中に失神する。その昏睡から目覚める瞬間、彼は老婆が「×い旗をふりふり走りまはつて」ゐるのを見る。そして彼は起上り、鼻血で眞赤に染つた雪を握りしめて、狙を定めて敵に投げつける。數日後、争議は勝つ。そして正一は再び工場で働く事になつた父から「齒車の中に稲と鎚のあるきれいなメタル」を胸に付けて貰つて得意になる。——これがその梗概である。

〔プロレタリア藝術〕

### 四、源さんとなみ子（抄）

片岡鐵兵



工場の千五百人の男女職工たちは、みんながなみ子の一家同様に、賃銀値下げのために苦しまなければなりません。だから千五百人はみんな、資本家のザンコクな事を知りました。そして怒りました。

「みんなダン結して資本家とたゝかふんだぞ！」と、千五百人が一せいに立ち上りました。

初めのうち、なみ子のお父さんは、怒り立つ職工たちをなだめてまはるオクビ。ウ者の味方でしたが、だんだんみんなが怒るのも無理はないと思ふ様になりました。

そこで、千五百人の職工は「賃銀の値下げを取り消せ」と云ふ要求を会社につきつけました。会社はそれをハネつけました。そこで千五百人は益々おこつてストライキをやることに腹をきめ、その相談をするために従業員大会をひらきました。

従業員大会は会社の門のひろい空地で開かれました。なみ子は、その従業員大会を見に行きました。ストライキをやつて、飽く迄会社とたゝかはう」と云ふものと「そんなカゲキな事したら、みんなクビになつてしまふ。もつとオンケンに、会社へ交渉しようぢやないか」と云ふものと二派に分れて議論して居ました。その時、従業員の群衆の中から一人の若者が演壇に飛び出しました。そして大きな聲で叫びました。

「諸君はいつまで、会社にダマされてゐるんだ。諸君をだまし諸君の家族を飢えに泣かせて舌をペロリと出してる資本家をなぜいつまでも怖つてゐるんだ。諸君の後には×××がるぞ！俺は×××からやつて来たものだ！」さう云ふか云はぬうちに、十人からの警官がバラ／＼と飛び出して来て若者をつかまへてしまひました。「源さんだ！源さんだ！」となみ子は大聲で叫びました。千五百人もドット叫び聲をあけました。

見ろ、×××は命がけて俺たちのために闘つて呉れるんだぞ、あの通りに、俺たちプロレタリアのために、命を的に

闘つて居るものがあるのに俺たちが尻込みして、いつたいそれで恥しくないのか！千五百人はさう感じたのちがひありません。

「ストライキだ、ストライキだ！」の聲がつなみのやうに起りました。

〔少年戦旗〕 昭和五年五月號

##### 五、ストライキを起した少女

柳澤幸三郎

信州の岡谷といふ町にはたくさん製絲工場があつて女工が五萬人もゐます。それはみな尋常六年を卒業した春、工場へ雇はれて行く農村の少女たちです。女工は毎日十時間以上もコキ使はれ、病氣になつて死ぬものも少なくありません。

惠美子の姉の八重子も岡谷の製絲工場で働いてゐましたが、病氣にかゝつてロク／＼薬ものめず、工場の病舎で息を引取りました。やさしかつた八重子は遺骨となつて十里はなれた自分の村へ行季といつしよに歸つて来ました。行李の中からは八重子が大事にしてゐたショールが出て来ました。それを見ると惠美子は姉のことを思ひ出し、とめどなく涙があふれるのでした。

八重子のお葬式がすんで五六日たつたある日のこと、小學校で八重子と同級生で八重子と同じ製絲工場へ行つてゐる千代子が、工場から惠美子に次の様な手紙を送つてよこしました。

「惠美子さん、あんないい姉さんがなくなつて、どんなに悲しんで居るでせう。私もさん／＼泣きました。けれども今は泣くよりも工場主に對しハラガタッテなりません！八重子さんは工場に多い胸の病氣にかゝてゐました。工場主のためにコキ使はれて病氣になつてからも八重子さんはロク／＼醫者のクスリをのませてもらうことも出来ず、それがためとう／＼死んだのです！工場主は女工は死ぬまでコキ使ひ自分の腹を肥らしてゐるのです。私はもうが



マンしてゐる事がデキナクなりました。八重子さんと同じやうにコキ使はれて死んだ多くの女工達のカタキを打つために、私はこの工場の女工を團結させます。さうしてストライキを起し、今まで私達をクルシメてゐた工場主をアベコベにヤツツケ、カタキをとつてやります。惠美子さんも小學校を卒業したら、ぜひこの工場へ入つて姉さんのカタキを取つて下さる。」

惠美子の父も母もこの手紙を見て工場主のやりかたにハラをたてました。惠美子は工場へ入つてきつとストライキを起し八重子のカタキを打つてみせると決心しました。

そのうちに八重子の四十九日の命日が來ました。惠美子も小學校を卒業しました。信州の山もそろ／＼雪がとけはじめたので、親子三人は毎日畑へ行つて暗くなる迄働いてゐました。惠美子は畑で働きながら岡谷へ行く日を待つてゐました。

ある日突然製絲工場から洋服を著た男が惠美子の家へたづねて來ました。洋服の男はさもエラさうなツラガマエで惠美子の父に言ひました。「僕は今日工場からの言ひつけで來たのだが、八重子さんには二百圓の前借金がありましたね！」

「え、たしかに二百圓、それがどうかしたんですか！」惠美子の父の國作はムツとしたやうにききかへしました。

「その前借金の事で來たのだが、八重子さんが死んだ時、支拂ふべき賃銀が三十七圓五十八錢ありました。それを差引いて残金百六十二圓四十二錢を今日かへしてくれるか、それとも前借金の代りに八重子さんの妹の惠美子さんを工場へよこしてくれるか、どつちかにしていただきたいのです。」

「フン！ 人の娘をコキ使つて殺した上に、まだ百何十圓よこせつて言ふのだなッ！」

「國作さん、しかしあなたがそれを承知しなければ、工場では訴訟を起してこの家を賣り拂つて了ふさうだ。さうすれ

ばあなたがたは住む家もなくなるではないか！」

「父ヤン」惠美子は泣きながら父親にしつかりと抱きつきました。

「父ヤン！ オラ工場へ行つて働きたい！ ねえ父ヤン！ 工場へやつておくれ！」

「國作さん、惠美子さんもさう言つてゐるではないか！」惠美子はいよ／＼岡谷へ行く事になりました。

翌朝惠美子は風呂敷包みをかゝえて洋服の男といつしよに岡谷行の汽車に乗り込んでゐました。

「惠美子！ 體を大事にしてなあ！」山路を町の停車場まで見送つて來た母は停車場のサクにつかまつて、袖で涙をふいてゐました。惠美子の眼にもいつか、アツイ涙がたまつてゐました。

「父ヤン！ 母ヤン！ 心配しねでおくくない！ オラきつと姉さんのカタキをとるから……」

惠美子は何度も心の中で誓ふのでした。汽車は長いトンネルをぬけていくつも停車場を過ぎ、おひるごろやうやく岡谷の停車場へ著きました。岡谷は諏訪湖の近くで製絲工場の煙突が林の様に立つてゐました。

それから間もなく惠美子の工場には大きなストライキが起りました。

「労働時間を七時間にしろ！」

「賃銀は毎月拂ひにし罰金制度を撤廢しろ！」

「病舎の設備と手當を完全にしろ！」

「寄宿舍の設備と食事をもつとよくしろ！ 一日に一度づゝ魚を食べさせろ！」

以上四つの要求が女工から工場主にタタキツケられました。工主は青くなつて、要求の一部を容れるからストライキをやめてくれと手を合はせて妥協を申込んで來ました。しかし女工大會は満場一致で工場主の妥協をケトバシました。



これがため他の工場でも續々と同情ストライキを起し同様の要求を工場主にタタキツケました。惠美子の工場の寄宿舎は町通りに面してゐたので、寄宿舎の窓の下には他の工場の女工が列を作つて来て労働歌を歌ひ、ストライキを應援してくれました。

『今こそカタキを打つときだ！』千代子も惠美子も應援の労働歌が聞えるたびに、死んだ八重子のことを思ひ出して、涙ぐみながらマス／＼闘争の心を固めるのでした。

〔少年戦旗〕昭和五年四月號

(四) 脚 本

一、水兵の母(抄)

大尉(おこつた聲)「こらつどうした命が惜しくなつたか。妻子が戀しくなつたか。軍人となつて軍に出たのを男子の本懐と思はず其の有様は何だ。兵士の恥は艦の恥、艦の恥は帝國の恥だぞ。」

水兵六(驚いて飛上る。だんだん怒りの色をあらはす。黙つて手紙を渡す！)

大尉(手紙を受取る)「何だ是は(いやな顔をしながら)ふん。女の手紙だな。」(大きな聲で讀む)

聞けばお前は豊島沖の海戦にも八月十日の威海衛の攻撃にも別にけがもなかつた。清二の話ちやがやれ／＼と安心した。お前が出たあとの村ちうものはそれはそれはひどいもんじや。お前の働いてゐた田には草が生え、お前の可愛がつて居た兎は六匹とも死んじまつた。すけどんちの三男坊は大砲の弾でとんちまつた。ちうぢあねえか。

俺は地主様の作男がはりにつかはれてゐるだが、この年に無理な仕事で一日十五錢、是でどうして三人の俸を養つて行けるだか、今に母も俸もヒボシさ。(中略)そんなやうで家ばかりでねえだ。村中あつちでも夏の池の鮎みてえに、

村人がアブ／＼してゐるだあ。ぢやが母はお前の怪我もなく戦死もせず無事に歸るのを待つてゐるだあ。例へ上官の命令ぢやとてあぶない所へは行くな。お前ばかりでない。お前と一緒に働く水兵ちう者にも親も子もあるべえ。何とかうまくやつて生きて歸つて来てくれ一生のねがひだ。友達の水兵様にもよろしく云つておいてくれ。書いてゐるそばにはカタワの清二もお前の可愛がつてゐる三人の弟もゐるだあ。皆やせこけてゐるだあ。

大尉「こらつ不とよき者、何と云ふことだ。」(水兵をなぐりつける)

第四景

水兵六がなぐられてたほれて手紙を持ちながら泣いてゐる。他の水兵登場。

水兵一「何だ何故泣いてゐる。福田。」

水兵二「おい手紙を持つてゐるぞ。」(水兵三、四、一手紙のまはりに来る。そしてみんな讀み合ふ)

水兵三「俺の嬢はどうしてゐるだらう。俺の子供は」

水兵四「國のためだ何て云つてゐるが一つも俺達のためではないぢやないか。」

水兵三「そうだ。俺達は何のために戦してゐるだらう。」

水兵六(泣きながら)「母の云ふことは本當だ。お母さんの云ふ通りだ。俺達は自分のとくにならない上に支那の労働者や農民をやたらに殺すのはいやだ。」

水兵一、二、三、四、六、(聲を揃へて)「さうだ！ さうだ！ 俺達は金持ばかりの得になるばかりかしい戦争はマッピラだ。皆して戦争をやめよう！」

〔ピオニール夏休み帖〕昭和七年八月發行



二、パンは誰のもん？小さい赤い雌鶏

吉祥寺 弘  
泉直 哉脚色

四七〇

登場人物

小さい赤い雌鶏（プロレタリア）

豚（ブルジョア、男）

猫（地主、女）

犬（雇人、男）

演出者

幕がおりたまゝ

演出者（上手隅の幕前に現はれる）これから、謎々の「パンは誰のもん？」といふかはい、お芝居をやります。これはみなさんのやうな「小さい同志」が五人だけ揃へば、ふだん何處でもすぐやれるお芝居ですから、どうぞ、よく見てゐて下さいよ。（引込む）

幕あく

一 一粒の種子、小さい、夢の種子

上手に豚、猫、犬。

下手から小さい赤い雌鶏が出て来る。

中央で何かを拾ふ。

小さい赤い雌鶏 あら、何か落ちてゐるわ。（拾ふ）

豚 石ころだろ。

猫 紙くづでしょ。

犬 棒切れだろ。

雌鶏 まあ、種子だわ。小さい種子ね。

豚 ハハハハハ、まるでお前見たいだ。

猫 ホホホホ、ほんとだわ。

犬 へへへへ、そつくりだ。

雌鶏 小麦の種子だわ。

豚 そんなもん何にもなるもんか。

猫 あんなもの拾つてよろこんでるわ。

犬 馬鹿な奴さ。

2 種子蒔き

雌鶏 だれか私と一緒になつてこの小麦の種子を蒔いてくれない。（豚、猫、犬は「ふん」といつたやうに顔を上げる）  
え、だれかこの種子を蒔かなくつて。

豚 ヤだよ、俺は。

猫 イヤーよ、わたし。

四七一



犬 イヤだい、僕は。

雌鶏 ぢや、わたしが一人でするわ。(蒔く)

(小麥が生えて来る)

3 蒔 入 れ

雌鶏 まあよくみのつたこと! (三人「ふん」と云ひら一すうらやましさに見る) ねえ、だれか私と一緒にこの小麥刈り取つてくれないこと?

豚 ヤだよ、俺は。

猫 イヤーよ、わたし。

犬 イヤだい、僕は。

雌鶏 ぢや、わたしがしませう。(蒔取る)

(たふれた小麥)

4

雌鶏 さあおしまひだわ。……だれか私と一緒にこの小麥を叩き落してはくれないこと?

豚 ヤだよ、僕は。

猫 イヤーよ、わたし。

犬 イヤだい、僕は。

雌鶏 では、わたしが一人でするわ。(叩き落す)

5

雌鶏 さあおしまひだわ。……誰か私と一緒にこの小麥を搗いてくれない?

豚 ヤだよ、俺は。

猫 イヤーよ、わたし。

犬 イヤだい、僕は。

雌鶏 ではわたしが一人でするわ。(搗く)

6

雌鶏 さあもういゝわ。……誰か、私と一緒にこの小麥を拵へてくれないこと?

豚 ヤだよ、俺は。

猫 イヤーよ、わたし。

犬 イヤだい、僕は。

雌鶏 いゝわ、それならわたし一人でするから。(パンを造る)

(大きなパンが出て来る)

7

雌鶏 さあすつかり出来たわ。……おいしそうにできたこと。

豚 そのパンは俺がくふぞ。

猫 わたしがたべるのよ。



犬 僕がたべるのよ。

雌鶏 いゝえ、あなた達はこのパンを喰べることではできませんよ。

豚 何故？ その種子は俺がそこにおいといたんだ。

猫 何故？ それはわたしが拾はうと思つてたんだわ。

犬 何故さ？ あれ僕がそこに置いといたんだぞ。

三匹 「何だつて？」「何ですつて？」「何を？」と喧嘩を初める。

雌鶏 いゝえそんなことしてもだめ。このパンを喰べられるのは私の様に働いたものだけです。(ひとりでさつさと籠の中にしまつて客に向つて「ねえさうでせう。」持つてゆく。三匹はトランプの一ぱい散ばつた中でケガした顔を見合せてポカンと口に指をくわえて見送る)

幕が下りかゝる 演出者がとび出す。

演出者 ちよつ、ちよつと待つて下さい。みなさん(と言ひ乍ら下りてしまつた幕の前へ出る)……これは動物の世界のお話です、人間の世界のお話ぢやないのです。人間の世界もこの通りでしたらうか？ え、この通りでせう。

(引込む)

(子供の脚本集)

### 三、サンタクロスの贈り物

猪野省三

出てくる人々

夕刊賣りの少年

花賣り娘

少年労働者

女車掌

サンタクロスのお爺さん

お金持ち

お金持ちのお嬢さん

子守りの少女

場所は—— にぎやかなある舗道

時は—— クリスマスの前夜

「チンチンチン……」けたまふましい夕刊賣りの鈴の音で幕があく。真暗い中で「夕刊……夕刊」お花はいかゞでございますか……

お花は……「二人の子供の呼びごえがしてゐる。幕があがりきるとパッと街頭に燈がともる。街燈を真ん中にして左の方に花賣

り娘、右の方に夕刊賣りの少年が立つて居る。

夕刊賣り あゝおなががすいたなあ！

花賣り 弱蟲、泣き蟲、べそ太郎、お山の烏がアホーアホー。

夕刊賣り 何云つてるんだ、僕は今朝たべたきりなんだぞ！

花賣り あたしだつてよ！ あたしなんか三日間イモ七錢で過ごしたことあつてよ！

夕刊賣り そんなことちつともえらくねえや。



花賣り 誰もえらいなんていはないわ、弱蟲。

おけいの歌聞える。

夕刊賣りの少年が腕をまくつて花賣り娘の方にとびかゝらうとすると、花賣り娘は口に指をあて、「シート」と制する。

しほれしほれの車が走る

走る車に身も細る……

の歌聲と共に制服の女車掌が左手から出てくる。

手に包みをかゝえてゐる。

二人はそしらぬ顔でもとのところにもどる。

花賣り お花はいかゞですか？ お花は……

女車掌 まあ、きれいな、一寸見せて、やつぱり草花はいゝわね。……だけど、今年ボーナスがベケよ。馬鹿にしてる

わね。だからお花も買へないの……氣にしないでね。

花賣り ……

女車掌 おや、どうしたのあなた、肩にしわをよせて……あゝそう、おなかの皮と背中がひつゝいてゐるんでせ

う。そうよ、たしかにそうよ、ぢやこれあけるわ。(車掌さんはあたりを氣にしながら包みをほどくと中から焼芋が出

る。二つ取つてかくす様に渡す。)花賣り娘は「いゝのよ、いゝのよ」と云ひ乍ら受取る。

労働者ほしそうにしながら通り過ぎる。

女車掌 氣にしないでね……またね……さよなら。

顔の所に手を舉げて挨拶しながら小聲で歌をつゞけ夕刊賣りの前を通りすぎようとする。と「エヘンエヘン」と夕刊賣りがセキばらひをする。車掌は首をかしげて、ニコリ笑つて夕刊賣りの前に進み。

女車掌 あんたもでせう……

夕刊賣りの少年は笑顔をつくつてうなづく。車掌は二つ取り出して早く早くと手でおしやりながら渡した歌をつゞけて去る。

花賣り娘、夕刊賣り二人白眼でにらみあひながら芋をほゝばる。

労働者去る。見えなくなる。

夕刊賣り アア、うまかつた。

花賣り アア、うまかつた。

夕刊賣り 助かつたな。

花賣り 助かつたな。

夕刊賣り だけどなんて不景氣なんだらうなあ此頃。

花賣り なんて不景氣なんだらうなあ此頃。

夕刊賣り新聞紙の下に入れてある金をかき集めてかぞへはじめる。

夕刊賣り 一錢……二錢……三錢……四錢……五錢……えゝとみんなで十八錢か。

花賣り娘もポケットから金を出してかぞえる。

花賣り 十錢……二十錢……三十錢……えゝとみんなで四十……

と云つて夕刊賣りの方をぬすみみる。夕刊賣りは前からデット娘をみつめてゐたが、その時大聲でとなりつける。



夕刊賣り やい、なんだつて人のまねばかりするんだよ。

花賣り ヘンなんだつてひとのまねばかりすんのよ……あんなこそ。

自動車の警笛。

夕刊賣り 僕がまねしたんぢやないやい。君がさき……

花賣り うそよ、あんたが先きよ……

夕刊賣り 何をツ。

と、げんこつを固めて花賣り娘に飛びつこうとする。と左の方からお金持ちのお嬢さんが歩いてくる。夕刊賣りと花賣りは、あはてゝもとのところへもどる。

花賣り お花はいかゞでございますか。

お嬢さん ババごらんさい。すてきね。バラとカーネーションとスキトビー、すてきね、あたいの書齋にかざると、

きつとお姫様のお部屋のやうになつてよ。ね、ババ、買ってよ。ね、ババ……買ってよう。

金持ち うッ……うん……うッ……よし、よし、一タバ拾銭か……

お金持ちがポケットから大きなガマ口を出しお金を出そうとすると中からお金がチャラチャランと飛び出す。お金持ちはあはててかき集めて中に入れようとするともた飛び出す。お嬢さんも両手をついて「大變よ、大變よ、あッあッ」蛙を追ふやうに拾ひ集める。花賣り娘はうらやましそに見てゐたが、ハッとして手助けしようと前に手を出すトタンにお嬢さんの手を踏むと、それを見たお嬢さんはボンと立ち上がつて

お嬢さん いたいッ……まあッ……この人ッたら私たちのお金をとらうとするのよ。

花賣り いゝえ、あの、あたし……お手傳ひしようと思つて……うっかり……ごめんさい。

お嬢さん うそよ。まあ、なんて、ずうずうしい娘なんだらう。ね、ババ。

金持ち うッ……うん……

花賣り あたし、あの……

お嬢さん うそつき……ババ、あたい花買ふのよししたわッこんな花を書齋にさしたら、こんなきたない娘がうつつちや

うわ。おゝいや、さあ行きませう。ババ

金持ち うッ……うん……

お嬢さん ふ……んだ。

花賣り ふ……んだ。

お嬢さん街燈の下でお金持ちの手にぶらさがつて

お嬢さん ね、ババ、今夜は、クリスマスイヴよ。

金持ち う……うん。

お嬢さん ね、ババ、今夜はサンタクロスのお爺さんがくるのよ。

金持ち う……うん。

お嬢さん 今年はサンタクロスのお爺さん何を持ってきて下さるでせうねババ。

金持ち う……うん。

お嬢さん 知らないわ、ババ、何をいつても、う……うん……はつきりしてよ。



金持ち う……うん……さうだねえ、兵隊さんのチョコレートと軍隊の繪のついた筆入れと、タンクの型をした鉛筆け  
づりと飛行機の模様のついた……

お嬢さん まあよくしつてるのね。

金持ち う……うん……知つてるともさ。パパは何んでも知つとるんぢやからのう……そう、そう、それから、お前が  
眼の玉をむくやうな……

お嬢さん えッ……うれしッ……それなあに……

その時夕刊賣りのケタタましい鈴音と「夕刊」「夕刊」の大きな呼び聲、「あゝおどろいた」お金持ちとお嬢さんおどろいて飛び  
あがる。

お嬢さん (夕刊賣りをにらみつけてからお金持ちの耳に口をよせ) ね、いまの、なあに……

金持ち う……うん

お嬢さん ね、ないしよにおしへてよ。

金持ち う……うん…… (頭をかゝへたりたゝいたり首をかしげたりして何か思ひ出さうとするが思ひ出せない) その……さつ  
きの鈴の音で、どこかへ消えてなくなつちやつた。

お嬢さん (お金持ちと夕刊賣りをにらめつけて両方に向つて) 馬鹿ッ。

夕刊賣りはそれをきいて「何をッ」と鈴を振りあげる。とお嬢さんは急に泣き出して走り去る。お金持ちは頭をたゞき、まだ思  
ひ出そうとしながらお嬢さんの後を追ふ。

夕刊賣りは花賣り娘に指でヤイヤイして見せる花賣り娘くやしさにまたうらやましさにしばらくお金持ちたちをみつめてゐ

る。氷るやうなつめたい風が吹いている。二人は身をふるはし、我れにかへつて、もとにかへる。

花賣り 馬鹿にしてるわ! ほんとに賣り切れないと困るわ、あたし。

夕刊賣り 明日の朝まで立つてるよ。

花賣り ……

夕刊賣り (手をやすめて老へこむ) そうだ……今夜、クルソマソのサンタクロップお爺さんが山程お土産をもつて僕とこ  
へ来るぞ、きつと。

花賣り 駄目! クリスマス……のサンタクロスのお爺さんといふのよ。

夕刊賣り つべこべいふない。

花賣り ふんだ!

夕刊賣り 何がふんッ! だ、君のところへなんかまちがつたつてお爺さんはゆかないよ。貧乏で病氣のばああのある  
腐つた家なんか誰が。

花賣り あんたのとこだつて駄目よ。お爺さんは煙突の中をおりてくるのだから。第一あんたところには煙突のエの  
字もないじゃないの。

夕刊賣り 煙突なんかないけど屋根に大きな穴があいてるぞ、あの穴を少しひろけてまつてるから大丈夫だい。

花賣り もし来たとしても、またお父さんがだまつて横取りしてはお酒のみに行つちやうぢやないか。そしてよつばら  
つてかへつてきて、お尻を蹴とばされる位が落ちよ。

夕刊賣り 弱つたなあ! ほんとにお父さんは工場をクビになつてから急にやけ酒をのんであばれるんだから……困つ



たなあ……ん！ そんなら屋根に上つてまつてればいゝぢやないか。

花賣り だつたらその前にあたいが裏にまはつてあそこの家へ行くと殺されてしまふから、あたいの所へ二人分置いていつて下さいといつてお爺さんをつれて来てしまふわよ。

夕刊賣り そんなことしたら、屋根の上からどなつてやるぞ、どろほうだ！ どろほうだ、大どろほうだ！ ピストル強盗だ！ そしたら長屋中の者が出て来て、君を河の中へ投げこんぢやうぞ。

花賣り そんなのないわ、そんなのないわ（泣き聲になる）あたひ、ほんとうはサンタクロスのお爺さんに心から頼みたいの、お薬と毛布と牛乳をもつて来て下さい。さうすれば、あたひのお母さんの命はたすかりますつて……。あたひはどうしてもたのむわ。あんたがどんな意地悪したつて、きつとたのむわ。意地悪！ ばかッ！

夕刊賣り 何ッ！ 意地悪はきさまの方じやないか！ やい。

花賣り いや……

二人は、とうとう殴ぐり合ひをはじめる。花が亂れ散る。新聞臺がひつくりかへる。と「やめろ！ やめろ!!」と云ふ聲がする。

二人は組みついた手をはなして聲の方を見る。そこには街燈の下にいつの間にも現はれたか、赤い着物に赤い頭巾、肩に白い大きな袋をかついだ、白いひげのサンタクロスのお爺さんが、ニコニコして立つて居る。二人「あ！ お爺さん！」と叫んで走りよる。けれども、すがりついた手を強く振り切る。二人はよろめきたはれる。

サンタ わしは世界中で一ばん大切なものを君達にやるために、世界中で一ばんはじめに君達のところへやつてきたのだ。いゝかい、わしの言ふことをよくきくんだよ。さあ、起き上るんだ。そして、二人は手を出して、こう握り合ふんだ。

二人はいやくながら手を出す。

サンタ わしはさつきから君達のことをよく見たり聞いたりしてゐたんだよ。君達は二人共、貧乏。そして君のお父さんは工場をクビになつたり君のお母さんはひどい働きの爲めに病氣になつた。それなのに誰も面倒を見てくれない。それで、二人共この寒空に吹きさらされて、すきばら抱えて働いて居る。二人共そつくり同じだね。全く兄弟だ。それなのになぜ君達ははじめから終り迄ケンカばかりしてゐたんだい。それはほんとに馬鹿けた間違ひだ。貧乏同志はお互ひに力を合はせ助け合はなければ、いつ迄たつても苦しいつらい目がつよくんだ。金のないものゝ味方は金のないものだけなんだよ。ほうら、一番はじめのバスの車掌さんは親切だつたね。それに引きかへあの金持ちとお嬢さんはどうだい。

二人は大きくうなづいて顔を見合はせるが、恥づかしそうにまたそつぽ向く。

サンタ 君たちのお父さんをクビにし、お母さんを病氣にし、そして君達をこの寒空にたゞせてゐるのはみんなあゝいふ人達なのだ。君達のケンカの相手はあゝいふ人達——お金持ち——ブルジョアなんだ。さあ！ 君達は、力を合はせるんだ。君達の兄弟同志はたくさんゐるぞ、そらあそこに。

サンタクロス右手を指す。

「われらの叫びは山から野から……」

の歌を歌ひながら少年労働者が出て来る。そして二人のところを走りよつて手を握る。

サンタ こつちからも。（サンタ左手を指す）

「おけいは……」



と歌ひながら子を背つた女の子が出て来て三人のところに走りよる。

サンタ それから……

右手から初めの女車掌が「働く婦人の歌」を歌ひながら出て来て、子供達の中にはいつてかこまれる。

サンタ それから最後にこゝにも(といひながらサンタクロスのつけひげ衣裳を順々にとつてゆく、そして労働者の姿になる)るぞ。みなさん。實は私も労働者なのです、が、二月前工場を誂きられて食ふや食はずで、やつと今日、サンタクロスの廣告屋に雇はれたので、これ幸ひとサンタクロスに名をかりて、みなさんに、世界中でいちばん大切なものをお送りしたわけです。(両手をひろげ)さあ、小さい同志よ！ 力いっぱい手をにぎれ、そして前進一、二、三ッ、

一同横隊に手をつなぎ全員……「小さい同志」の合唱の中に。

幕――

〔子供の脚本集〕

## 第二節 綴り方教材

### 第一概 観

彼等が兒童の思想啓蒙の爲に綴り方教育を重要視してゐることは既に教授方針の處で説いた。プロレタリア綴り方教育は現實の闘争へ兒童を参加させるための指導であり教育である。それ故にプロレタリア綴り方教材はプロレタリア兒童に對して其の不平不満反抗要求をアヂ・プロするものである。即ちそれはプロレタリア兒童の階級闘争に於いてアヂ・プロの任務を扱ふものであると云はなければならない。

其の意味に於いては前節に於いて述べたプロレタリア兒童文學作品は何れもプロレタリア綴り方の教材となるのである。

るが其の他に兒童自身の作品も亦其の教材となるのである。以下兒童自身の作品の中で彼等が教材として掲げてゐるものを紹介しよう。

それ等は何れもプロレタリア兒童の日常闘争、ストライキ、小作争議、戦争反對の闘争、ブルジョア教育反對、反動教員追放、進歩的教員誂首反對の闘争、階級的地位の認識、プロレタリア的信念、死んでも戦ふ餓の如き決意等を表現するものである。

### 第二教 材

#### 一、不 け い き

××小學校尋常四年 小 谷 正 夫

今はとても不けいきです。不けいきはブルジョアがつくつたのに不けいきになるとプロレタリアがとてもこまります。私の内にも近所にもしごとがなくなつた人がたくさんあります。不けいきになるとプロレタリアは仕事をやめさせられたり、お金をすくなくさせられたりしてこまつてゐますがストライキやデモでブルジョアをやつつける方がいゝとおもひます。

不けいきになるとかわいそうなプロレタリアがたくさんできるからとてもいけないとおもひます。不けいきをつくつたブルジョアをやつつきたいと思ひます。

〔新興教育〕昭和六年七月號

#### 二、私 達 の 先 生

高一 × 川 × 子

私たちの先生には二色先生があります。







るるんだ。

### 六、組 合

里吉少年團 彌 太 郎

我々は組合をこしらへて地主のやつらに年貢をうんとまけさせて我々の口をうるほさねばなりません。今年のやうなふけいきに年貢をとられたら我々はひほしだ、野菜はやすいし、作物は日でりだめだし、これからまんなまをどうして食つて行かうか、これが心配です。だから組合をます／＼ふやさねばなりません。

地主のやつらはけつそくして小作人の子供をいぢめたり、きょうちよう組合なんていふものをこしらへて農産組合をこわさうとしたではないか、これから組合をかたくして赤旗のもとにあつまらうではないか。〔小保寺三郎「農村の崩壊」

### 七、日高農民小學校

地主のために立禁をせられてお米が作れないから小作人は食べて行けない。父や母の力で作つた田を皆地主のために立禁せられたのだ。今に地主のガキをへさへつけてばんざい三唱してやるぞ、私等は地主と戦ふのがほんとうだと思ふ。あの地主が巡査をつれて来て小作人をいぢめるのである。この學校は地主をへさへつけてこうさんさせるために出來たのである。私は此の學校へ通ふのがすきである。自分のさいしよの子供どもでも組合にはいつてない子供とはあの志賀の學校では仲よしにならないけれども、この日高農民小學校ではよその子供どもでもぢきつれになれた。

私はこんど大きくなつたら地主をへさへつけてゴチャゴチャにしてやる覺悟である。

地主がこうさんするまでギユウギユウいはしてやるつもりである。

〔昭和八年五月和歌山縣日高郡全農日高地區農民學校テキスト「小さい同志」〕

### 八、水のみ百姓といやがつた！

岐阜市 × × ×

わたしは百姓の子です。このあいだ野球のシアヒをやりて岐阜に行つたら、岐阜のヤツラがどんびやく姓の子だ、水のみ百姓の子だといふていぢめましたが、おれは百姓がなかつたら、おまへたち米がくはれんやるといつてやつた。はたらくのは、おれたちで、あそんで夏には海へ行つてぜいたくしてゐるのは金持地主たちである。おれたちは水のみ百姓といはれたことはくやくしてわすれません。

あんないゝきもの着たやつら、いまにみる、おれたちの天下が來たらドロ田のなかへたゝきこんで田植の苦しいことをおしへてやらうと思つた。

おれの方はまだ無産少年團はないけれども、いぢめられたので、これからつくらうとおもつて、村にかへつてから、みんなにはなしたら、よしやらうと云ひました。おれたちもみてくれ、少年團をつくるぞ。〔少年戦旗〕昭和五年八月號

### 九、勞農少年の決心

全農山梨縣聯玉諸支部少年部 × × ×

今我が國の生活といふものは吾々のプロレタリアばかり暗いから暗いまで働いて、まづい物ばかり食つて生活して行くのがあたりまへだと思つた時代は過ぎた。小作人も地主も萬物のレイ長たる人間である以上は、地主ばかりうまい物を食べてよい着物を着て、まだその上遊んでるてよいといふ事は法律にも命令にもあつてはならぬと思ひます。今勞働者、農民が暗い生活の中に苦しんでるといふ事は誰でもわかつてゐると思ひます。



だからプロレタリアのオ、チャンレンは勿論、青年部少年部が一致團結して一日も早く資本家をぶつたほして、全世界を労働者、農民の世にするのが吾々小さいビオニールの任務である。

〔少年戦旗〕 昭和五年八月號傍點筆者

#### 十、ストライキ

大島少年團 四年 男

僕たちのお父さんが毎日ほたらいてゐた大島せいこうのしほんかのおくまは、お父さんたちをしようけんめい働かして一日一圓八十錢よりくれません。そしてあとはみんなとつてあそんでくらしてゐましたから、僕たちのくらしがたてなくなつたのです。それだから、お父さんたちはストライキをはじめました。

僕たちも一しよになつて、デモやピラまきをやり、資本家をやつつけて、ストライキにかたなければなりません。

〔大島少年團ニュース〕

### 第三節 話し方教材

#### 第一 概 観

修身科教材、読み方教材其の他の教材等何れも話し方の教材とならないものはない。此處に話し方教材として一節を設けるのは適當でないかも知れないが主として物語體、問答體の教材を此の科に屬するものとして説明しよう。

先づ「米は誰が作るか」は米を作るのは百姓で他の者に非ざることを強調したものである。「百姓大困り」は然るに其百姓は御飯が食べられないで困つてゐるのに政府の庫の中には米が腐る程あると云つて社會の不合理を暗示したものである。

又彼等はレーニン、ローザ・リブクネヒト、ローザ・ルクセンブルグ、佐野學、三田村四郎、渡邊政之輔等の共產主義者を俺等の偉人、恩人、小父さんと稱し其の傳記を書いて話し方の教材にしてゐる。此處では其の中のレーニンと三田村四郎の傳記を掲げて参考にする。

#### 第二 教 材

##### 一、米は誰が作るのか？

長野昌千代

七つ八つの子供が十人ばかり遊んでゐた。其處に一人の労働者が仲間に入つて来てこんな話をした。「みんなは御飯はどうして出来るか知つてるかい。」「米をたいたら出来るのや。」「それぢや米はどうして出来る？」「あんだ、いねからとるのや。」「かう答へたのは五六人である。大阪のそれも工場地のまん中の子供達には、稻を知らないものが澤山ある。

「よし、それぢやいねはどうして作る？」「畑に作る。」「うん水のある畑や」

「ハハさうかよし、それぢやあね稻は畑にひとりで出来るのかい？」

みんな考へて居る。ひとりでといふ言葉が分らないらしい。「稻を誰か植ゑるんだろ？」「うん。」

「誰が植ゑる？」「神様！」と大きな聲で叫んだものがある。

「神様？ みんなさう思ふの？」「稻を知つてゐる子も知らない子も皆一緒にうなづいた。

「神様か、なるほど、神様はどんな形をしてる？」「知らん。」

「手があるの？」「分らん。」



「それぢや一體神様を見たものがあるかい？」「いゝや。」

「手もない、體もない神様がどうして稲をつくるの？」みんな困つた様な顔をしてゐる。一人汚い顔をして、青い鼻汁をたらした子供が突然言った。「あんだ、いねは××××××××××がつくるのや。」

「×××××？」「うん。」子供達ははじめて分つたといふ様な顔付をして聲を揃へて答へた。

「×××××の家はどこにある？」「ゴテン。」

「何處の御殿？」「東京や。」

「東京の御殿に水のある畑があるの？」「いゝや。」

「それぢや×××××が鋤を持って御殿から田舎へお出掛けになるのかい？」「……」みんな。むつちりと眼を圓くしたまゝ答へない。

「みんなが見たときに、草をつんで居たのは×××××だつたの？」「ちがふ。」

「そんなら稲は一體誰がつくるの？」子供達の顔には、信仰を破壊せられた時のやるせない當惑が浮んで居る。それでも幼い頭を精一杯に働かせて考へる。

さつきの鼻汁をたらした子がやつとのこと、少し小さい聲で言った。「あんだ、人間や。」

「さうだ、人間に違ひないね。みんないゝかい。稲は人間が人間の手で植ゑるんだよ。だけどお前達も人間だろ？」「うん」

「お前達が稲をつくるの？」「つくらん。」

「それぢやどういふ人間が稲をつくるんだい？」「分つた百姓や。」と二三人が勢よく答へた。

〔少年戦旗〕 昭和四年五月號

## 二、お百姓さん大困り（抄）

（前略）田では稲がいかにも重さうに、見事にみのつてゐます。これを見ると皆さんはきつと「今年は豊年だ。さぞお百姓さんは喜んでゐるだらう」と思ふでせう。しかしお百姓さんたちは決してよろこんでゐません。お百姓さんたちは豊作のために非常に困つてゐるのです。豊作のためにこまつてゐるなんて變なことでせう。これからそのわけをお話しいたしませう。

今年は天気もよく二百十日も無事で稲のみのりぐあひがとてもよいのです。（中略）皆さん尋常五年の讀本の「物の價」の處で、物は多くなればなる程安くなる事をならつたでせう。今田にみのつてゐる稲が米になつて賣り出される頃になると米はとても安くなります。しかし今より米のねだんが下つたらお百姓さんは大困りです。肥料や税金を拂ふ事ができません。日本人の半分は百姓です。だから百姓の困るのを見すてゐるわけにはいきません。そこで政府は毎年米の出來た時に、米をたくさん買ひ上げたのです。

しかしその買ひ上げた米は倉庫の中でくさつてしまひます。皆さんは都會の隅々にいくら働いても御飯の食べられない人がたくさんゐるのを知つてゐますね。その上お米を作る百姓さんもお米がたべられないのです。片方に御飯のたべられない人がゐる。片方には倉の中でお米がくさつてゐる。何て變なことでせう。みなさんよく考へませう。

〔兒童問題研究附録「子供新聞」 昭和八年十月七日附第三號〕

## 三、レーニン小父さん



一月二十一日はレーニン小父さんの死んだ日です。レーニン小父さんのほんとうの名まへは、ウラジミル・イリイチ・ウリヤーフといひます。レーニン小父さんは大さうえらい人で、せかいで一番大きなしごとをやりとけました。大きなしごととは何でせう。ひやくしやうや、らうどうしやに働かせてじぶん丈け遊んでゐることとせうか。それともよその人をくるしめて、平氣でお金を儲けることとせうか。

いえ、レーニン小父さんは、そういふ地主や金持に苦しめられてゐる、かはいさうなひやくしやうやらうどうしやを助けてやつたのでした。だかららうどうしやひやくしやうからは、父のやうにかはいがられました。地主や金持からはひどくいぢめられました。

ある時にはらうやにはふりこまれたり、ある時には寒いシベリヤへ流されたりしました。だからレーニン小父さんは永い間にけまはらねばならなかつたのです。地主や金持はたたくさんのへいたいやおまはりもつてゐるレーニン小父さんをの目、たかの目で探してゐましたから、らうやにつかまつてゐる時でも、流されてゐる時でも、レーニン小父さんは自分の仕事をつとけてゐた。そのしごとはらうどうしやひやくしやうをらくにすることなのです。レーニン小父さんは、はたらく人達にとつてしんせつな友達でした。又ある時にはかしの先生でした。又ある時には強いかしらでした。ソヴェートの言葉で言ふとりつばな同志だつたのです。

レーニン小父さんには多くのびんぼうな人の味方がふえて来て、とうとう金持や地主をおつばらつてしまひました。今のソヴェートには金持や地主はゐりません。今までびんぼうで苦しんで居たらうどうしやひやくしやうがいきくとしてくらしてゐます。

ソヴェートの子供たちはピオニールを作つてけんきよくべんきようしてゐます。ピオニールのお友達が一番好きな人はレーニン小父さんです。レーニン小父さんは死にましたけれど、そのおしへをピオニールの子供たちは、よくおほえて、まだ知らない友だちに教へてやります。その、おしへを次にかきませう。

みなさんは、新しい今よりもつとよい世の中を作らねばなりません。そのためには、たたくさん、たたくさんのことを知らねばなりません、たたくさんのことを知るためにはうんと、うんと勉強せねばなりません。

〔ピオニール夏休み帖〕 昭和七年八月發行

#### 四、三田村四郎―俺たちの恩人―

大阪で生れた。小學校を出ると大阪の會社で給仕をしながら夜は川口商業學校へ入つて勉強して十七で卒業した。東京へ出て新聞配達などしたが、又大阪へかへつて巡査になつた。

二年ばかり巡査をしてゐたが、だんく今の世の中のほんとうの事を知るやうになつたのでとうとう首になつた。巡査は労働者や百姓が自分のくらしをよくしようと思つて運動するといぢめる役だから、三田村のことを知るとあはて、首にしたのだ。巡査をやめてから東京で文房具賣りをやりながら色々な會をこしらへて運動した。のち鍋山たち多くの同志と日本ではじめてのほんとうに正しい組合をこしらへた。



大正十五年の夏には濱松の樂器會社のストライキをうまく指導して、百十日も頑張らせて日本の支配者共（金持、地主、天皇）をふるい上らせた。

昭和三年三月十五日に日本共産黨が支配者共にいぢめられ、労働者や百姓が千人あまりもつかまつて監獄に入れられた時うまくけて渡政や鍋山など、共産黨や組合の立てなほしのために働いてゐたが、同じ年の九月の或る日の晩淺草の家を急におそはれて、まさにつかまりさうになつたが、ピストルでバイ公どもをうちたほしてとう／＼にけのびた。それから、又半年あまりもあちらこちらをにけながら黨や組合の立てなほしに骨折つたが、四・一六の少し前鍋山と一緒につかまつた。カンゴクに入つてもとても元氣で大ぜいの同志の先頭に立つてたゝかつてゐる。

日本の労働者や百姓たちにとつて全く忘れることの出来ないこの三田村に、此の間検事は死刑にするがよいと言つたが、三田村はビクともせず笑つてゐたさうだ。

俺達もしつかり勉強して大きくなつたら、三田村の様なガッチリした闘士にならう！

〔ピオニール夏休み帳〕昭和七年八月發行

## 第四章 算術科教材

### 第一概 觀

彼等は數の觀念を利用して階級意識を注入することをプロレタリア算術と稱してゐる。其の教材としては「全農ピオ

ニール夏季教程」上級用、下級用に種々の問題が掲載されてゐる。之等を見れば彼等が前出の教授方針に従つて資本家地主と労働者、小作人の階級對立と搾取關係、不景氣、米價下落、賃金値下、労働者・小作人の苦しい生活狀態、税金・年貢の多いこと、ストライキ、ピオニールによる團結、ソヴェート・ロシアの讚美等を巧みに織込んでゐることが判る。

又彼等は斯の如き問題の外に兒童の興味を喚起し宣傳の効果を上げるため算術に因んだ童謡劇（シユプレッヒ・コール）物語、一口噺等作成してゐる。

次にそれ等の中主なるものの例を引用する。

### 第二教材

#### 一、問題

#### 第一問

1. おれのくみはみんなで三十五人だ。ぢぬしの子が三人。ボリの子が一人。せんせいの子が一人ゐてのこりはこさく人のこだ。こさく人のこはいく人か。
2. ピオニールが三十五人ゐる。みんながともだちをひとりづつつれてきた。いく人になつたか。
3. こさく人の子が、がくかう中に三百二十五人ゐる、ピオニールはそのうち七十五人しかゐない。あといく人つれてくれば全部ピオニールになるか。

#### 第二問



1. あるとしこめが三俵とれた。ねんぐに三俵とられた。あといくらのことつたか。
2. あるとしこめが二俵とれた。ねんぐに三俵よこせと地主がいつた。どうすればよいか。
3. 五十人の小さく人が二十俵づつ地主のくらへこめをはこんだ。ぢぬしのくらになん俵あるか。

第三問

1. こうばに千人のらうどうしやがゐた。三百人くびになつた。のこりはなんんか。
2. 千人らうどしやが、ストライキのときデモをやつた。おまわりが三百人やつてきた。どつちがなんんおほいか。
3. 千人のらうどうしやのうち、二百五十人けんそくされた。あといく人のこつたか。

第四問

1. 校長先生の月給は二百圓で、こんどあたりしく入つた女の先生は三十圓だ。いくらちがふか。
2. 地主の倉には 米が五百俵ある。小作人の家には五俵しかない。いくらちがふか。
3. 一昨年は米が一俵十圓した。今年は五圓五十錢だ。いくらちがふか。
4. 工場の女工は一日八十錢もらつてゐるが、不景氣のため五十錢になつた。いくら下つたか。一月ではいくら下つたか。
5. 不景氣になると物のねが下る。なぜだらう。

第五問

1. ビオニールが六十人ゐた。フットボールをかつて、うんとつよくならうといつて、みんながおなじだけだし三圓するのをつた。一人がいくらづつだしたか。

2. フットボールであそぶため、このビオニールは二くみにわかれた。なんにんづつになればちようどよいか。
3. デッドボールをしてあそんでゐるうち、赤は五人ころされ白は八人ころされた。どつちがかつたか。
4. そこへ地主の子がきた。みんなはあそんでやつたか。
5. なつはじめ五十人だつたビオニールが、いま八十人になつた。なんんふえたか。
6. きみのはうのビオニールは、なつはじめなんん人で、いまなんん人になつたか。(以上「全農ビオニール夏季教程」下級用より)

第六問

小作人の生活しらべー自分の家の生活出来る文けはつきりした數で出して見ろ、あいてゐる所へかき込め。

小作人の一般収入				おれの家の収入			
種耕 作 類地	摘要 品 目		金 額	種耕 作 類地	摘要 品 目		金 額
	單位 價格	及			單位 價格	及	
田 一 町	米 六〇俵 (一俵六圓)		三六〇圓				
畑 三 段	麥 一八俵 (一俵二圓)		三六圓				
	野 菜		四〇圓				
そ の 他			一〇圓				
計							



計	小作人の支出										計	俺の家の支出			
	其 他	肥 料 代	雑 費	食 費	學 校 の 費 用	借 金 の 利 子	構 金	稅 金	年 貢 米 五割三〇俵	年 貢 麥 五割九俵		摘要	金額	摘要	金額
											一八〇圓				
											一八〇圓				
											二〇〇圓				
											二〇〇圓				
											四〇圓				
											二〇圓				
											一〇圓				
											一八〇圓				
											二〇〇圓				
計											一八〇圓				

第七問  
世の中には色々の収入のある人がある。しらべてみよう。あいてる所へは數を出せ。

1. 總理大臣		3. 日本一の金持	
年俸	月にわりあてると	一ヶ年の収入	一日の収入
一一、〇〇〇圓	圓	八二、一九一圓七八三〇錢	圓

一年三六五日とし、錢以下は切すてる。

一ヶ年三六五日とする。

2. 小學校長		4. ボ	
一年間は	月にわりあてると	一年間は	給
給	一五〇圓	給	四五圓

一ヶ月を三〇日として。

たつた之丈で×はれてゐる。

第八問

- 一九二九年には、一反歩から取れる米七俵が七〇圓だった。肥料はそれだけ作るのに、三俵一五圓かゝつた。一九三〇年には同じだけの米が、四二圓にしか價しない。それでは米の價に比例して肥料は三俵いくらに下るべきか。事實はどうかしてゐるか。
- ごうよく地主の持つてゐる田は、一〇〇町歩ある。ではやつのは年貢米がいくら積んであるか？ 一町歩に六〇俵取れて五割の年貢を取つてゐるのだ。



3. 俺の姉は、日給一圓五〇銭もらつて町の紡績で働いてゐる。資本家のやつ、同じ仕事をさせながら今度五割も賃下けをやりあがる、いつたらくら賃金を出すとゆうんだい。
4. おいらの祖國ソヴェート同盟では、四日働いて一日休み、即ち五日目に日曜日が来るんだ。だが資本主義の日本では、七日目にしきや休みがない。日本ではソヴェート同盟より一年間に何日多く働かねばならぬか。一年を三六五日とす。その年の一月一日をソヴェート同盟でも日本でも日曜日と考へる。
5. 町村税で主に地主が出すものは、地租附加税、所得税で、主に小作人から搾るものは、家屋税、雑種税である。次の表の空いてゐる所に、適當の數を入れて見れば何が解るか。

種類	大正三年	昭和四年	凡そ何倍か
地租附加税	一三、七七〇圓	四〇、九八四圓	
所得税	二、六一二圓	一、四二七圓	
家屋税	一、二四九圓	二〇、六七三圓	
雑種税	四、〇六八圓	三五、七七三圓	

(以上「全農ビオニール夏季教程」上級用より)

### 二、プロレタリア算術

——童謡シニプレッヒ・コール——

榎本楠郎

先生 (獨唱)

これから算術はじめよう

大工が板をけづるには

一枚十分かかるとき

一秒間にけづるには

大工をいく人必要か

——わかつた者は手をあけた

生徒 (合唱)

そいつは嘘の算術だ

いく人大工がかかつて

一枚一秒でけづれるか

けづれるか

先生 (獨唱)

さうだ！ それではもう一つ

工場の職工一千人

そのうち百人クビになり

五人は怪我して働けぬ

あとにはいく人残つたか

——わかつた者は手をあける

生徒 (合唱)

工場はすぐさまストライキ

一千人のストライキ

一人もクビにはさすものか

さすものか

先生 (獨唱)

よし〜！ それではもう一つ

今年は豊年満作で

畑には玄米二十俵



田には玄米三十俵

あはしていく俵とれただろ

——わかつた者は手をあけた

生徒（合唱）

たつた二十五俵だよ

地主が半分とりあける

けれど今年はやるものか

やるものか

先生（獨唱）

よし／＼さうだ！ もう一つ

プロレタリアが二人づつ

腕を組んでは飛んで来て

丁度十組でかたまつた

いく人の力がかたまつたか

——わかつた者は手をあける

生徒（合唱）

二人で十組は二十人

だけど、かたまりや強くなる

二倍三倍強くなる

強くなる

先生と生徒（合唱）

うでをくめ

ガッチリと

みんな一つにかたまつて

おいらはおいらの勉強だ

——をはり——

〔ピオニール・トクホン第二輯 昭和七年三月發行〕

### 三、學校では教へてくれないプロレタリアの算術

津島慶治

みなさんは算術を御存じでせう。2と3とよせるといくつですか。ちえつ、そんなやさしいのなら、誰だつて出来ら

ア。5だ。——さう云つて、元氣のいいみなさんは答えるでせう。さうです。そのとほり。

さあ、其處で！ 熊吉クンの兄さんが云ひました。

「熊吉、お前は勞農少年團の委員長だつたね。」

「さうさ、そんなこと如何して聞くの、昨日組合できまつたばかりぢやないか。」

「それぢや、聞くがね、小委員長クン。2人と3人とよせるとどれだけだい。」

「フェツ、なあんだ。一年生の算術ぢやないか。2人と3人とよせりや5人だい。」

「いや違ふよ。小委員長クン。」

「どうして、どうして、うーんと、えーと。」

熊吉クンは一生けん命に考へました。だつて、熊吉クンの兄さんは一度だつて嘘ついた事がないんですからね。でも、地主や敵に向つてはバカ正直にはしませんかね。

「えーと、2人と3人と5人、5人だよ、兄さん！」

「違ふね。ピオニール委員長。さうだなあ、まあ、6人が7人の力ぐらひだね。いや、もつとかも知れぬ。」

「馬鹿な、そんな算術つてないよ！」

「あるさ、プロレタリアの算術つてんだ。労働者や農民が2人と3人と別ツこに働いてるよりも、5人とかたまつた方が、ぐつと力が強くなるんだ。それがだんだん大きくなつて見ろ、百人團結してみろ千人團結してみろ、地主をちぢみ上らせるなんて屁でもないぞ。世界中のプロレタリアが團結してみろ、遊んで喰つて、俺たちをいぢめて居る資本家や地主なんて一とひねりだぞ！ いいか、ピオニールの委員長、わかつたか。そのつもりでピオニールをどんどん増や



すんだぞ。」

「ふーん」熊吉君はよく判らないで感心してゐましたが、やがて大聲で

「さうかつ、わかつたッ。それでなんだな。此の間僕たちが學校でかたまつて教壇にむかつたら、何時でもなぐりつけるオヒゲが青くなつて逃げてつたよ！」

〔少年戦旗〕 昭和五年二月號

#### 四、赤い算術

私は少年時代を大都會にすごしました。私の父親はその時代工場と言つてゐた大きな家具製作場の労働者でした。そしてお父さんのお母さんであるお祖母さんが私たちと一緒にくらしてゐました。だからお父さんが働いてくるお金丈では大へんみぢめな暮ししか出来ませんでした。それでお母さんは仕立屋さんの所で働きはじめましたが子供が澤山なのですぐやめなければなりませんでした。

其の頃私は小學校に通つてゐました。そして十一歳の時卒業しました。丁度最後の學年で私はパーセントについてならひました。私たちみんなが大へん好きだつた若い先生は教室でパーセントについて澤山の問題を解いてよく説明してくれました。最後に先生は「明日のために次の様な宿題を出します。諸君はめい／＼パーセントについて問題を作りなさい。しかし教科書にある問題をまねしてはいけません。諸君の家庭の生活や、お父さんお母さんの仕事の中から考へ出して下さい。」といひました。

其日私はすっかり心配して家にかへりました。どんなにして私は其の問題を作らうか？ 私はお父さんが何をしてゐるか確かに知つてゐる。だけど私たちの會社の中に數字や數は決して含まれてゐない。私の知つてゐるたつた一つの數

はお父さんの日給がルーブルであることでした。

その夕方ほどお父さんのかへりが待ちどうしかつたことはありませんでした。先月中お父さんは毎日時間外の仕事があつたので二時間ほどおくれて歸宅しておりました。やつと晩の九時に私は階段にお父さんの重い足音をききました。お父さんは部屋にはいつてきた時外套さへようぬがずに黙つて椅子に腰を下しました。顔の黒いしみと重い呼吸とはひどい疲れを證據立ててゐました。

「とう／＼もうすつかりやつてしまつた。全く今月はつかれてしまつたわい。」とお父さんはお母さんに言つた。

「そうして何をお父さんやつたの？」と私は問題を作るためにお父さんの話をすつかり使うために急に會話の仲間入をしました。

「私たちは新しいホテルのために家具をつくつたんだよ。主人がホテルの所有主との契約に署名してをつたから私たちはいそいでやつてしまはなくてはならなかつたのだ。先月中は私達は毎日二時間餘分に働いた。」

「お父さん、そのことをもつとくわしく僕に話して下さい。」と私はお父さんの方へにちりよりました。「先生がお父さんお母さんの生活から問題をつくるやうにいひつけたんですけれど、僕には出来ない。……」

「お前はそんな種類の材料で問題を作ることが出来るのかい。」とお父さんはいぶかりました。「ことは大變簡單さ、ホテルの主人が家具を注文した。労働者は仕事をした。明日は俺たちの主人が金をうけ取るだらう。それだけさ。」

「家具はいくらするの？お父さんはそれを知らないの？」と私はたづねました。

「あゝ、ふとした事で私は知つてゐる。俺たちの主人はそれをいつもの様にかくしてはゐるが、オレたちは知つてゐるのだ。書記が何氣なく話したので。」



「お父さん、そんな話して……」と私はよろこんで鉛筆をつかんで數を書きこむ用意をしました。

「さて……」とお父さんは憶ひ出しはじめました。「家具代として主人は一萬ルーブルうけとるだらう。材料は凡そ四千ルーブルする。労働者は色々の種類の給料を受取るが今月の平均給料は二ルーブル半位だと思ふ。工場には三十六人労働者がゐる三十日働いた。さあ勘定してごらん。結果はどうなる？」

私は次の數字を得ました。

料	4,000	ル-ブル
労働者の給料	2,700	ル-ブル
+) 主人の利潤	3,300	ル-ブル
合計	10,000	ル-ブル

「お父さん、結果を知つてゐますか？」と私はおどろいて言った。

「さや」

「主人は私たち全部一緒よりもつと澤山とつてゐますよ。労働者は全額の二十七パーセントをとるのに主人は三十三パーセントです。」

「それをお前は知らなかつたのかえ？ もつと悪いことには俺達が工場でのほせて汗を流してをつた時に、主人は自動車で好い天気の中をドライブしてをつたのだ。」とお父さんは微笑しました。

「何故？ そんなら何故？」と私は自分の問題を忘れてしまつて問ひました。

「彼が工場所有者であり私たちが労働者であるからさ。彼は家をもち労働用具をもち機械をもつてゐる。彼は材料を買ふお金をもつてゐる。オレたちは何をもつてゐるか？ 腕とお前たち澤山の子供とをだ。その結果オレたちは自分たちの腕を乃ち労働力を賣り、あたへられるものを受取らなければならないのだ。」

「お父さん、もし労働者たちが共同で労働用具を買つたら、ほんとに主人なしで働くことができるでせう。そうすれば

工場主の得てゐるすべての物を労働者がとることになるのですね。」

「誰の金で労働者は買ふのだ。貧乏人プラス貧乏人はたゞ零と同じだ。」とお父さんはかなしげに微笑しました。

「だけど、工場には凡そ五十人の労働者がゐる。そして工場主は一人だ。そんなら何故お父さん達は泣き寝入りをしてるの？ 彼のもち物を取上げて主人なしで働いたらいゝぢやないの。」

「氣をつける！ 小僧」と此の私の案にお父さんは刺戟されてわけもなくあたりを見まわした。

「お前はそれが何と言はれてゐるか、又それが何を惹き起すか知らないのだ。俺たちの工場で學生が指物師をして働いてゐた。その學生は度々起らうとしてゐる政體の變化について話をし、又革命は来るだらう、そして農民は地主から土地を、労働者は所有主から工場をとり上げるだらう、と云つたことを語つたのだ。彼は大層いゝ若者だつた。……けれども長くは働いてゐなかつた。憲兵が彼をつかまへて遠い地方に流刑にしたのだ。その若者は有名な革命家だつた。……うだ。お前氣をつけなさいよ。悪い人がお前の言葉をきゝつけたらすぐに『ホロタブカの息子は革命家だそんならあの親爺も又同じだらう』と言ふだらう。」

その晩私は長いことねむられませんでした。夜中に私はへんなユメを見ました。肥つた人間が工場の中に坐つてゐます。(お父さんの話で私は主人がビール腹であることを知つてゐました)そして労働者は自分の妻子と一しよに彼の所へ行きます。その人たちの家中の者を見ました。そしてこのデブはこゝにニコベック、あつちにニコベックと分けあたへてゐます。私たちに五コベックのお金をくれました。

翌日私は教室で順番に問題をよまなければならなかつた時に私は次のやうによみました。

「注文された家具に對して家具工場へ一萬ルーブルが支拂はれた。材料の値段は四千ルーブルだつた。労働者たちは給



料として二千七百ルーブル受取り、残りは主人のために残された。主人の利益は全労働者の給料を何パーセント越してゐるか？、答。主人は三十三パーセント、全労働者は二十七パーセントとる。従つて主人は六パーセント労働者全體よりも餘計に受取ることになります。」

「よろしい」と先生は言つた。その上何も附け加へなかつた。私は一番前の腰掛にゐたので、先生は何か言ひ出したい様でしたがクラスの中では何も言ひませんでした。たゞ課業の終つた時私の方を向き直した、そして言ひました。

「パウロ、一寸お残り」と。私はのこりました。先生は私を自分の部屋に呼んで言ひました。

「パウロ、お前は賢い少年だ。そしてお前の問題はよろしい。お前はお父さんとその數について話したの？」

私はお父さんとの會話を物話りました。先生は考へながら注意して私の話をきいてゐました。

「本當に！」と先生は熱に燃えて言ひました。

「私たちは幾人かの人間が金や土地や機械や一口に言へば資本や土地を持つてゐる。そんな社會に住んでゐるのです。それらの人間は資本家又はブルジョアです。そして労働者やプロレタリアも存在してゐます。資本家は労働者にその労働に價するだけ十分には決して支拂ひをしません。いつでも少なく拂つてゐます。労働者は十時間労働するときに、四―五時間の労働に價する丈のものを受けとり、残りは資本家が着服するのです。このプロレタリアの労働のぬすみどり、が所謂搾取であり、この搾取が労働者の生活に一番大きい悪を惹き起すのです。貧乏と苦しみにも拘らずあらゆる國々のプロレタリアはブルジョア政體の變革と搾取のない別の社會制度の建設を目指して團結してゐます。

勿論ブルジョア達は新しい社會制度を自分から作らうとは言ひ出しはしない。たゞ革命だけが舊い秩序をかへることが出来るのだ。パウロ、もつと澤山本を讀みなさい。お前のまわりの生活を氣を付けて觀察なさい。さうしてその時あ

なたは資本に對する労働の大きな闘争に参加するでせう。

勇敢におなり。けれども氣をつけなさい。若しもあなたの先生が他の人（私でなく！）であるなら、たしかに今日の課業のために、あなたの作つた問題のためにあなたは罰をうけたかも知れません。」

數週間の後私たちの愛してゐる先生は私達からひきはなされました。夜中にユニホームで武装した人々がやつてきて逮捕した先生を牢獄へ連れて行つたと學校の小使が話しました。先生はシベリアに流刑にされたことを後になつて私達は知りました。そこで間もなく肺病になつて先生はなくなりました。

さうしてパーセントのことを私は忘れることが出来ませんでした。社會の大きな不正が私の心を深く傷けました。年をとればとる程益々社會生活に注意し益々熱中して未來の幸福な社會へ私を呼ぶところの本を讀みました。

私は十六才のときに陰謀的な革命的なグループに参加しました。二年の後に私は投獄され、そして又二年の後にはシベリアの遠い地方へ流刑にされました。併し流刑もツァーリズムの拷問も私たちの革命的な氣持をおさへつけることは出来なかつた。革命の旗は紅く輝き勝利の旗はひらめいた。

私達は自分達の両親が考へることさへ恐れてゐたことを遂行した。革命は地球上のたゞ一國で勝利を得たのにすぎない。併しあなた方子供たちは私たちが始めた仕事を果して新しい生活を建設するであらう。

〔ピオニール・トクホン、第二輯 昭和七年三月發行〕

## 五、一 口 噺

先生「君の持つてゐる甲の田圃から一升、乙の田圃から一升、米が取れたとする。そしたら、兩方で幾升になりますか？」



生徒「一升であります。」  
 先生「どうしてです？」  
 生徒「地主が半分の米を横取りしてしまひますから。」

〔少年戦旗〕 昭和八年九月號

## 第五章 國史科教材

### 第一概 觀

彼等が唯物史觀の立場を取ることは今更言ふ迄もないことである。彼等は其の立場から歴史は移り變はるものであるから次に來るべき良い社會を造るためには從來のまちがひだらけの學校の國史を排斥して、働く者が苦しめられて來た眞の歴史を是非とも知らなければならぬと説くのである。其の爲に大體佐野學著「プロレタリア日本歴史」を材料にして兒童に適する様に書き變へた教材を種々用意してゐる。「ピオニールの日本歴史」及び「百姓はなぜ貧乏するか」等は即ち此の教材の例である。

右の外に兒童の興味本位の教材としては童話風の「左大臣の勉強ぶり」或は童謡劇「歴史は反對」或は「一口噺」等がある。之等の教材はなかなか巧みに出來てゐる其の兒童に及ぼす影響の恐るべきものがあることが察せられる。

### 第二教材

#### 一、ピオニールの日本歴史

一、ほんとうの歴史を學ぼう！

どこの學校でも五年から國史を教へるだらう。高等科になると又同じ事をくりかへして教へる。學校では天皇や將軍や戦争のことばかりに力を入れて多くの働く人たちが苦められて來たことや社會がだん／＼う／＼つり變つて進んでゆくことなどほんとは少しも教へない。プロレタリアはほんとの歴史を知らなければならぬ。

人間の社會はたえずう／＼つりかへつて進んでゆく。今までどのやうに變つて來たか、今の社會はどんなときか、この次にはどんなよい社會になるか、吾々はこの次のよい社會を作るために今どんなことをしなければならぬか、歴史を學ぶとかうしたことがよくわかつて來る。ピオニールはほんとの歴史をよく學んでまちがひだらけの學校の歴史をバラしてやらう。そして先生にほんとうの歴史を教へさせるやうにしよう！

二、日本も大昔は共產社會だつた。

一體人間は何うしてできたのだらう。

それは長い間かゝつて動物からだんだんに變つて來たので、日本人だけが神様の子だなどと言ふことはウソだ。

日本はもとは朝鮮やシベリアと陸續だつたが、およそ四十萬年も昔に地球に大變動が起つて今のやうな島國になつた。その後色々な動物が棲んで居たが、人間はおよそ三四千年程前までは一人も住んで居なかつた。日本に初めて人間が住むやうになつたのは、シベリア地方から渡つて來たアイヌ人で、國史にある蝦夷と言つて悪者のやうにかいてある。このアイヌ人は南は沖繩地方まで住んで居た。その次にシベリアや滿洲からやつて來たのがツングース族と云つて、國史



では先生が神様だと教へる瓊々杵尊や素戔鳴尊などだ。

満洲やシベリアに住んで居た民族で日本で大和民族と言ふのがこれだ。一番早く日本に渡つて来たのは樺太の方面から日本に入つて来たもので、今の奥羽地方や、新潟縣に住んで居た。その次に満洲の方面から朝鮮を廻り、一部分は満洲や朝鮮に住み一部分が日本海を渡つて今の島根縣(出雲)地方に來た素戔鳴尊や大國主命がさうだ。満洲や朝鮮に残つて住んでゐたツングース族の一族がおくれてやつて來たのが九州の宮崎縣(日向)地方に住んだ。そのほか南洋や支那の方面から渡つて來たものが九州地方に住んでゐた。熊襲と云ふのがさうだ。熊襲はアイヌと同じやうに一番後から渡つて來た。ツングース族に征服されて勢力がなくなり、後にはどれいにされてしまつた。

大昔の人間は獸類や魚をとつて食べてゐた。家などもなく穴の中に住んでゐた。ツングース族が渡つて來てから農業をやるやうになつた。けれども今のやうに、地主と小作人と言つたやうなくらひはなく、皆んな働いてみんな生活してゐた。大昔はどの國でも共產社會といつて、土地はみんなのもので、皆で働いてみんな食べて居たのだ。ソヴェートのやうにみんな働いてゐたのだ。

その頃は、氏と云つて同じ親類のものばかりが同じ土地に住んでゐた。同じ氏の中で「うちのかみ」と言つてその氏全體を治めてゐた。「うちのかみ」は後で段々と財産を握るやうになつて勢力をはるやうになつた。

蘇我氏、中臣氏などはそれで天皇の親類のものが氏のかしらになつた。氏のかしらは土地や人民を自分のものにして共產社會が段々こはれて行くやうになつたのだ。

ところが一番勢力のあるツングース族が渡つて來てからはアイヌやそのほかの前に住んでゐた人間を征伐し始めた。素戔鳴尊が八岐の大蛇を斬つたと云ふのは大蛇ではなくて、その土地に楽しく住んで居た罪のない人間を征伐したのだ。

神武天皇が悪者どもを征伐したと言ふのも、やつぱりその土地に住んでゐた人間で決してわるいものではない。このやうに後から渡つて來た勢力の強い人間が、前に住んでゐた人間をいぢめて段々力をひろめてゆくやうになつた。

神武天皇の前までを國史では神代と言つてゐるが決して神の時代ではない。國史にある色々のことは後の人が作つたものが多く、ウソが多いからビオニールはだまされてはいけない。

### 三、たうくどれい國家ができた。

神武天皇が大和地方のアイヌやその外の前からすんで居た人間を平けたり、日本武尊が九州地方の熊襲と云つて南洋方面から早くから來てすんでゐた人間や、東國の蝦夷(アイヌ人)を征服して、だんだんとツングース族の勢力をひろめた。そして大和地方に都を建て日本を治めるやうになつた。ツングース族は先生の教える大和民族のことだ。

その頃の國內を治める爲に、天皇の親類の者を方々に將軍として置かせ、その土地の人民を征服して稲や織物などを天皇に取り立てられた。後には住んで居る土地までも取り立てられて了つた。天皇やその一族のものは立派な宮殿に住んで人民たちの税で樂にくらして百姓たちは汚い家に住んで食べるものもろくにないやうな生活をしてゐた。仁徳天皇のところでは人民が困つてゐる話を聞くがその頃の人民の生活はもつともつとひどかつたのだ。

神功皇后が三韓征伐をしたのは、熊襲を平けるためばかりでなく、その頃の新羅は「寶の國」と云はれる位、金銀財寶があつた。それを日本に取立てたかつたからだ。去年から日本が満洲に兵隊をやつて満洲新國家を建てたのと同じだ。神功皇后は三韓を日本の植民地にしていろくの寶物を日本に送らせたのだ。三韓を征伐してから朝鮮や支那から學問や工業や佛教などが傳來して日本もだんだん變化してしまふまでの政治ではうまく行かなくなつた。そこで大化の改新が



起つたのだ。

大化の改新で一番變つたことは班田收授の法と言つて土地を全部國有にして、天皇の勢力をうんと強くしたことだ。その頃天皇に次で勢力のあつたのは貴族で農業や工業を営んでゐる民は決して貴族のやうに高い位にはつかなかつた一番みぢめなのは天皇や貴族に使はれて居た人間だ。これ等はどれいと言つて土地を開こうしたりお寺や御殿を作る時に働く労働者で自由に結婚することも出来なければ、稲一千たばで賣られたり買はれたりしてゐた。今でも東北地方などでは飢餓でくらしがたなくなり娘が東京に賣られてゆくさうだが昔でも今でも働く貧乏人は同じやうに苦められ人間らしい生活は出来なかつたのだ。それも貴族のやうに遊んでくらす者が勢力を持つてゐるからだ。

奈良の都の榮えた事を先生は力を入れて教へる。その次に貴族はお寺やご殿をたて、踊つたり歌つたり、だがそのお寺やご殿を建てたのは皆どれいで今で云へば立派な労働者だ。東大寺の大佛を造るためには何千人のどれいが血を枯らしたとか。それは今とかはならない。鐵道を作るにも學校をたてるにも労働者の力ででき上るので。今の労働者が苦しい生活をしてゐる以上に、その頃のどれいはみぢめな生活をして居たのだ。ひどいになると人柱と言つてお寺やお宮の柱の下にどれいを生埋めしてその上に柱をたてたものだ。天皇や貴族が死ぬと必ずどれいがその度々に一緒に死ななければならぬしはしになつて居たこともある。これを見ても何んなに昔の貴族が勢力があり、どれいがいぢめられてゐたかわかるであらう。それと言ふのも貴族は土地やいろ／＼の財産を澤山持つてゐるからだ。

かやうに天皇や貴族が勢力を握つてゐて百姓やどれいを苦しめて居た時代を「どれい國家」と言ふのだ。このどれい國家が榮えたのは奈良時代でその後は天皇や貴族にかはつて武士が勢力を得るやうになるのだ。歴史は今まで話したやうに段々と變つてゆくのだ。

最初は共產社會で人間は皆働いて金持とか貧乏人とかと差別がなかつたのだ。それが段々天皇や貴族が土地や財産を持つて行くやうになつて強いものと弱いものが出来るやうになつたのだ。強いものは日本の政治を自由に遊んでゐて樂な生活をして居たが弱い貧乏人は毎日働いて苦しい地味な生活をしなければならなかつたのだ。

今の社會でもさうだ。労働者や農民は毎日働いて苦しい生活をしてゐるが何時までもさうなのだらうか、決してそうでない。その次の社會は労働者農民の社會だ。歴史を學ぶとそれが段々わかつて來るのだ。

ピオニールがほんとの歴史を學ぶのも昔の百姓やどれいがどんなに苦しい生活をしてゐたかを知るためだ。そして昔の百姓やどれいがどうして苦しい生活をしなければならなかつたかを知るのだ。それは今の労働者農民が何故苦しい生活をしなければならぬかを知ることになるのだ。

この次はどれい國家の次の社會のことを話さう。封建國家と云つて武士が勢力を得た頃の話だ。

〔ピオニールの友〕第四輯 昭和七年七月發行

江 口 渙

### 一、むかしの百姓 (省略)

### 二、貧乏のはじまり (省略)

### 三、大化の革新

(前略) 孝徳天皇の次の天皇、天智天皇のあとでは、武士や役人や坊主などが、おかみのいふ事をきかなくなつて、又々、土地を百姓から取り上げてしまつたために、百姓はもとどほり貧乏になるより外なかつたのだ。



## 四、その後の百姓

その後長い間、武士や役人や坊主などは、あいかはらず働かないでむやみとぜいたくをしたり、自分の勢力をはるために、たぐさんの家來をおいたりするために、百姓からびし／＼米を取り立てたばかりか、城だの家屋敷だのお寺だのを造つたり、時にはお互同志、領地をうばひあつて戦争をしたりしたおかげで、百姓はいつも無賃の人夫にひきづり出され、米や麥はおろか馬や牛までさらつて行かれた。その上、家は焼かれ田畑は荒され、生命までもとられたりした。徳川時代になつてから明治維新まで、三百年の間、日本にたいした戦争がなかつた。それから百姓の生活がらくになつたか、といふとさうではない。

徳川家康といふ男はとても悪い男で、日本中を自分の思ひきり、ひどくおさへつけなければいけないと考へた。そしてそのためにとてもひどいことをしたのである。「百姓は生かさず、殺ろさず、菜たね油のやうに、しほれるだけしほるべし」といふのが、家康の百姓にたいする政治だつた。つまり百姓にらくをさせては、百姓が強くなつていふことをきかなくなるし、殺してしまつては米を作る人間がなくなつてしまふ。米がなくなつては自分達がくへなくなる。だから死なないやうに、又、強くないやうに、できるだけぎゆうぎゆうおさへつけておいて、ちようど菜たねの實から種油をしほるやうに、とれるだけ米を百姓からとつてやれといふのであつた。おかげで百姓はますます／＼貧乏になつて行つた。

## 五、明治になつてから

今から六十年ほど前に、家康の子孫である徳川將軍家がぶつ／＼ぶれて、明治維新となつた。そして日本にもはじめて西洋風の新しい政治が行はれるやうになつた。

だが、いくら新しい政治が行はれても百姓の生活は少しもらくにならないばかりか、かへつて苦しくなるばかりだ。なぜだらう。それはむかしの大名や、將軍や坊主のかはりに、こんどは地主といふ奴が、田圃の貸貸だといつて、百姓の作つた米を半分以上もとつてしまふからだ。

又、國を守るために入用な何十萬人もの兵隊をださせたり、何十萬挺もの鐵砲をつくつたり、何百艘もの軍艦をこしらへたりするために、とてもたぐさんの税金をおかみへおさめなければならぬからだ。

そればかりか、第一、今の世の中は金の世の中だからたまらない。米や麥をつくるのに是非ともなくてはならない大切な肥料を買ふにも金。鉄や鋤や、馬や牛を買ふにも金。着物を買ふにも金。學校へ行くにも金。ところが百姓には金がない。金がないから、中學校はおろかろく／＼小學校へも行かれない。あたゝかい着物もきられない。おいしいものもたべられない。その上、肥料や鋤鉄を買ふたびに、それを作つて賣つてゐる金持達に、どんなにもうけられやうと、どんなに高い品物を買はされやうと、やはりどうすることもできない。何故なら百姓は金がないから、さういふ物をやす／＼外國から買つて來たり其をこしらへる工場をたてたりする事が出来ないからだ。

だから田圃をかりてゐるために、しじゆう米を地主にとられてゐる小作人はもとより、少々田地をもつてゐる百姓さんも、いよいよ貧乏になるばかりだ。だが、百姓はこの世の中に一日もなくてはならない大切な米をつくる人達だ。その百姓がいつまでもこんなに苦しんでゐて好いものだらうか。いゝえ。いけない。斷じていけない。

## 六、ではどうしたら好いか

生活がらくになるために、地主や金持にたのんで、小作米や肥料代をまけてもらへば好いか。いや、そんなことはとてもだめだ。地主や金持といふ奴は自分達さへとくをすれば、百姓なんかどんなに苦しんだつてかまはないと考へてゐる



る。とてもひどい人間どもだ。そんな奴らに何かたのんだつて、何になる。

それよりか、百姓は百姓同志、大勢いつしよに結びついて農民組合を作つて、互にあくまで助け合つて、その團結の力でもつて、どしどし地主や金持にぶつかることだ。そして自分達の生活を今までのやうな貧乏でなくすると、米をつくる百姓のほうに、のらくらしてゐるお前たちよりどんなにゑらいかわからないぞといふことを地主や金持にはつきりしらせてやることだ。その地主や金持にばかりつがう好くできてゐる今の世の中を百姓や労働者の住み心地の好い世の中になほすために、工場で働いてゐる労働者と力強く手をとりあつて、いつしよけんめいにやることだ。みなさんもこの世の中をさういふやうにたてなほすために、勞農少年團を作つて力のかぎりやりませう。

勞農少年團萬歳！ 労働者農民萬歳！

〔少年戦旗〕昭和四年十月號

### 三、左大臣の勉強ぶり

中野 重治

輕石といふアダ名の先生が、六年生を集めてこんな話をしてきかせました。

「むかし左大臣藤原の道長といふ人がありました。左大臣といふのは今でいへば總理大臣にあたります。それだけでもどんなにえらい人だつたか分るでせう。その上この道長といふ人は非常な勉強家で、その勉強ぶりといつたら、ある日なども風呂にはいりましたが、ほんやり湯につかつて居る時間が惜しくてたまらないので、家來に本を持つて來させてページを次々にとめくらせながら、それに読みふけたといふ話があるくらいです。」

さういつて先生は、まるで自分が道長になつたやうな顔をして胸をそらせました。

三吉や馬作や歸一はすつかり怒つてしまひました。

「先生ッ」三吉が立つていひました。「道長といふ奴は總理大臣だつたんでせう。だから労働者や小作人をいぢめて澤山税金を取つたのでせう。だから澤山本が買へたのでせう。いやなこつた！」

「いやなこつた！」こんどは馬作が立つていひました「そいつは湯にはいつても自分でからだを洗はなかつたんでせう。顔を洗ひながら本を読むなんて誰にも出來ないからな。からだも家來に洗はせるし、本のページも家來にめくらせる。そんな勉強する奴が、どこがえらいんだいッ！」

「そんな奴あウヂムシだ！」こんどは歸一が立つていひました。

「俺が、その家來だつたら、道長の首を湯槽の中へつゝ込んで、それから、流しの敷石に顔をこすりつけてやるんだがなあ……。」

「輕石でこすつてやれ……。」

「道長のバカ……。」

「チッチャ……。」

「ワーッ……。」

たうとう先生が逃げ出しました。

するとその後からみんな揃つてバチバチと手をたゝいてはやしました。

「やあ、輕石がころけて行く……。」

〔少年戦旗〕昭和四年月號

### 四、歴史は反對

葉山 一秋



▽▽出演者△△

先生

級長Ⅱブルジョアの子供

生徒、甲、乙、丙Ⅱピオニール

生徒大ぜい

▽▽場所△△

教室

▽▽時間△△

歴史の時間Ⅱまだ先生が来てない

甲。 来い〜世界の小さい同志

甲乙。 世界の子供よ手をつなご

甲乙丙。 われらは赤旗プロレタリア

合唱。 タッタ、タタ、タッタ、タタ

甲。 用意はよいか

合唱。 守れ旗を

級長。 これ〜騒ぐな静まれい

言ふこと聞かんとこの通り

(ムチを振つて見せる)

級長は先生の代理だぞ

(教壇に立つて先生然と)

騒がずミンナ本を讀め!

甲。 俺は歴史が大嫌い

乙。 ウソツキ歴史は大嫌い

合唱。 ミンナは歴史が大嫌い

級長。 僕は歴史は大好きだ

戦争の話は尙すきだ

日清、日露、日獨と

日本はいつも勝つてゐる

満洲事變や上海の

肉弾勇士は勇ましい

僕の父さん大佐です

「ミクニのためだ」といつもいふ

甲。 俺の兄さん戦死した

乙。 俺の父さん廢兵よ

甲乙丙。 俺らは戦争反對だ

(この時先生ノコ〜やつてくる。級長教壇から降り

て先生が教壇に上る)

先生。 これ〜騒ぐな静まれい

今日の歴史は八頁

神武天皇といふところ

さあ讀める人手を上げた

甲。 俺は歴史が大嫌い

乙。 ウソツキ歴史は大嫌い

丙。 ブルジョア歴史は大嫌い

合唱。 ミンナ歴史は大嫌い

先生。 これ〜騒ぐな静まれい

歴史はユカイで面白い

古いことから新しいこと

愉快に學べるよい歴史

級長。 そうだ歴史は面白い

天の岩戸や高間ヶ原

三種の神器や金の鶏

何でも學べるよい歴史

甲。 天の岩戸があるものか

乙。 高間ヶ原があるものか

丙。 金の鶏などゐるものか

合唱。 ブルジョア歴史はうそだらけ

先生。 これ〜騒ぐな静まれい。

神武天皇と云ふところ

サア讀める人手を上げた

級長。 先生僕が讀ませう

(立つてヨもうとする)

甲。 ウソツキ歴史は反對だ

合唱。 俺らは赤旗ピオニール

乙丙。 ホントの歴史がならひたい

合唱。 俺らは赤旗ピオニール

先生。 これ〜騒ぐな静まれい

これは弱つたどうしやう



合唱。ゆけ〜世界の小さい同志

世界の子供よ攻め落そ

われらは赤旗プロレタリア

タッタ タタ タッタ タタ

タッタ タタ タッタ タタ

用意はよいか みな進め!

(この合唱次第に遠くへ行く)

(「ビオニールの友」第三輯 昭和七年五月發行)

甲乙丙。ホントの歴史が習ひたい

合唱。俺らは赤旗ビオニール

先生。よし〜分つたビオニール

ホントの歴史を教へやう

(教室を出る)

合唱。俺等もミナでかけ合だ

(先生のあとから教室を出る)

五、一 口 噺

先生「大昔、或る所で一番えらい女の神様が他の男の神様達を集めて、鏡を渡して申されました。『お前達この鏡を見る時は私を見る様に思へ』と。』

生徒「でも先生、其の時女の顔ぢやなくて男の顔が寫ります。

(「少年戦旗」 昭和四年六月號)

第六章 地理科教材

第一 概 観

地理科教材としては「世界各国めぐり」の如く各國の實情を左翼的に説明したものがある。例へば獨逸に關しては其の社會民主主義者を攻撃したり大戰の慘害を説いて戦争反對の宣傳をする。又中華民國に就いては中國ソヴェートの活動を誇大に報告してゐる。

其の他に地圖を示して判り易く中國ソヴェートの情勢、ソヴェートの勢力、全國農民組合全國會議派の活動振を知らしめようとしてゐる。

又最近滿洲事變勃發以來滿洲問題に關する教材が多く發見されるに至つた。それに於いては同事變を目して日本が滿洲を殖民地にするための帝國主義泥棒戦争であると言ひ戦争反對の宣傳をするのである。

次に夫々の教材の内容を其のまゝ掲げる。

第二 教 材

一、世界各国めぐりドイツの卷

村山 知 義

ドイツと云ふと諸君はきつとすぐに、カイゼルを思ひ出すに違ひない。あの男はカイゼル髯をピンと生やして、始終軍服を着てゐた。だがあの男も今からもう十四年も前に皇帝の位から追ひ出されてしまつて、今ではドイツとカイゼルとは何のつながりもない。



今ではドイツはフランスや、アメリカと同じ様に共和國だ。共和國では人民が投票して大統領と云ふものを選挙する。ドイツは世界中でロシアの次に労働者、農民の勢の盛な處だから、我々の仲間を大統領にすれば良いのだが、社会民主主義者と云ふニセ社会主義者が労働者、農民をだまして、とんでも無い大統領を拵へ上げて仕舞つた。誰かと云ふとヒンデンブルグ元帥と云ふデ、振り肥つたぢぢいだ。此のぢぢいは、あの世界大戦の時のドイツ軍の總指令官で人殺しの親玉だ。こんな大統領や資本家の家來のニセ社会主義者共の御蔭でドイツの労働者、農民は随分非道い目に逢つて居る。カールや、ローザを殺したのもあの連中だつた。資本家や地主よりも悪い奴等だ。

それから又ドイツと云ふとツェッペリン飛行船を思ひ出すだらう、此の間世界一週をして日本の上を飛んで行つたあの大きな銀色の飛行船だ。ドイツは随分立派な機械を作る。ツェッペリン飛行船の他に近頃は百人乗りの大きな水上飛行機を作つた、世界で一番速いブレーメン號と云ふ汽船もドイツの汽船だ、だがかういふ立派な機械も資本家共の手中に有るとロクな役にたたないばかりか、反つて悪い役にたつ、例へばツェッペリン號は世界大戦の時にロンドンの空から爆弾を投下して女や子供を殺した。いや大きな飛行機も速い汽船も資本家共は皆んな戦の時の事を考へて拵へて居るのだ。

戦争と云へば、ドイツの労働者農民は十五年ばかり前の世界大戦の時には随分ひどい目に遇つたものだ。働き盛りの男達が、片ツぱしから戦場で殺されてしまつて、一時、ドイツ中には、男と云へば、戦争で手や足をなくしたカタワの人と、おぢいさんと、食べる者がなくて骨と皮ばかりになつた子供達しかなくなつてしまつた。その上、戦争に勝つたイギリス、フランス始め澤山の國の資本家共が、ヤレ賠償金をよこせ、ヤレこの土地とこの土地をよこせ、といふわけ、ギョウギウしほつたものだから、ドイツの労働者農民は犬よりひどいやうな暮しをしなければならなくなつてし

まつた。所が一方、この戦争をたくらんだドイツの大きな資本家共はかういふ時にもコスイことをして、相變らず肥えふとつて、しこたまもうけ込んでゐたのだ。所が、ドイツの労働者農民はいつ迄もだまつてはゐない。どん／＼と闘つて、今ではロシアをのけると世界で一番たくさん、一番力の強い、我々の黨や組合を持つてゐる。

ドイツがロシアと同じやうな國になるのも、決して遠いことではないのだらう。

ドイツの兄弟達！しつかりやつてくれ。(をわり)

〔少年戦旗〕 昭和五年二月號

## 二、世界各国めぐり中華民國の巻

藤枝 丈夫

私たちが毎日使つてゐるお茶や味噌や醤油などは、むかし支那から傳はつたものです。屋根の瓦も家の建てかたも、店先きの暖簾も算盤も、蜜柑も林檎も葡萄も銀杏の木も、太鼓や三味線、碁、將棋、雨傘、農家で使ふ唐箕や連枷や牛馬にひかせる犁や、文字や筆や墨や紙や、それから神社の祭りなどに使ふ簾、ひちりきなどの樂器から神官のはく沓……古くから日本で使はれてゐる品物は、みんな支那から來たものです。織物、染物、陶磁器の作り方から、法律、制度、禮式にいたるまで、支那から取り入れたものが少くありません。(日本に大昔からあつたものなどは、ほんの僅かしかありません。大體日本人といふものが、南洋から來たもの朝鮮から來たもの支那から來たものと、それより古くから日本に居たアイヌやクロボクなどの入りまじつたものだと學者は言つてゐます。)だから、支那はむかしはずつと進んだ國で、日本の先生であつたと言ふことが出來ます。

支那といふのは日本人だけが使つてゐるので、今の名前は中華民國といひます。これを略して中國と云ふのが普通です。面積はまだ十分に調べられてゐませんが、凡そ三百九十一萬三千五百六十平方哩(日本の十五倍強)とされてゐま



す。人口は凡そ四億三千萬人位（日本の六倍強）だと言われます。

四億三千万の中には漢人、滿洲人、蒙古人、西藏人、トルコ人などの種別があつて、それ／＼違つた文字や言葉、風俗、習慣を持つてゐます。その中で漢人は四億萬人もゐますから、中國のことといへば、大たい漢人のことが主になるわけです。

この澤山な人達はおもに揚子江（長さ五千二百キロ米）や黄河（四千百キロ米）の流域にかたまつてゐます。大きな商工業の盛んな都會が、この二つの大きな河や南の方の珠江の兩岸に散在してゐます。

奥地の方には鐵や石炭や、色々な金屬が、まだ大部分は手をつけられずに地の下に眠つてゐます。材木や高價な藥草類や毛皮なども奥地でとれます。そして、平野で實に澤山出来る綿や茶や、米、小麦、豆類、山藪、普通の藪などと一緒に、この都會地を集つて来て、その工場で色々な品物に製造されるか、又は日本やアメリカやイギリス、フランスなどの大商人ブルジョアの手でそれ／＼の國に送られて、金儲けのたねとなつてゐます。また外國の商品もみなこの河筋の都會に一旦送られ、中國の金持商人の手に移つて、都會の労働者や奥地の農民に賣りつけられてゐるのです。だから、日本と同じやうに中國のプロレタリアは、いつも汗水流してこしらえたものを安く買ひとられ、多くの商人の手を通つて来るために高い値段のついたものを買はされてゐるのです。それでだん／＼暮して行くのが苦しくなるばかりです。

皆さんはこゝまで読んで不思議に思ひませんか？ なぜ、そんな大きな國で人口も多いし、昔から進んでゐるたばかりか、地下に埋もれてゐる天産物も豊かな中國が、どうして今では弱味喰になつてゐるのか？ どうして中國の働く人たちが日本と同じやうに貧乏で苦しんでゐるのか？ こんなに思ひはしませんか？ それは第一にブルジョア地主がまだの

さばつてゐるからです。

それから外國のブルジョア共が、軍隊や軍艦を番人のやうに引きつれて、その武力にまもられながら、好き勝手な金もうけ仕事をやつてゐるからです。しかも中國のブルジョアと地主は、それ／＼自分に都合のいい外國のブルジョアと腹を合はせて、甘い汁を吸ふために一生けんめいなのです。そのためには一年中ほとんど絶え間なしに戦争さえやつてゐるのです。だから、中國の労働者農民は、全くひどい目にあはされてゐます。それで世界中のプロレタリアと一緒になつて、ブルジョア地主どもと戦つてゐるわけです。

中國のプロレタリア少年たちも大人に負けないやうに元氣よくやつてゐます。早いところでは今から六年前に労働者少年團が出来ました。その後、農村にも工場にもプロレタリア少年團（ピオニール）がどし／＼出来て、勉強したり、運動したり、大人と一緒に争議に参加したりしてゐたのですが、一九二七年の春以來、ブルジョア地主の殘酷な壓迫によつて、勇敢な少年たちも一時姿を潜めてゐます。しかし、今でもソヴェートのある南部の地方では、少しも衰へないばかりか、自分たちがソヴェートになつてから味つてゐる幸福を、全世界の少年少女と一緒に味はふ日のために戦つてゐるのです。

中國の地圖を見ていらんなさー！ （をばり）

〔少年戦旗〕 昭和五年一月號



三、世界地圖



世界地圖だ。おれたちのプロレタリアの國にはちゃんと色がついてる。ソヴェート支那は日毎に大きくなってゆく。

- 1、夫々の國名を入れてゆけ。
- 2、ピオニールのある國に赤い星をつける。
- 3、ロシアの近頃の様子を知つてる文書け。

〔全農ピオニール夏季教程〕上級用

四、日本地圖



プロレタリア地理、

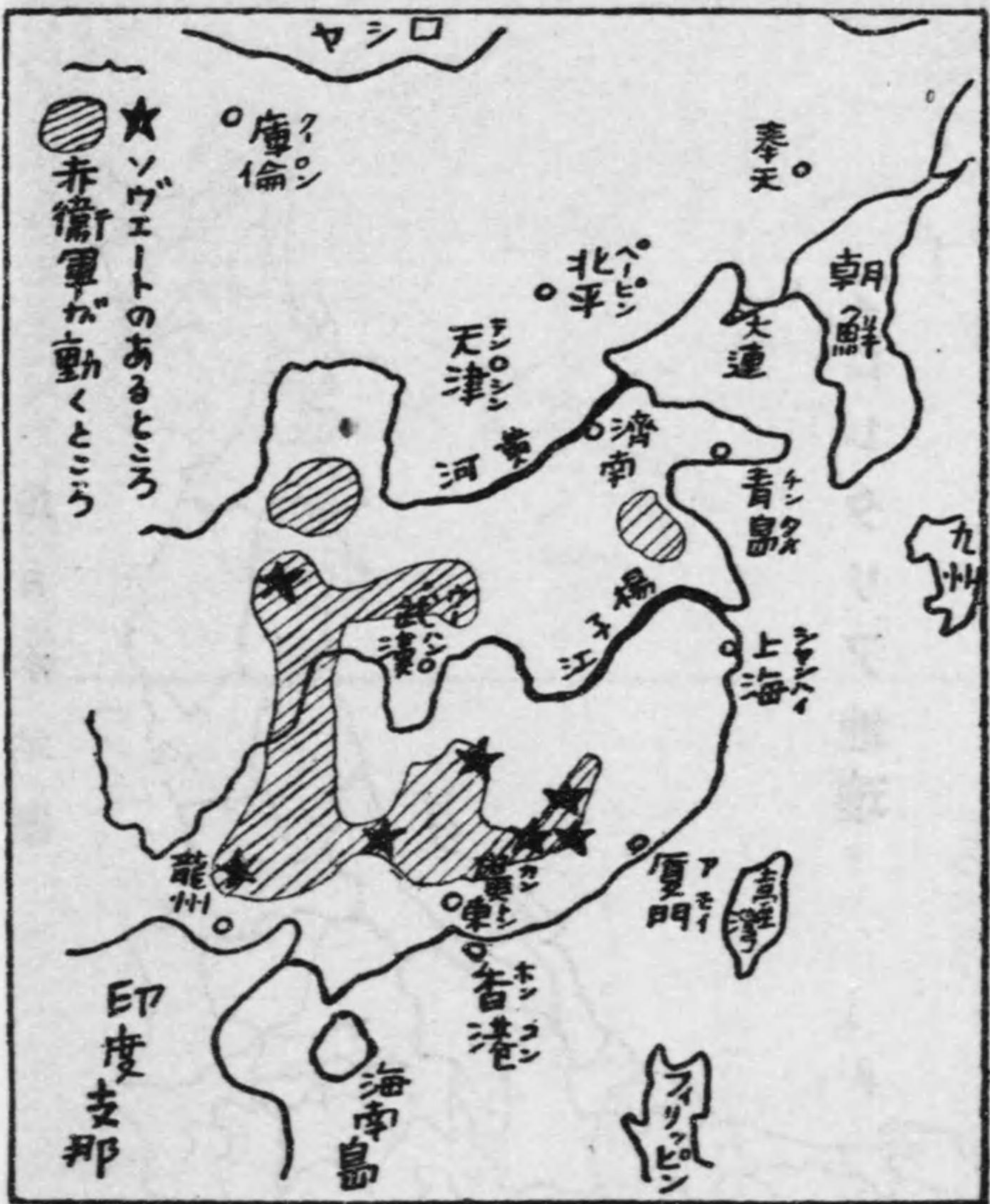
日本中に百姓が米を作つてゐる。したがつて、わが全國農民組合の赤旗は全國にひるがえつてゐるのだ。

組合の人か兄ちゃんにきいて、聯合會のある縣に星を入れてゆけ、そこには必ずピオニールの旗もたつてゐるのだ。

〔全農ピオニール夏季教程〕上級用



中國は日本の二十三倍の廣さがあります。これは中國の地圖ですが、これで全部ではありません。ホシのついでるところはソヴェート（労働者農民が天下をにぎり委員会を作つてゐるところ）です。ヨコ線のところは赤衛軍が活動してゐる地域です。



此の頃「共産土匪」とか「共産土賊」とか「共産匪賊」とか書いて大いへんなわるものが中國（支那）で人殺しや強盜をはたらいてゐるように云つてゐるがこれはまつかなうそだ。これは中國のプロレタリアの自衛團や赤衛軍なのだ。それを何故やつらがわるものみたいに云ふかといへばプロレタリアが強くなるとやつらがこまるし、こわいからなのだ。（中略）中國の兄弟は、イギリスやアメリカや日本やその他の金持地主のさばつてゐる國からいよいよしほられ、いぢめられてゐた。中國の金持地主もさういふ國の手先にな

つていよいよに労働者農民をしほつてゐた。

中國の兄弟は怒つて團結した。それが、世界中のブルどもが「土匪」なんて云つて恐れてゐる赤衛軍なのだ。赤衛軍は今十五團軍あつてそのなかには十萬人もゐるのだ。勞農少年も團結して「少年先鋒隊（ピオニール）」を作つてゐるぞ（前略）中國から中國の兄弟をしほつて生きてゐる日本のブル共をたたき出せばやつらはいやでもべちやんこになる、そのときこそはおれら日本プロレタリアが彼等に勝てる時だ。

おれらは中國の兄弟といつしよに力を合せて戦つて行かう。

〔少年戦旗〕 昭和五年七月號

六、滿洲國とはどんな所か？

滿洲國が出来上つたのは今年の三月一日です。滿洲は元來中國の一部なのですが日清日露の戦争以來日本は關東州と南滿洲鐵道とを九十九ヶ年も借り受け（中略）（借りたと云ふと體裁がいゝが實際はドロボーしたのと同じです）關東軍司令官、滿鐵總裁、關東廳長官の三人が日本の金持や天皇共の命令で勝手なことをしてゐたのです。

ところが最近労働者や農民其他働く人たちがますゝ生活が苦しくなつて來たので（中略）俺達も早くあのソヴェート同盟の様になりたいと云つて日本人の働いてゐる人達が天皇や金持地主と闘ひ出してゐる。更にソ同盟と隣り合つてゐる中國（支那）ではもう國內の五分の一位は労働者農民が國を治める「ソヴェート區域」になつてしまつた。そして素晴らしい元氣で日本や英吉利やアメリカ、フランスの軍隊と闘ひながら、だんだんソヴェート區域を擴げて來るのです。

そこで日本の天皇と金持と地主たちはこのまゝ打捨てておけない。ソ同盟と中國ソヴェート區域を打つぶして自分の



領土にしてしまはうと云ふのである。「滿洲戦争」をやつたのです。ところが滿洲の労働者や農民たちは皆一齊に武器を持つて日本軍に反抗した。何故なら滿洲戦争で負けて日本のものになればますますひどくいぢめられ、くらしが悪くなる事が判つてゐるからです。そこで日本が考へ出したのが「滿洲國」と云ふことです。滿洲國と云ふ新しい名の國を作つて滿洲の人たちに「自分たちの國が出来た」と云つてよろこばせ、その實は日本の手で好き放題なことをやるやうにしたのです。

(1)まづ「宣統帝溥儀を天皇として作つたのは天皇ならどんなことでも勝手にやる権利があるからです。

(2)滿洲國の大切な役目の人は皆日本人です。

(3)滿洲國の軍隊や巡查や憲兵は大てい日本人です。

だから滿洲國が出来たつて滿洲の人は樂になるのみか却つて日本の金持どもに一層ひどくいぢめられてゐるのです。日本人も滿洲國などが出来て戦争がだん／＼廣まつてゐるので、私達の兄ちゃんや父ちゃんや父ちゃんは滿洲だけで、もう二千四百人も死んだりケガしたりしてゐます。國內で一番働ける人達が戦争につれてゆかれ殺されてしまふのでますます／＼生活が困つて來ます。

私達はこの滿洲國のほんとの事を皆に話をして教へてやらう！ たとへばこの間のやうに滿洲國から三人の小さい子供が來たら（滿洲國が出来てよろこんでゐるのはあんな氣持か、よろこんでゐるのは少しばかりの役人の子供だけだ）皆の學級自治會では「滿洲國使節歓迎反對」をどこでも決議してあんな奴らを追ひ出してしまふやうにするのだ。

〔ビオニール夏休み帳〕 昭和七年八月發行

## 七、地理 滿洲國

森 かづ子

島田君（ビオニール）

田中君

春子さん

島田「滿洲國といふ新しい國の出來たことを知つてゐるかい？」

田中「知つてる。今年の三月一日に出來た國だらう。」

島田「そうだ。面積が九十九萬平方杆もあるといふから、日本の約一倍半だな。」

田中「よく新聞で東三省と書かれるが、あれはどういふことだい？」

島田「遼寧省、吉林省、黒龍江省に分れてゐるからだ。」

田中「冬は随分寒いさうだな？」

島田「零下三十五度から四十度ださうだ。チチハル方面では、素手でドアのハンドルをつかまへて手の皮がハンドルにくつついてはがれた事もあるさうだよ。」

田中「シヨンベンが凍るといふのは滿洲の事かい？」

島田「コハク色のなア、美しい塊が道端にころがつてゐるので、こいつあもうけものだど、或る人が拾つて持ち歸り、宿屋の番頭に見せたら、番頭は鼻をつまんで、悲鳴をあげたさうだよ、そのコハク色の美しい塊が、君、シヨンベンの凍つたものださ。」



田中「ハ、ハ、ハ、……」

春子「ホ、ホ、ホ、……」

田中「そんな寒い國ではピンボウ人が困るだらうなア。」

島田「そう言へば、滿洲の百姓さんは一日に三錢で暮してゐるさうだ。」

春子「三錢で何を食べるの？」

島田「ムギ粉に炭酸を加へて、ねつて造つたダンゴが、一錢で三個買へる。それを生ねぎといつしよに食べるさうだ。

一食三個づゝ食べてそれでがまんするんだな。」

春子「まあ、可愛想だ。滿洲では大豆や、小麥やトウモロコシがたくさんとれるんぢやないの？」

島田「大豆の年産額が四千百萬石、小麥が九百八十萬石、高粱が三千七百三十三萬石、粟が二千八百二萬石、トウモロ

コシが一千二百三十萬石、その他色々の農産物がとれるよ。」

春子「それなのに、どうしてお百姓さんはミヂメナ生活をしてゐるの？」

島田「小作料として、地主や軍人にシボリ取られるからさ。」

田中「自分で作り上げた農産物が自由に食べられないなんてバカ／＼しい世の中だな。」

春子「併し今度の新國家が出来るとそんなことないでせう。」

島田「どうしてだい？」

春子「少女俱樂部に滿洲三千萬民衆は新國家が出来て永い／＼地獄のような生活から愉快な平和な樂園に暮すことが出来る」と書いてあつたわ。」

島田「バカ言つてらあ。」

田中「だつて滿洲國の執政は昔の王族で宣統帝といふエライ人だらう。」

島田「なに、エライ事があるものか。」

田中「どうして？」

島田「今から二十一年前に支那に革命が起きて王制が倒れて、共和制になつた時、今の宣統帝は王族で、ハナタレ小僧だつた。それで部下につれられて逃げたのだ。そして今まで生きのびて來たんだ。」

田中「それなのに、どうして宣統帝が又執政になつたの？」

島田「滿洲國といふのは、あれは滿洲人が自らつくつた國ではないんだな。まあ、言はばテイのいゝ日本の殖民地だよ。日本のブルジョア共は日本の労働者や農民からアマリ搾り取れなくなつたので、こんどは滿洲と云ふ植民地を作つて、そこから甘い汁でも吸はうと考へ出したわけだ。そうするには、何でも日本（ブルジョア）の言ふことをハイ／＼と聞く宣統帝を執政にしないと、思ふように滿洲の労働者、農民からシボリ取れないわけだ。それに宣統帝は、自分さへ執政になつて、ラクな生活さへ出来れば滿洲の労働者や農民がどんなに日本のブルジョア共から搾られようが、いぢめられようがかまはないと言ふ奴なんだ。そして日本のブルジョア共と一しよになつて労働者農民をウンといぢめる考なんだよ。」

春子「では、やつぱり滿洲の人たちはちつとも樂にならないわけなのね。」

島田「そうなんだ。それに僕達からも慰問金だの、小學生號の献金だのとつて戦争したけれど、それは僕たちには爪の垢程もトクにはならないのだからなア。」



田中「だつて、新聞には、滿蒙は東洋の寶庫だから、どんく滿洲に渡れと言つて、日本の失業者を送つてゐるぢやないか。」

島田「なに、ダメなのさ、僕のオチさんは五尺七寸の大男で、この間、滿洲の巡査に合格して行つたが、まだ就職しないさうだ。此間オチさんから手紙が來たが、日本からきた失業者はホンの僅かばかりしか就職しないで、残りはヤッパリあちらで失業してゐるさうだ。」

田中「それぢや新聞なんてアテにならないな。」

春子「滿洲からは鐵と石炭が澤山でせう。」

島田「世界一と言つてもいい。石炭は撫順、煙臺、本溪湖等が主産地で年産額一千万トン尙三十億トン位は掘れるのみださうだ。鐵は鞍山、本溪湖等で年産額八十三萬トンもとれる。そこで日本の三井、三菱なんといふブルジョア共が大儲しようとならつてゐるんだ。」

田中「石炭や鐵を掘る山ではストライキなんて起らないかい。」

島田「時々おこる。又滿洲には日本のブルジョア共が労働者、農民をシボツテ大儲しようと言ふのに反對して勇敢に闘つてゐる労働者や農民があるよ。よく新聞に匪賊とか共匪とか言つて書かれるだらう。あれがさうなんだ。」

田中「僕は又馬賊のことかと思つたよ。」

島田「そうではないんだ。そして、目ざめた労働者や農民は自分達の生活や生命を守るために闘つてゐるからとても強さうだ。」

田中「どうして滿洲の貧乏人全部が團結しないかなあ？」

島田「それはブルジョア共がピンボウ人が捌口にならぬように教育しなかつたり、又してもブルジョアに都合のよい教育をしてゐるのだ。でも滿洲のあちこちで日本のブルジョア、滿洲のブルジョアに反對してたゝかつてゐるんだ。」

春子「ほんとに考へるとブルジョア共はにくいわね。」

島田「併し、いつまでもそんな國ではゐないさ。労働者、農民が目覺めて團結したらとても強くなるんだ。」

田中「君はよく色々なことを知つてゐるな。」

島田「うむ、僕は日曜會を作つて、そこで組合のオチさん達から色々な話をきいたり、又皆で話合つたりするんだ。」

田中「僕も入れてくれないか。」

島田「あゝ、おいでよ。春子さんも入らないか？」

春子「女でもいいの？」

島田「いゝよ、五人ばかり女の子もゐる。」

春子「さう！ ぢや入れてよう。」

島田「あゝおいでよ。」

田中「あの古川の奴な、學校を卒業したら滿洲に行つてエラクなるんだと言つてゐたよ。オヤヂが工場の監督だからといつて、いつもいばつて、あの野郎なまいきだなあ。」

島田「古川の奴、ドロボウ見習に滿洲に行くんだらう。チエッ！ 今にみんなでとつちめてやるから……」

春子「あたしの組にもゐるよ。大町つて地主のムスメよ。いつもキレイな洋服つけて先生にくつついてばかりゐるわ。とても生いきよ。」



島田「僕たちは奴等にまけてはならないよ。組合のオヂさん達は「僕達の世界がきて僕達が樂になるには、みんなよくプロレタリアの學問を勉強し、そして心と力を合はせてこの世の中をつくり變へるようにならなければならない」と勵ましてくれるよ。」

田中「プロレタリアの學問は日曜會で教へてくれるだらう。」

島田「うむ教へてくれるよ。」

春子「今度の日曜日からつれてつてくれない？」

島田「つれて行かう、二人共朝九時までに僕の家に來てくれないか。おくれないな。」

田中「大丈夫だ。」

春子「九時前にゆくわ。」

島田「ぢやさようなら。」

田中「さようなら。」

〔ピオニールの友〕昭和七年五月發行

## 八、一 口 噺

(一) 世界中でブルジョアに仕事をうばわれた労働者は約二千五百萬人。みんなて手をつなぐと地球を一まわりする。日本中の失業者の数は約三〇〇萬人。積みかさねると富士山の高さの二百倍以上。

〔ピオニール・トクホン〕第二輯 昭和七年三月發行

(二) 世界地圖を見て居たプロレタリアの子供「お母さん日本は世界で一番よい國かい？」

母驚いて「そんな事ありません！」

子供「だつて御覽日本が一番赤いよ。」

〔全農ピオニール夏季教程〕上級用

## 第七章 理科科教材

### 第一 概 観

理科科教材としては世の中を進化論的に見て大昔の人間の生活、地球の状態を述べ、將來共產主義社會の實現を信ぜしめんとするものがある。或は又ガリレオ、ファブル等の科學者の傳記を紹介して世の中の矛盾に就き科學的觀察をなさしめんとする教材もある。更に團結する動物の強いことを説くもの、蜂・蟻を人間社會に比較して女王蜂・雄蜂、雌蟻・雄蟻をブルジョア、働き蜂や働き蟻を労働者になぞらへ、ただ人間は蜂・蟻と異つて社會を變へる力があると言つて暗に革命を煽動し、ソヴェート・ロシアの讚美をするもの、或は又寄生蜂、小判いたゞきの如き狡猾な動物の生活状態を示してプロレタリアの裏切者に結び附け之を攻撃するもの等がある。

其の他に飛行機と軍艦を説明したものや一口噺の如きものまでもある。次に是等の例を掲げよう。

### 第二 教 材

#### 一、地球の表面もかはる、まして人間の社會もかはつてゆく

大昔から地球の上には河もあり海もあつて河は山から小石を流して行き海のそこはだんぐ／＼淺くなる。ところで非常



に長い間には前に海だつたところがいつのまにか山になり今まで陸だつたところが海にしづんでゆく。そこにすんでる生物もだんぐりはつてゆく、大昔の日本は海の底だつたさうだ。

人間の世の中も大昔は國なんてなかつたのが強いものがるばり出し、どれいができたり、武士のために百姓がいぢめられた時代や、今の世の中のやうに金持がるばつて世の中もこの次には働く人の天下になり共産社會が生れるのだ。世の中はかはる。

〔ピオニーロ夏休み帳〕 昭和七年八月發行

## 二、コドモノ大昔の世の中は？ クワガク

〔前略〕 大昔でも今と同じやうに金持と貧乏人があつて金持はいばり貧乏人はビイビイしてゐたでせうか？ ところが皆さん、おもしろいことに學校でならつてゐる歴史のはぢまりのすつと前には原始人はみんな力を合せて金持も貧乏人もなく、たのしくなかよくくらしてゐたのです。

大昔では〔中略〕すべてのものが親子夫婦兄弟だつたのです。〔中略〕こんな家族があつちに四つ、こつちに三つあつて大きな家族をつくり、みんななかよくくらしてゐました。女は木の實や魚をとりでかけ、男は山や森にかりでかれます。一匹の大きなえものがとれるとはじめは年より、次には男、女、子供たちにみんなにゆきわたるやうに肉をわけます。

田や畑をたがやすことを考へだすやうになると、田はみんな同じやうにわけ、田畑でできたものは一度あつめてそれから同じやうにわけます。決して、今のやうに金持だけ樂なまねして貧乏人だけくるしい思ふすることはありません。

〔兒童問題研究〕附録子供新聞 昭和九年二月一日附六號

## 三、科學者ガリレオ先生 物がたり

皆さんは學校で理科を習ふでせう。そして理科の時間に、色々面白い事や、珍しい事を教はるでせう。この理科を最初に考へ出した人は、ガリレオ先生と云ふ人です。ガリレオ先生は今から三百七十年許り前に伊太利と云ふ國のゼノアと云ふ町に生れました。先生は十七歳で大學に入り、そこで御醫者さんの學問やむづかしい算術や、その他色々の學問を勉強して、二十三の時に大學の先生になりました。それから十年の間一生懸命にしらべて、色々發明や發見をしました。

ガリレオ先生はどんな事を發見したかと云ふと、第一に物が落ちる時に下に行く程早くなると云ふ事です。又皆さんの知つてゐる時計を發明したのもガリレオ先生です。皆さんは望遠鏡と云ふものを知つてゐるでせう。遠くの物が大きく見える眼鏡です。ガリレオ先生の時には、五倍の大きさに見える望遠鏡しかなかつたのですが、先生は三十倍も大きく見える望遠鏡を發明しました。そして此の望遠鏡を使つて、お月様を見たら色々事が分つたのです。第一にお月様にも、私達の住んでゐる地球と同様に……山がある事、太陽には黒い點がある事、普通の人々が天の河と云つて居るの星の集りである事等です。

然しそれよりもつと面白い事は、ガリレオ先生が「地球は太陽の周りを廻つて居るのであつて、太陽は動かないのだ」と云つた事です。然しキリスト教の本には「地球の周りを太陽が廻るのであつて、地球は動かないのだ」と書いてあつたのです。その時の伊太利の役人は、皆キリスト教を信じて居ましたから、役人たちはガリレオ先生を大變憎んで、非常に苦しめました。そして最後に牢屋に入れました。然しガリレオ先生は決して自分の考へを變へませんでした。實に



偉い人です。何時の世でも眞先に正しい事を云つたり、正しい事をしたりする人は大ていひどい目に會ふものです。

〔兒童問題研究附録、子供新聞第一號 昭和八年八月一日發行〕

#### 四、昆虫の學者ファブルおじさん

皆さんは學校でならう理科が好きですか。かへるには頭と大きいど、どうがあつて、どうに四本のあしが着いてゐる」などとおほへるのもためになる事です。所がファブルおじさんは、もつと面白くて爲になる勉強法を考へ出したのです。

ファブルおじさんは、まづ蛙の卵をめつけてきます。そして水の中に生けて卵がおたまじやくしになり、足がはえて飛び出し、小さい蟲をバク／＼食べる有様を皆と一しよに眺めながら蛙の事を教へてくれます。

そうすれば本に書いてある事が本當か、うそか子供でも分るわけです。生きた實物をよく見ながら勉強すると云ふのがファブルおじさんのやり方です。

ファブルは今から十五年前九十二歳で死ぬまで、四十年の間こう云ふ方法で様々の昆虫や動物の生活を研究しました。それを書き集めたのが昆虫記と云つて世界で有名な本です。

子供の讀める様に書いた本ですから皆も學校で借りて讀んでごらん。

ファブルおじさんの實物からまなぶやり方は、只蟲や動物を研究する時だけでなく、どんな時にも役立つのです。學校でならつた事、何でも自分の身のまわりの事と引きくらべて本當かうそかためてごらん。

たとへば「かせぐに追ひつく貧乏なし」と云ひますね。だけど皆さんの身の廻りをよく見てごらん、汗水たらして働いてゐる人は皆金持でせうか。

〔子供新聞第二號 昭和八年九月一日發行〕

#### 五、團結する動物は強い

光成 信男

皆さんは學校で生物は皆生存競争をしてゐて、相手に勝たう勝たうと喧嘩してゐるものだ。とおそはつたでせう。しかし、幾ら残忍な動物だからと云つて、さう無暗やたら喧嘩ばかりしてゐるものではなく、現に蜜蜂や、白蟻のやうな蟲は立派に社會を作つて生活してゐるのです。否、あんなに生れながらに團體を作つてゐない、常に獨りほつちで棲んでゐる生物さへ、時に依ると一緒に仲よく群をなしてゐる事がありません。例へば、狼のやうな平常一匹一匹別に住んでゐる動物でも冬季雪が降る頃となると多數が群を作ります。又元來群をなさないで獨りで棲んでゐる蜂の類にしても、蜜蜂なんかと同じ様に團體を作つて棲んでゐる事があるのです。それから又早春櫻の木などに灰白色の繭を作つて其の中に澤山一緒に棲んでゐる毛蟲の如きも、大きくなると決して群をなさないのかゝわらず、小さい間は皆口から絲をはいて共同の巢を作ります。蜂にして見ても、親蜂が巢を作つた所は子供の蜂にとつても其處は巢を作るには便利なのに相違ありません。其處で若し其の場所が廣くて、澤山一緒にゐても邪魔になりさへしなければ、生れて出て來た子蜂は皆其處へ巢を作り、自然と其處へ團體が出來上つて來るのです。又前に述べた毛蟲にしても、早春卵が多數かへつた時あの小さな身體ではとうてい自分獨りを入れるだけの繭が作れるものではありません、と云つて繭を作らずにれば、夜など寒くて死んでしまはねばならないので、皆が自然一緒になつて繭を作ります。狼も春から夏にかけて食物の澤山ある時は、せいぜい夫婦で野山をうろついてゐる位のもですが、冬になつて野山が雪におうはれて食物がなくなると、馬や牛のやうな大きな動物をおそふ必要から、多數が一緒にゐるのです。

だから蜘蛛のやうに一緒に籠の中に入れて置けば、強い方がじきに喰つてしまつたり、一緒にして置かなくても、或



る種類のごとき交尾期になり、雌が雄を用済みになると喰つてのける程の残忍な蟲でも、決して生れた時から鬼子では  
ありません。即ち圓い繭のやうな小さな袋から出たばかりの子蜘蛛は、どんな残忍な種類でも決して共食なんかはしな  
いのみならず、極めて仲がよくて、一緒に共同の巢を造つて生活し一緒に一つの巢にゐたのでは獲物が足らなくなるま  
では離れません。だからめづらしい例ではありませんが、蜘蛛の種類に依つては一生共同で仲よく巢を造つてゐるの  
があります。アメリカ産のアネロシムス・ソシアリスと云ふ蜘蛛は、コーヒーの樹全體をすつぽりと包む程大きな巢を造る  
種類ですが、皆非常に仲がよくて一つの巢の中へ澤山棲んでゐて、自由に歩き廻りながら丁度蟻がやるやうに、互に會  
ふと觸髪をつき合せて、幾ら小さな餌でも一緒に仲よく分けて食ふと云ふことです。又、メキシコには、コエーゲル・  
グラガリスと云ふ蜘蛛の種類があつて、この蜘蛛の巢は此の地方では天井に吊して蠅捕の代用にされてゐますが、袋状  
になつて長さ數米に及び、其の中で數百匹の蜘蛛が仲よく暮してゐて、雨季の巢立迄に其處から一步も外へ出ないと云  
ふ事です。

それから滿洲邊の家の蔭のじめ／＼した所などに棲んでゐて人が刺されると死で了ふ恐しい蝮と云ふ蟲がゐりますが、  
此の蟲も蜘蛛のやうに、交尾後は雌が雄を食つて了ふ程残忍な蟲であるにかゝらず、生れた時からこんなに他の者を  
食つたりはしないさうです。

處で、以上は單に如何に個人主義の動物でも、仲間が仲よく生活してゐると云ふ例に過ぎないのですが、進んで此の  
仲間が共同の敵に會つた時に共同で防禦する例もあります。或る動物學者が、壁に巢喰ふ小蜂科の蜂を採集してゐます  
と、納屋の壁に數千匹の此の蜂が巢喰つてゐるのを見つけました。しかし此の蜂は元來一匹々別々に棲んでゐて、普通  
人が近よつても決して人を襲ふやうなことのない種類なので、學者はこれはいゝものを見つけたと思つて、近寄つた處、

意外にも其の數千匹の蜂がわつと襲ひかゝり、ほうほうの態で逃げ出さねばならなかつたさうです。だからまして社會  
生活をいとんでゐる人間であり、而も我利々々な金持にいじめられてゐる吾々プロレタリアはうつかり生存競争の理  
窟を信じて仲間喧嘩なんかしてはなりません。否、吾々の敵であるブルジョアと闘ふには此の小さな蜂の如く、又馬を  
もたほす事の出来る狼のやうに一致團結するより外道がないのです。それが證據にはゴリラのやうにかしこい動物で  
も、獅子の如き強い動物でも團結する事を知らぬ動物は段々亡びて行くのに、狼のやうに團結する動物は仲々數がへら  
ないと云ふことです。

〔少年戦旗〕 昭和四年十月號

## 六、蟻の社會

田川 一郎

蟻と蜂とはたくさん蟲の中で一番進んだ文明的な生活をしてゐます。

そこでブルジョア地主がこしらへた學校では、蟻の社會と人間の社會とをくらべて協力一致で働けといふことをよく  
教へられます。どういふわけがあるのか、今日はそれをみんな考へて見ることにしましょう。

蟻の社會は雄蟻と雌蟻と働蟻と三通りの蟻でゝきてゐます。その中雌蟻と雄蟻とは子供を殖すだけの役目で、そのほ  
かにはあまり用事もしないでブラ／＼してゐるのです。働蟻と云ふのは、この雌蟻や雄蟻の何百倍も何千倍もたくさん  
ゐて、年がら年中セッセと働いて、雌蟻や雄蟻を養つてゐるのです。毎年四五月になると雌蟻と雄蟻とは羽がはえて二  
匹づつ連れだつて旅行に出かけますが、働蟻は食物をさがしに出かけるほか一生旅行なんかできません。働かなければ  
殺されるか飢えて死ぬほかは無いです。どうだこれは。雌蟻と雄蟻がブルジョアと地主で働蟻はブルジョアや地主に  
しほられて年がら年中汗水たらして働いてゐる労働者と小作人のやうではないか。



働蟻は巢をつくることから食べ物を集めること、仔蟻を育てること、蟻の社会の大切なことは全部やり、その上他の蟻と戦争がはじまつた時はこの働蟻の軍隊が戦争にやられて、命がけで戦はされるのです。

蟻の社会にもイギリスやアメリカや日本やフランスのやうな強いものや、インドや支那や朝鮮のやうな弱いのがあつて強い蟻は弱い蟻になんとか彼とか言ひが、りをつけて大擧して押しかけて、弱い蟻の巢から腕づくで蛹や仔蟻を伴れて来てそれを育て、自分たちの奴隷にし、いろ／＼な苦しい仕事を言ひつけるのもあります。これは朝鮮や支那や臺灣を殖民地にしたのと似てゐます。

食べ物の奪ひ合ひから、二つの蟻軍が死物狂の大戦争をおつはじめることもあります。どつちの蟻もバタ／＼と噛み殺されます。この戦争でたゞかふものは、旅行したりブラ／＼して年中遊んで食べてゐる雌蟻や雄蟻ではなくてみんな労働者や小作人などの働蟻です。

巢の中でブラ／＼してゐる雌蟻や雄蟻のためにせつせと働き、おまけに彼等の食べ物のために命がけの大戦争をさせられるのです。ブルジョアや地主の戦争によく似てゐるではありませんか。

蟻はどうして住居をつくるか。

一匹々働蟻が小さな土塊を口で噛みとつては外に運び出して造るのです。何百何千といふ働蟻の苦しい労働で立派な地下の街を造り上げるのです。その地下の街は地下数尺から十数尺にも及んで、全體が何階にも何階にも分れ、たくさん的小部屋が設けてあり食料品部屋、仔蟻部屋、女王部屋といふ風にわけられてゐます。

これを人間社会で考へて見るとどうなりますか。關東大震災で焼野原になつた東京が、またたく間に復興して、いまのやうに立派な街が出来上つたのは誰の力でせう？ 何十萬、何百萬の労働者の汗と油の労働ででき上つたのです。

かういふやうに比べて考へてみると蟻の社会と人間の今日の社会とはまったくよく似てゐます。そこにはブルジョアや地主のやうなものがゐる労働者や小作人を支配して、しほり取つて食つてゐます。

ブルジョアの學校では蟻の話をするときにはこんなことは一口も言はないで蟻の社会では上下が心を一つにしてゐて、それが美しいだの働蟻は少しも不平を言つたり、ストライキや小作争議をおつはじめたり、ピオニールをこしらへるやうなことをしないでいかにも楽しさうに協力一致して働いてゐるだの、「稼ぐに追ひつく貧乏なし」だのと、ブルジョアや地主のためにしほられこき使はれても不平を云はずに働かせようと云ふ考へで、蟻の話をするのです。だから誰のためになるやうに蟻の話をするのかみんなわかつたでせう。

蟻や蜂の社会にも女王や王と労働する働蟻や働蜂がゐる。人間の社会だつてあたりまへだ。それに不平を云つたり、労働者や農民の社会をこしらへようといふのはまちがつてゐると學校では教へられます。

けれども人間がほかの動物とちがふところは、人間には物を考へることができて、しほられたり失業したりする社会を變へてブルジョア地主のゐない働くものだけの正しい社会をこしらへる力をもつてゐることです。

ソヴェート・ロシアにはほんとにブルジョアや地主が一人もゐません。ソヴェート・ロシアは地圖でもわかるやうに世界の六分の一にあたる大きな面積です。そこは労働者と農民と兵士とだけの社会ですから、不平もないし失業もなく一日たつた七時間働くだけで貧乏をしないからみんな大喜びで協力一致で働いてゐます。子供はピオニールに入つてみんな愉快さうです。

ソヴェート・ロシアのやうな國でこそ、働蟻のやうに働くことは自分のためにもみんなのためにもなるのです。

ソヴェート・ロシアのやうな所が支那の一部にも出来てゐるし、そのほか、プロレタリアの力の強くなつたところで



はそれこそ働蟻や働蜂のやうに労働者や小作人が力を合せてプロレタリアの國をつくるためにブルジョアや地主と戦つてゐます。

〔少年戦旗〕 昭和五年十二月號

### 七、あな蜂の話

光成信男

（あなたがたは何故お砂糖がなめられないか）

田の畔などに巢をくつてゐるあな蜂の一種類にペロンガスター・ジャンシースと云ふ蜂があります。この蜂は最初雌がひとりです。そして巣ができあがるとその中に卵を産みつけるのです。ところが、不思議なことに、一番はじめに生れた雌蜂だけは母親とすつかり同じでありながら卵を産むことが出来ません。その代り一生懸命お母さんの蜂の手傳をして巣を大きくしたり、後から産れて来た弟や妹達に食物をやつたりするのです。つまり、早く生れて来た長女だけは働蜂になるのです。そして後から生れて来た者はお母さんと同じようにやがて分れて自分で巣を造りその中の女王蜂となつて卵を産むことが出来るのです。

扱てこれはどう云ふわけかと云ひますと、お母さんの蜂が初めて巣を造つた時に産みつけられた蜂の赤ちゃんはお母さんがひとりです。そして巣を造るのに忙しいために、外へ出て食物をさがして来るひまがないので、十分、食物をたべないのです。その爲めに身體が弱くなつて、大きくなつても卵を産む力がなくなつて了つたのです。で後から産れた妹達はこの姉さんがお母さんの手助けをするおかげで、お母さん獨りの時よりは澤山の食物がもらへるので、大きくなつて一人前の雌蜂となつた時には卵を産む女王蜂になる資格がらつばに出来て来るのです。

これとはちよつと違ひますが、蜜蜂も後繼の女王を育てるには特別に大きい室を作りそして食物も外の働蜂よりは

滋養分の多いものをたべさせるのです。かう云ふことから考へて見ますと、蜂の王様は産れたばかりでは決して王様になることが出来ないのです。そしてつまり姉さんや働蜂のお蔭で女王様になれたに過ぎないのです。

人間社會でも地主やお金持が僕等より太つてりつばに見えたとてもそれはみんな僕等働く者のお蔭で、あなつたのに過ぎないのです。

蜜蜂のことを云つたから、ついでに皆さんの大好きな砂糖のことを考へて見ませう。あの砂糖は皆さんもよく御存知の通り大部分は臺灣で出来る甘蔗から採られるのです。ところが臺灣へ行つてごらん下さい。廣い廣い甘蔗畑は概日本のお金持の持物となつて了つてゐますから。しかも、その甘蔗がたくさんとれる臺灣を誰が日本のものにしたかと云へば、それはみんな僕等のお祖父さんやお父さんが、今から三十何年前に滿洲や臺灣へ出懸けて行つて血を流して支那と戦争をしてやつたお蔭だつたのです。

ところで蜂が女王様に特別美味ものを奉るのには仲間の子孫をふやすと云ふ必要があつてのことなのです。が人間が大切な血を流してまで甘蔗畑を外國から奪ひ取つてそれをお金持に進上しなければならぬと云ふ理窟は少しもないのです。それどころかお金持のために甘蔗畑を外國からとつてやつたばかりに、お金持はその畑からとれた砂糖を高く高く賣りつけては、むやみにお金もうけするために、皆さんはあの好きな砂糖をろく／＼なめることが出来なくなつて終つたのです。

皆さんよ、餘り金持から砂糖のやうになめられないやうにしようではないか!!

〔少年戦旗〕 昭和四年七月號

### 八、寄生蜂の話



金持と地主と泥棒と乞食と坊主とは人間の中の寄生蟲です。なぜかと云ひますと、金持は自分で何にもしないで、職工に美しい着物や持物を作らせてお禮も云はないでそれ等の品物を身につけてぶら／＼と遊び、地主は小作人が眞黒くなつて汗水たらして作つたお米を大方取上げて了ひますから。又泥棒は皆が働く頃眠つてゐて、人の眠る頃起出て他人が一生懸命働いて得たお金をだまつて失敬して了ひ、坊主は金持や地主の手先になつて嘘だらけの説教をして吾々の働いて得たお金をだまして持つて行きますから。そして又乞食は人をだましたり盗んだりこそはしないが何にもしないで吾々の餘物を食べて生きてゐますから。處で、こんな事は獨り人間の社會にだけではなく、蟲の世界にも珍らしくありません。

寺の門口などに圓い大きな巢をくつて人間の中の寄生蟲である坊さんの頭を時々刺す熊蜂の親類筋に當る鼈甲蜂科の蜂があります。此の蜂は蜜蜂なんかと異つて袋蜘蛛をとつて食ふのです。御承知のやうに袋蜘蛛と云ふのは普通の蜘蛛のやうに、網をはらないで日蔭の土地に小さな穴を掘つて圓筒狀の袋を作つて其の中に棲んでゐる蜘蛛です。扱て此の種の蜂が袋蜘蛛を見つけるなり、注意深くねらひを定めて蜘蛛の背に乗りかゝるのです。と、蜘蛛は應につかまれた鳩のやうに一時びつくりして氣を失ひます。そこをつけ込んで先づ第一にあの蜘蛛の口の兩側にある毒を持つた牙の中へ自分の尻から同じく毒を持つた刺毛を突きさします。と、もう蜘蛛の毒牙はきかなくなり、次いで今度は胸と腹との境の處へ第二回の毒液注射をします。すると蜘蛛は最早八本の肢も動かすことが出来なくなつて完全に人事不省おつと蟲事不省におちいつて了ふのです。蟲事不省におち入らした後此の蜂は蜘蛛の巢の中へその蜘蛛を引きすり込み蜘蛛の腹へ自分の卵を産みつけて出て來るのですが、穴から出た後は更に其の穴の口に土をかけてふさいで置きます。

と、一週間か十日でその卵は孵化つて幼蟲となり、幼蟲となつた蜂はその蟲事不省になつてゐる蜘蛛をちびり／＼と食つて成蟲になるのです。つまり、蜂が毒を刺毛で注射するのは蜘蛛を殺して了つては幼蟲が卵からかへつた頃には腐敗して餌にならないので、一種の防腐装置をやつた事になるのです。だから 賢い種類の蜂によつて充分毒を注射された蜘蛛は蟲事不省のまま四十日位眠つてゐると云ひます。しかし此の蜂の毒は中々きついと見えて時に途中で蜘蛛が氣絶から醒めて動き出す事がありますが、最早眼は見えなくなつてゐるさうです。

處が、面白いことに、此の鼈甲蜂の一種にボンビュラス・カリベアタスと云ふのがありますが、此の蜂が或時、こんな風にして一匹の袋蜘蛛を見つけて、それを捕へて蜘蛛の巢の中へ引づり込みました。と其時さつきから此の蜂につきまといつてゐたセロバレス・クリブラタと云ふ小さな蜂があわてて蜘蛛の巢の中へ消へました。そして數秒間巢の中へ留つた後再び巢から出て來たので 直ちにその蜂を捕へると共に、袋蜘蛛の巢をあばいて先のボンビュラス・カリベアタスと蟲事不省に陥ちた蜘蛛とを捕へて見ました。だが、その蜘蛛の腹には先に自から捕へたボンビュラス・カリベアタスの卵でなくて、後から這入つて行つたセロバレスの卵が附着してゐたのです。即ち八日目に果してセロバレスの幼蟲が孵化つてゐました。何の事はない此の小さな蜂は寄生蟲と云ふよりも一種の泥棒です。

けれ共、是等は同じ泥棒でもこそ泥の方で、サリュース・ヴァクリーと云ふ蜂は他の蜂の刺した蜘蛛を自分の巢の中へ盗んで來るばかりでなく、堂々と大喧嘩をやつた末うばひ取るのです。でも、時に喧嘩に敗けさうになると、卵だけその蜘蛛の腹へ産みつけて置いて逃げ出すと云ひますから、まアこれこそ昆虫界の強盗と云ふ奴でせうね。

以上は人間で云ふと資本家、地主、泥棒に相當するのですが、同じ蟲の中でも乞食や坊主に相當するものもあります。それはセンチコガネとか埋葬蟲と云つた糞や動物の死骸の腐敗したものを食つて生きてゐる甲蟲に寄生してゐる飛だに



です。此のだにはセンチコガネや埋葬蟲の身體に飛乗つて方々を旅行し、是等の甲蟲の食物を少しおすそわけして貰つては喰ひ、又甲蟲が飛び立つ時には急いでその身體に飛乗つて他の食物のある所へ行くのです。

〔少年戦旗〕 昭和四年八月號

### 九、小判いただきの話

みなさん小判いただきの話といつたところで別段小判をいただいたりもつたりする話ではないんです。頭のいただき、つまり頭のてつべんに小判のやうな形をした吸ひつくものをもつてゐる魚のことをいふのです。

小判いただきは海にすんでゐる小さな魚です。頭のてつべんについてゐる小判型の吸盤で大きな魚の胴つ腹へびたりとうまく吸ひついたら、その魚といつしよに海の中をどこまでも旅行して歩く實にふしぎな魚です。

小判いただきが一番吸ひつくのは鮫です。鮫といふ魚は大きくて強くてとても物すごい歯をもつてゐるので、かの仲間では一等こわがられてゐる魚ですから鮫の體へ吸ひついてゐるさへすれば他の魚から害を加へられる心配がないからです。それに鮫は魚の中でも一番よくのふかい、とても大きくひをしたがる魚です。で、しじゅう他の魚を追ひまはしては片端からばくばく喰べてまづいところや、いらぬところは惜氣もなくばつばと海の中へ吐き出します。その度毎に小判いただきはそれをひろつてたべるのです。

そんな恐しい鮫の體へ一生けんめい吸ひついてゐるのもつまりは鮫の喰ひ荒した肉のおこほれをひろつて喰べたいからなのです。鮫の口から喰べのこした魚の肉がばつと海の中へ吐き出されますと、小判いただきは大いそぎで鮫の體からはなれます。そして肉のくづへ飛びつくが早いか又あわて、鮫の體へ吸ひつきます。もし下手にまごまごしてゐてお

いてきほりを喰はされたらこんどは一人で泳いで廻らなければならぬばかりか、もう鮫のおこほれをいたよくわけに行かなくなると大へんですから。

つまり小判いただきは働かないでごはんをたべ、體を動かさないうで泳ぎまわり、その上鮫の威光を笠にきて他の魚に威張らうといふひどくづるい考へからかうしてづうづうしく鮫に吸ひついてゐるのです。小さくせに全くなんといふづるい魚でせう。だが、づるいのは何も小判いただきに限つたわけではありません。人間の中にだつてこれ以上づるい奴がたくさんゐます。

たとへば同じ工場に働く労働者の中にも社長や上役にうまく取り入つてまるで吸つくやうにくつついてその威光をかさにむやみと威張らるばかりか社長や上役が労働者からしほり取つて、せつせと腹をこやしてゐるそのおこほれをほんのちよつびりもらつては、一人でとくいなつてゐる奴もゐます。

又農村でも同じ仲間の小作人達が地主にしほられて苦しんでゐるのに自分一人、地主の家に出入りして一生けんめいごきけんをとつては足袋や着物のおふるなんかめぐんでもらつて、よろこんでゐる馬鹿もあります。みなさん。こんな下等な奴を見附けたらさつそく小判いただきといふ綽名をつけてみなさんの仲間からおつぼり出してやりなさい。

又小判いただきはとても吸ひつくのが好きな魚です。そして一ど吸ついたら一寸引張つたぐらいではなかなかなはなれません。つまり吸盤に非常な力があるのです。それを知つてゐる南洋の土人達は小判いただきをつかまへると糸でしばつて釣竿へつけて海の中へほうり込みます。そして小判いただきが他の魚へ吸ひついたらそこを見はからつては糸を引上げます。すると釣針に餌をつけて釣るよりもつとたやすく魚がつかれるのです。

労働者や小作人の中にもどうかすると資本家や地主の手先になつて自分達の仲間をうまくだまして資本家や地主の方



へさそひ込まうとする不心得な奴がります。人間の手先になつて仲間の魚を釣り上げる小判いただきに何とよく似てるではありませんか。こんなやつもやはり小判いただきといふ綽名をつけてうんとひどいめにあわせてやらうではありませんか。

〔少年戦旗〕 昭和五年八月號

### 十、飛行機と軍艦

飛行機が威勢よく飛んでゐるのを見ると諸君は覺えず手を舉げてバンザイを叫びたくなるでせう。また軍艦の繪でも見るととても素晴らしいと思ふでせう。けれども飛行機や軍艦はイザと云ふ時には政府の手先となつて政府に反對するものは片っぱしからやつつけてしまふ道具なのです。

飛行機は今から二十八年前(西曆一九〇三年)に發明されましたが今では戦争道具の中で一番大切なものになつてゐます。飛ぶことが早く一番肝心な所へ飛んで行つて爆弾を投げ落しますから軍艦も大砲も叶ひません。今まで一番早く飛んだ飛行機は、一時間に三百五十哩で汽車の七倍も早く東京から大阪まで一時間で飛ぶわけです。また一番長く飛んだ飛行機は十七晝夜で半月以上も空にゐたわけです。

日本の戦鬪用の飛行機はザット一千臺でイザ戦争となると二千臺は出て来るでしょう。民間には百臺ほどありますがこれもイザとなれば自動車などと同じ様に政府が勝手に使ふでせう。

飛行機から投げ落す爆弾は恐ろしいものばかりでどんな鐵でも石でも見てゐるうちに油のやうに蕩かすものもあれば鼻や眼や耳から血を吐いて死ぬ毒瓦斯や體がすぐさま腐つて骨ばかりになる毒ガスなどとても澤山あります。

軍艦には飛行機を飛ばせたり、又降りて来るために使ふ「航空母艦」などといふものもあります。或航空母艦などは百五十萬圓もかかつてゐますが私たち一ヶ月の生活費十圓とするとその一隻の金で十五萬人の者が一ヶ月づつ食べられます。

飛行機や軍艦なども、みんなお父さんや兄さんの納める税金から政府が勝手に作つて勝手なことに使はうとしてゐるのです。

〔全農ビオニール夏季教程〕 上級用

### 十一、一 口 噺

(一) 先生「寄生蟲といふのは他の動物に頼つて、自分では働かないで生きて行く動物です。例へば、だに、しらみ、南京蟲……。」

生徒「それからお金持! 何故? お金持は(地主、資本家)飯を食べるけれども働きません!」

〔少年戦旗〕 昭和四年六月號

(二) 先生「犬の種類はいくつありますか。」

労働者の子供「ブルドッグ、土佐犬、チン。……それから人間の犬もゐます。」

先生「人間の犬つてどんな犬ですか?」

労働者の子供「お父さんの後をつけて何かかき出さうとする刑事と云ふ種族です。」

〔少年戦旗〕 昭和四年七月號



## 第八章 圖畫科教材

### 第一概 觀

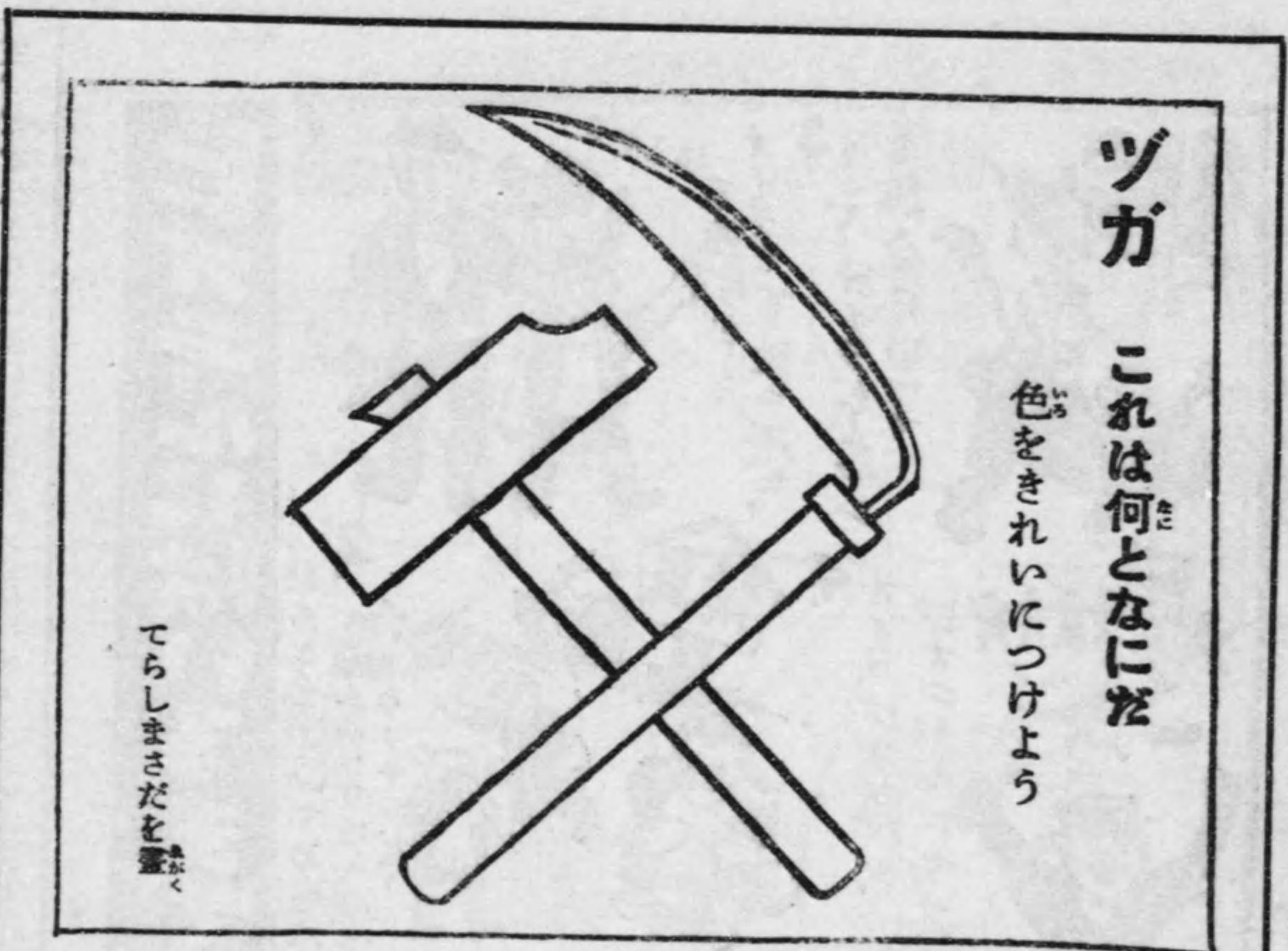
圖畫科に於いては彼等は毎日みんなの見る人例へば父、母、同志、地主暴力團、先生を畫かしめ、或は「おいらの村」の情景を畫かしめ地主對小作人の生活状態を比較して知らず知らずの中に階級意識を注入する方法を用ふるのである。又「きみがピオニールになる迄」「元氣なピオニール」「みんなの闘つてゐる所」を畫かして闘争意識を強化する時もある。

其の教材としては次に掲げる如き「これは何となにだ」の如く鎌とハンマーを示したものの、「マチブセ」「ピオニールにはいるまで」「ピオニールは演説會」等の如く闘争状態を畫いたもの、漫畫とか組織圖の如き兒童の興味に訴へた畫、或は「俺達の偉人」と題してマルクス、レーニンの像等がある。是等は大人の畫いた繪であるが、其の他に兒童の作品も亦教材として用ひられる。そしてそれらの繪は階級意識を中々巧みに表はしてゐて、之を見る兒童に大きな影響を與へるであらうことは容易に察せられる。

又彼等は繪畫と同時に書き方を利用し「土地を農民に返せ」とか或は「ピオニール萬歲」とかの左翼的文字を書かせることがある。

### 第二教 材

一、これは何となにだ（「全農ピオニール夏季教程」下級用）



二、マチブセ（「全農ピオニール夏季教程」下級用）





三、ピオニールにはいるまで(全農ピオニール夏季教程「下級用」) 四、ピオニールは演説會(全農ピオニール夏季教程「下級用」)

大人は共同耕作だ。ピオニールは演説會

六、全農組織圖 (全農ピオニール夏季教程「上級用」)

本部  
支部  
個人

全農組織圖

五、演習「ロスケ生立ノ記」 (少年農族「昭和五年五月號」)

生立ノ記 (8)





八、高等係が労働者におしかけた所  
 九、ポスターハリ(少年戦旗)昭和四年七月號)



十、フレフレおいらの同志  
 (少年戦旗)昭和五年六月號)



十一、賃銀値下(少年戦旗)昭和五年七月號)



十二、全農民組合主催児童展覧會に於ける撤回作品の1部